京都市内遺跡詳細分布調査報告

平成 26 年度

2015 年 3 月

京　都　市　文　化　市　民　局

巻頭図版１　全景　（第Ⅳ章－６）

図版

土塁想定図（1:1250）（「京都惣曲輪御土居絵図」（odoi2-2・3）京都大学総合博物館蔵）

ご あ い さ つ

京都市は，旧石器時代から近現代に至るまで，日本の歴史を考えるうえで欠かせない多くの有形無形の文化財を有しています。特に平安京建都以降は，長く我が国の中心的役割を果たし，その重ねられた時間の中で育まれた華麗かつ繊細な文化が，今なお伝え続けられている世界有数の文化都市でもあります。

埋蔵文化財も同様に，市街化区域では全体の 4 割を超える区域が，埋蔵文化財包蔵地に該当します。こうした幾層にも積み重なった遺跡は，本市でしか得られない情報を提供し，我が国の歴史や文化を理解する上で欠かすことができない国民共有の財産といえます。

本市では先人が残した貴重な埋蔵文化財を適切に後世に伝える責務を果たし，将来にわたって日本文化を国内外に発信していけるようその活用に取り組んでいます。

この度，平成 26 年度に文化庁の国庫補助を得て実施した埋蔵文化財の調査成果をまとめた報告書を作成いたしました。この報告書が，京都の歴史と文化財への理解と関心を深めるために，広く活用いただければ幸いに存じます。

文末になりましたが，各調査の実施にあたり，御理解，御協力を賜りました市民の皆様と御指導を賜りました関係機関の皆様に厚く御礼申し上げます。

平成 27 年 3 月

京都市文化市民局文化芸術担当局長

奥　美里

例　言

1　本書は，京都市が文化庁の国庫補助を得て実施した平成26年度の京都市内遺跡詳細分布調査報告書である。

詳細分布調査は，平成26年３月31日まで京都市が公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所に委託し実施した。

平成26年１月から12月まで実施した詳細分布調査のうち，重要な成果のあったものについて本文で報告している。

2　本文の執筆分担は，本文の末尾に記している。

3　本書報告の調査のうち，基準点測量した調査の方位および座標は，世界測地系平面直角座標系Ⅵによる。標高はT．P．(東京湾平均海面高度）による。またこれ以外の場合は，既存公共物などを仮基準点（KBM）として用いている。

4　本書で使用した地図は京都市発行の都市計画基本図（縮尺１／2,500）を調整し，作成したものである。

なお，図版に使用した地図の縮尺は以下のとおりである。

図版１～13　１／8,000　　図版14～28　１／10,000

5　本書で使用した遺物の名称及び形式・型式は，一部を除き，小森俊寛・上村憲章「京都の都市遺跡から出土する土器の編年的研究」『研究紀要』第３号，（財）京都市埋蔵文化財研究所，1996年に準拠する。

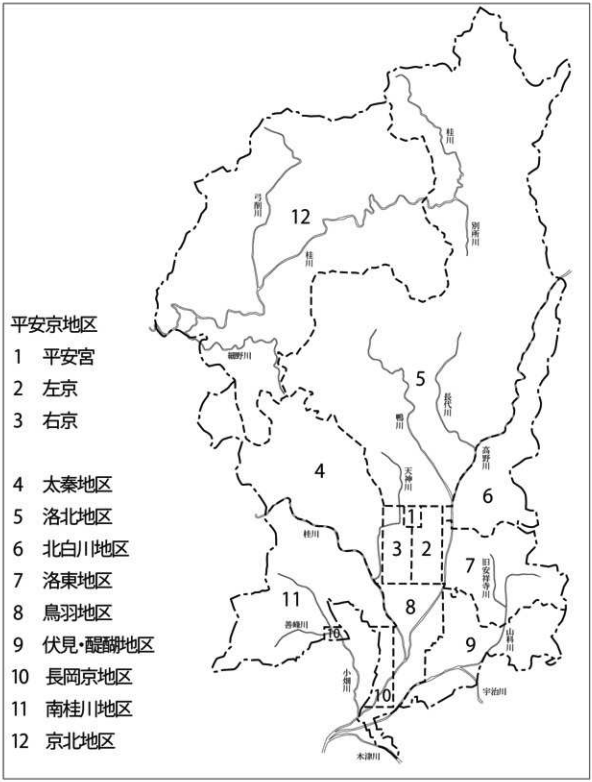
6　本書で使用した土色名は，農林水産省農林水産技術会議事務局監修の『新版標準土色帖』に準じた。

7　調査一覧表では各時代の「時代」は省略しており，調査日については簡略に記しているものもある。遺跡名は平安宮・平安京跡については重複する遺跡は省略し，官衙・条坊を優先して記載し，官衙・条坊が複数にまたがるものは代表するものを掲載した。長岡京跡については，官衙・条坊を優先し，複数にまたがるものは代表するものを掲載した。

8　遺物整理にあたっては，岩本淳子・上茶谷美保・上別府亜紀・菅生春美・西山史一・籾井巧・義井良作・吉本健吾の協力を得た。

9　調査及び本書作成は，京都市文化市民局　文化芸術都市推進室　文化財保護課が担当し，(公財）京都市埋蔵文化財研究所の協力を得た。

地区設定概念図


平安京地区
1　平安宮
2　左京
3　右京
4　太秦地区
5　洛北地区
6　北白川地区
7　洛東地区
8　鳥羽地区
9　伏見・醍醐地区
10　長岡京地区
11　南桂川地区
12　京北地区
桂川
弓削川
12
桂川
鴨川
5
長代川
鴨川
高野川
天神川
4
6
桂川
1
3
2
7
旧安祥寺川
11
8
善峰川
10
9
山科川
小畑川
宇治川
10
木津川

本 文 目 次

頁

Ⅰ　調査概要…… 1

Ⅱ　平安京左京…… 3
1　平安京左京四条四坊八町跡・烏丸御池遺跡（14H134）…… 3
2　平安京左京六条二坊五町跡（13H529）…… 6

Ⅲ　平安京右京…… 9
1　平安京右京一条四坊九・十町跡・史跡名勝妙心寺庭園・史跡妙心寺境内（25N060）… 9
2　平安京右京四条二坊十一町跡・壬生遺跡・御土居跡（13H408）…… 10
3　平安京右京六条一坊五町跡・六条大路跡（14H149）…… 28
4　平安京右京六条三坊十四町跡・西京極遺跡（13H521）…… 30
5　平安京右京六条四坊八町跡・西京極遺跡（14H180）…… 33
6　平安京右京七条二坊十五町跡（13H662）…… 36

Ⅳ　その他の遺跡…… 43
1　植物園北遺跡（14S029）…… 43
2　大徳寺旧境内（13S674）…… 47
3　上京遺跡（13S615）…… 50
4　白河街区跡・岡崎遺跡（14S001）…… 52
5　尊勝寺跡・白河街区跡・岡崎遺跡（14R117）…… 57
6　伏見城跡（14F111）…… 60

調査一覧表…… 67
報告書抄録…… 90

図 版 目 次

図版１～26　調査位置図

図版１　平安宮

図版２　平安京左京北辺～三条　一・二坊

図版３　平安京左京北辺～三条　三・四坊

図版４　平安京左京　四～六条　一・二坊

図版５　平安京左京　四～六条　三・四坊

図版６　平安京左京　七～九条　一・二坊

図版７　平安京左京　七～九条　三・四坊

図版８　平安京右京北辺～三条　三・四坊

図版９　平安京右京北辺～三条　一・二坊

図版10　平安京右京　四～六条　三・四坊

図版11　平安京右京　四～六条　一・二坊

図版12　平安京右京　七～九条　三・四坊

図版13　平安京右京　七～九条　一・二坊

図版14　伏見城跡・下三栖遺跡・板橋遺跡・桃陵遺跡・向島城跡・下三栖城跡

図版15　伏見城跡・桃山古墳群（永井久太郎古墳）・向島城跡

図版16　円宗寺跡・太秦馬塚町遺跡・常盤仲之町遺跡・広隆寺旧境内

図版17　上終町遺跡・北白川廃寺・池田町古墳群・北白川追分町遺跡・
北白川追分町縄文遺跡・追分町古墳群・吉田本町遺跡・吉田泉殿町遺跡
吉田上大路町遺跡・吉田二本松調査遺跡・聖護院川原町遺跡・
白河街区跡・白河南殿跡・得長寿院跡・尊勝寺跡・延勝寺跡・法勝寺跡・
岡崎遺跡・東光寺跡・名勝平安神宮神苑

図版18　御土居跡・将軍塚古墳群・六波羅蜜寺境内・六波羅政庁跡・
法住寺殿跡・南日吉町遺跡・鳥部（辺）野・鳥戸野古墳群

図版19　鳥羽離宮跡・鳥羽遺跡

図版20　長岡京跡・東土川遺跡・羽束師遺跡・久我神社

図版21　１　上総町遺跡・上京遺跡・寺ノ内旧域・寺町旧域・公家町遺跡
２　大徳寺旧境内　３　御土居跡

図版22　１　福西古墳群・大原野松本遺跡・上里北ノ町遺跡
２　南荒木古墳　３　史跡樫原廃寺跡

図版23　１　史跡・名勝嵐山・嵯峨遺跡・嵯峨折戸町遺跡・壇林寺跡
２　中久世遺跡・大藪遺跡・下久世構跡・長岡京跡

図版24　1　植物園北遺跡・御土居跡

2　特別史跡・特別名勝鹿苑寺（金閣寺）庭園・史跡御土居跡・平野神社・北野遺跡・北野廃寺・上京遺跡

図版25　1　中江古墳群　2　中臣遺跡・中臣十三塚　3　史跡醍醐寺境内・

図版26　1　広沢古墳群　2　円宗寺跡・円乗寺跡・仁和寺院家跡

3　岩倉中在地遺跡　4　八幡古墳群・栗栖野瓦窯跡

5　史跡賀茂御祖神社境内　6　一乗寺西浦畑町遺跡

7　如意寺跡　8　法成寺跡・寺町旧域

図版27　1　法性寺跡　2　法性寺跡・鳥部（辺）野

3　西野山古墓　4　山科本願寺南殿跡・大塚遺跡

5　史跡随心院境内　6　唐橋遺跡　7　深草遺跡

8　木津川河床遺跡

図版28　1　伏見稲荷大社境内・稲荷山古墳跡　2　深草寺跡　3　向島城跡

4　太閤堤（小倉堤・槙島堤）　5　長岡京跡　6　長岡京跡・淀城跡

7　史跡・名勝嵐山・嵐山谷ヶ辻子町遺跡　8　革嶋館跡

図版29～35　写真

図版29・30　遺構　平安京右京四条二坊十一町跡・壬生遺跡・御土居跡（13H408）

図版31　遺構　平安京右京七条二坊十五町跡（13H662）

図版32　遺構　尊勝寺跡・白河街区跡・岡崎遺跡（14R117）

図版33・34　遺構　伏見城跡（14F111）

図版35　遺物　白河街区跡・岡崎遺跡（14S001）

挿　図　目　次

14H134
図1　調査位置図 …… 3
図2　調査区位置図 …… 3
図3　A-A'間遺構断面図 …… 4
図4　出土遺物実測図 …… 5
13H529
図5　調査位置図 …… 6
図6　遺構位置図 …… 6
図7　A・B断面図 …… 7
図8　C断面図 …… 7
25N060
図9　調査位置図 …… 9
図10　調査区位置図 …… 9
図11　出土遺物実測図 …… 9
13H408
図12　調査位置図 …… 10
図13　御土居跡発掘調査地点 …… 11
図14　調査区配置図 …… 13
図15　調査区平面図・上層 …… 14
図16　調査区平面図・下層 …… 15
図17　調査区北壁断面図 …… 16
図18　調査区南壁断面図 …… 18
図19　B-B'間断面図 …… 20
図20　出土遺物実測図・拓影 …… 22
図21　遺構変遷図 …… 23
図22　土塁構築模式図 …… 24
図23　遺構配置変遷図下層 …… 25
14H149
図24　調査位置図 …… 28
図25　調査区位置図 …… 28
図26　A・B断面図 …… 29

13H521

図27　調査位置図 …… 30
図28　遺構位置図 …… 30
図29　竪穴建物断面図 …… 31
図30　1987年試掘調査遺構平面及び断面図 …… 32

14H180

図31　調査位置図 …… 33
図32　遺構位置図 …… 33
図33　A-B-C間遺構断面図 …… 34
図34　D-D’間遺構断面図 …… 35

13H662

図35　調査位置図 …… 36
図36　調査区位置図 …… 36
図37　調査区断面図 …… 37
図38　調査区平面図 …… 38
図39　掘立柱建物01実測図 …… 39
図40　井戸02平面及び断面図 …… 40
図41　井戸02出土遺物実測図 …… 41
図42　溝03出土遺物実測図 …… 42

14S029

図43　調査位置図 …… 43
図44　調査区位置図 …… 43
図45　断面図 …… 44
図46　出土遺物実測図 …… 45

13S674

図47　調査位置図 …… 47
図48　遺構位置図 …… 47
図49　遺構平面及び断面図 …… 47
図50　紫野龍寶山大徳禅寺方鏡 …… 48

13S615

図51　調査位置図 …… 50
図52　調査断面位置図 …… 50
図53　瓦器椀実測図 …… 50
図54　遺構断面図 …… 51

14S001
図55　調査位置図 …… 52
図56　調査断面位置図 …… 52
図57　遺構平面及びA-A'間断面図 …… 53
図58　B-B'間遺構断面図 …… 54
図59　出土遺物実測図 …… 55
14R117
図60　調査位置図 …… 57
図61　調査位置図 …… 57
図62　No.1平断面図 …… 58
図63　遺物実測図 …… 59
14F111
図64　調査位置図 …… 60
図65　北側遺構位置図 …… 60
図66　A-B-C-D間遺構断面図 …… 61
図67　E-F，G-H間遺構断面，平面図及びI-J間遺構断面図 …… 62
図68　南側遺構位置図 …… 63
図69　K-L-M-N間遺構断面図 …… 64
図70　伏見城復元図とこれまでの調査地 …… 65

挿　図（写　真）目　次

14H134
写真1　路面検出状況（北東から）……5
写真2　A-A'断面（東から）……5
13H529
写真3　A-A'間護岸遺構（南から）……7
写真4　B-B'間護岸遺構（南から）……8
14H149
写真5　六条大路北側溝（東から）……29

13H521
写真6　竪穴建物（南から）…… 31
14H180
写真7　竪穴建物１南側壁溝と竪穴建物２南側壁溝（東から）…… 35
写真8　B-C間断面（北東から）…… 35
写真9　井戸の枠板と薄板 …… 40
14S029
写真10　B地点土器出土状況（東から）…… 46
写真11　C地点土器出土状況（北東から）…… 46
13S674
写真12　濠１（東から）…… 48
13S615
写真13　A-A’間断面（東から）…… 51
写真14　ピット２完掘状況（東から）…… 51
写真15　B-B’間断面（南から）…… 51
14S001
写真16　溝１A-A’間断面（西から）…… 56
写真17　溝１B-B’間断面（東から）…… 56

表　目　次

表1　詳細分布調査件数 …… 2
表2　御土居跡発掘・試掘調査一覧表 …… 12
表3　遺物概要表 …… 89

Ⅰ 調 査 概 要

本書は文化庁国庫補助事業に伴う平成26年度の京都市内遺跡詳細分布調査報告書である。本報告書では平成26年１月６日から３月31日までの平成25年度分129件，平成26年４月１日から12月26日までの平成26年度分345件をあわせて報告する。調査件数は474件である。京都市内を便宜的に地区分けした調査件数は，表１のとおりである。

調査の総件数は，平成25年が552件であり，平成24年の473件から大幅に増加していた。しかし，本年は474件と平年並みの件数となった。以下，各地区の概要を述べる。

平安宮　平安宮域では，平安宮跡，聚楽第跡，鳳瑞遺跡，聚楽遺跡において調査をおこなった。平安宮内膳司跡（13K593）で平安時代中期～後期の土坑を検出した。

平安京左京　左京では，四条四坊八町跡・烏丸御池遺跡（14H134）と六条二坊五町跡（13H529）の２件の概要を報告する。他に三条四坊十一町跡・烏丸御池遺跡（13H172）や六条一坊十三町跡・中堂寺城跡では平安時代末期～鎌倉時代の土坑，二条二坊二町跡・二条城北遺跡（14H219）で室町時代の南北溝を検出した。また，三条三坊十町跡・二条殿御池城跡・烏丸御池遺跡（14H013）では室町時代の苑池遺構を検出した。この苑池は北東隣地でも検出されており，そのつづきであると考えられる。八条三坊九町跡・東本願寺前古墓群（14H199）では時期不明であるが，七条大路の路面を検出した。

平安京右京　右京では，一条四坊九・十町跡・史跡・名勝妙心寺庭園・史跡妙心寺境内（25N060），四条二坊十一町跡・壬生遺跡・御土居跡（13H408），六条一坊五町跡・六条大路跡（14H149），六条三坊十四町跡・西京極遺跡（13H521），六条四坊八町跡・西京極遺跡（14H180），七条二坊十五町跡（13H662）の６件の概要を報告する。他に二条三坊一町跡・西ノ京遺跡（14H148）では平安時代の柱穴や土坑を検出した。また，四条一坊十一町跡（14H093）では平安時代末期～鎌倉時代の苑池を検出した。

太秦地区　仁和寺院家跡，太秦馬塚町遺跡，常盤仲之町遺跡，広隆寺旧境内，史跡・名勝嵐山，嵯峨遺跡，壇林寺跡，嵯峨折戸町遺跡，広沢古墳群，円乗寺跡，円宗寺跡の11箇所の遺跡で調査をおこなった。このうち，太秦馬塚町遺跡・常盤仲之町遺跡（13S380）で時期不明の路面を検出した。

洛北地区　植物園北遺跡（14S029），大徳寺旧境内（13S674），上京遺跡（13S615）の３件の概要を報告する。他に上総町遺跡，寺ノ内旧域，上京遺跡，公家町遺跡，寺町旧域，史跡御土居跡，御土居跡，大徳寺旧境内，植物園北遺跡，岩倉中在地遺跡，栗栖野瓦窯跡，特別史跡・特別名勝鹿苑寺（金閣寺）庭園，平野神社隣接地，北野遺跡，北野廃寺，八幡古墳群，史跡賀茂御祖神社境内の17箇所の遺跡で調査をおこなった。

表1　詳細分布調査件数

地　　区	25年度1～3月	26年度4～12月	小計	地　　区	25年度1～3月	26年度4～12月	小計
平安宮	20	53	73	洛東地区	6	24	30
平安京左京	30	78	108	鳥羽地区	4	11	15
平安京右京	21	49	70	伏見・醍醐地区	10	20	30
太秦地区	8	8	16	長岡京地区	5	18	23
洛北地区	11	35	46	南桂川地区	4	19	23
北白川地区	10	29	39	京北地区	0	1	1
				合　　計	129	345	474

北白川地区　白河街区跡・岡崎遺跡（14S001），尊勝寺跡・白河街区跡・岡崎遺跡（14R117）の概要を報告する。他に上終町遺跡，北白川廃寺，池田町古墳群，北白川追分町遺跡，北白川追分町縄文遺跡，追分町古墳群，吉田上大路町遺跡，吉田泉殿町遺跡，吉田本町遺跡，吉田二本松町遺跡，聖護院川原町遺跡，白河街区跡，白河南殿跡，法勝寺跡，尊勝寺跡，延勝寺跡，岡崎遺跡，名勝平安神宮神苑，東光寺跡，如意寺跡，法成寺跡，公家町遺跡，寺町旧域の23箇所の遺跡で調査をおこなった。

洛東地区　御土居跡，将軍塚古墳群，六波羅政庁跡，六波羅蜜寺境内，法住寺殿跡，法性寺跡，鳥戸野古墳群，中臣遺跡，中臣十三塚古墳群，勧修寺旧境内，史跡随心院境内，鳥部（辺）野，南日吉町遺跡，西野山古墓，山科本願寺南殿跡，大塚遺跡の16箇所の遺跡で調査をおこなった。このうち，六波羅政庁跡・六波羅蜜寺境内（11S032）で平安～鎌倉時代の土坑を検出した。

鳥羽地区　下三栖遺跡，下三栖城跡，鳥羽離宮跡，鳥羽遺跡，久我神社，唐橋遺跡，深草遺跡，木津川河床遺跡の８箇所の遺跡で調査をおこなった。このうち，唐橋遺跡（13S527）で古墳～平安時代の土坑を検出した。

伏見・醍醐地区　伏見城跡（14F111）の概要を報告する。他に伏見城跡，板橋廃寺，桃陵遺跡，桃山古墳群（永井久太郎古墳），稲荷山古墳群，伏見稲荷大社境内，太閤堤（小倉堤・槙島堤），史跡醍醐寺境内，深草寺跡，向島城跡の10箇所の遺跡で調査をおこなった。

長岡京地区　長岡京跡，羽束師遺跡，東土川遺跡，淀城跡の４箇所の遺跡で調査をおこなった。このうち，長岡京左京一条四坊六町跡（14NG021）で弥生時代の湿地状堆積を検出した。また，長岡京左京五条三坊十六町（13NG470）で東三坊坊間小路東側溝を検出した。

南桂川地区　史跡・名勝嵐山，嵐山谷ケ辻子町遺跡，中久世遺跡，大藪遺跡，下久世構跡，革嶋館跡，南荒木古墳，福西古墳群，大原野松本遺跡，上里北ノ町遺跡，史跡樫原廃寺跡の11箇所の遺跡で調査をおこなった。

京北地区　中江古墳群で調査をおこなったが顕著な成果は得られなかった。

（家原　圭太）

Ⅱ-１　平安京左京四条四坊八町跡・烏丸御池遺跡（14H134）

１　調査経過（図１・２）

調査地は，中京区三条通高倉東入桝屋町61，61-1・5，堺町通三条下る道祐町134に所在する。平安京左京四条四坊八町跡北西部と，烏丸御池遺跡の南東端にあたる。同町は，平安時代後期の大納言藤原実行三条高倉第や義妹の待賢門院藤原璋子の御所が所在したとされる。[1]

周辺では現三条通の北側で調査がおこなわれており，当該地から北西方向にある京都文化博物館敷地内（三条四坊四町跡）では，東洞院大路東側溝や高倉小路西側溝，路面の一部，三条大路の北築地および犬走りや平安時代の井戸を検出している。また，室町時代の三条大路側溝を踏襲した溝などを検出している。[2]

ほかに，当該地の北に位置する三条四坊五町内では平安時代中期の井戸や鎌倉時代前期の井戸，室町時代から江戸時代の遺構を検出している。[3]

今回の調査は，簡易宿所建築にともなうもので，平成26年（2014）７月18日から８月20日にかけて土層の確認や遺構の検出をおこない，そのうち三条通に近接した位置（A-A'）で三条大路の路面跡を確認した。

図１　調査位置図（１：5,000）

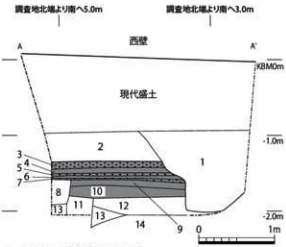
図２　調査区位置図（１：1,000）

２　層序と遺構（図３）

平安時代の遺構

小穴1　三条大路路面跡の下で検出した小穴で，柱穴の可能性もある。直径0.2m以上，深さは0.3mであった。埋土は灰黄褐色泥砂である。小片だが土師器皿１・２などが出土した。

小穴２　層10の下で確認した小穴で，柱穴の可能性もある。直径約0.3m，深さは約0.3mである。埋土は灰黄褐色泥砂で土師器皿３，平瓦が出土した。



1　10YR3/2 黒褐色砂泥【土坑３】
2　10YR3/3 暗褐色泥砂(礫混)【鎌倉時代の包含層】
3　10YR5/2 にぶい黄褐色粗砂【三条大路路面】
4　10YR4/2 灰黄褐色砂泥【三条大路路面の整地層】
5　10YR5/2 にぶい黄褐色粗砂【三条大路路面】
6　10YR4/2 灰黄褐色砂泥【三条大路路面の整地層】
7　10YR5/2 にぶい黄褐色粗砂【三条大路路面】
8　10YR4/2 灰黄褐色泥砂【小穴１】
9　10YR4/2 灰黄褐色砂泥【平安時代中期の三条大路路面の整地層】
10　10YR3/2 黒褐色砂泥【平安時代中期の三条大路路面の整地層】
11　10YR4/2 灰黄褐色泥砂【小穴２】
12　10YR3/1 黒褐色泥砂(礫混)【平安時代中期の包含層】
13　10YR5/4 にぶい黄褐色細砂(炭混)【平安時代中期の包含層】
14　10YR3/3 黒褐色粘質土

図３　A-A' 間遺構断面図（1：50）

なお，上述の遺構埋土や層９には，灰釉陶器・緑釉陶器片が混入していた。掘削深度の限界のため下層を確認できなかったがGL-2.3m以下に遺構が遺存している可能性がある。

三条大路路面　GL-1.4m ～ 1.8mまで確認した。路面最上層は，層厚８cmの礫混じりのにぶい黄褐色粗砂で，固く締められていた。以下層厚８～ 10cmの灰黄褐色泥砂，層厚６cmの礫混じりのにぶい黄褐色粗砂，層厚６cmの灰黄褐色砂泥，層厚４cmの礫混じりのにぶい黄褐色粗砂とつづき，礫混じりの砂からなる路面の構築層と泥砂からなる整地層が互層になっていた。路面の構築層はいずれも固く締まっている。断面の観察からは２回の改修があったと考えられる。

室町時代以降の遺構・包含層

路面の上部には層厚40cmの黒褐色砂泥が堆積していた。この層は土師器片を多量に含み，整地層と考えられる。この層を切って土坑が掘り込まれていた。

土坑３　A-A' 断面で確認した直径1.4m以上，深さ1.1mの土坑で，埋土は黒褐色砂泥である。細片のため図化しなかったが室町時代の土師器皿が出土した。

このほかB地点では包含層中から土師器皿６～８，東播系須恵器鉢などが出土した。また，当該地全体では，安土桃山時代から近世の遺構・遺物を少数確認している。

３　遺　　物（図４）

１～５はA-A'地点から出土した土器である。

１・２は小穴１から，３は小穴２から出土した。1は土師器皿Aで，口縁部をつまみあげたようにおさめる。２は細片だが土師器皿Nで，口縁部を二段にナデ，口縁端部は外反する。３は土師器皿Aである。４・５は層９から出土した。４は土師器皿，５は緑釉陶器椀である。土師器皿４は皿Nで今回出土した中で最も大きな破片であったため図化した。５は下層からの混入で，京都産の緑釉陶器である。胎土は硬質である。

１～４は京都Ⅳ期古段階の土器で，時期は11世紀前半と考えられる。5は10世紀中葉のものである。このほか細片のため図化しなかったが，黒色土器B類椀や平瓦などが出土した。

６～８はB地点の包含層から出土した。いずれも土師器皿で，６は皿N，７・８は皿Sである。京都Ⅸ期中段階の土器で15世紀中葉のものと考えられる。

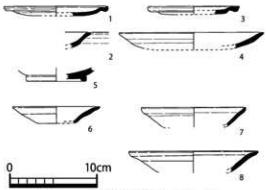


図４　出土遺物実測図（１：４）

写真１　路面検出状況（北東から）

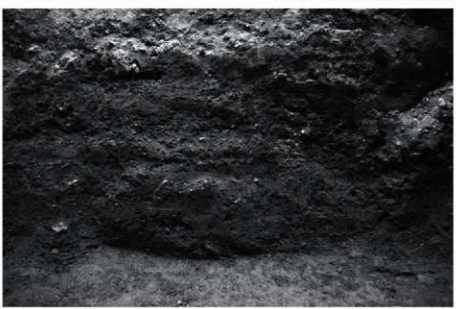


写真２　A - A' 断面（東から）

４　ま と め

今回の調査では，三条大路の路面を確認することができた。前述の京都文化博物館敷地では，三条大路の北築地跡などを確認しているため，本調査地周辺では三条大路の施工状況が断片的ではあるが明らかになったといえよう。ただ，小石敷の路面の成立は平安時代中期以降になる可能性があり今後の検討課題といえる。

また，今回確認した平安時代の路面は室町時代の遺物包含層に覆われており，その上面から土坑が掘り込まれていた。これは，室町時代には本調査地内が道路ではなくなったことを示しており，この頃には道路幅が縮小していたことが明らかになった。

本調査地からは平安時代前期の遺物も複数点出土しており，下層に同時期の包含層や遺構が残っていると考えられ，今後の調査において，前期から中期の変遷にも注意したい。　　（赤松　佳奈）

註

1）『角川日本地名大辞典　26　京都府　下巻』角川書店，1982年。

2）財団法人京都文化財団　京都文化博物館（仮称）調査研究報告第２集 『平安京左京三条四坊四町』京都市中京区雲華院前ノ町，1988年。

3）古代文化調査会『平安京左京三条四坊五町跡』メロディーハイム堺町新築に伴う調査，2001年。

Ⅱ- 2　平安京左京六条二坊五町跡（13H529）

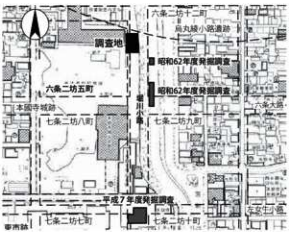


図5　調査位置図（1：5,000）

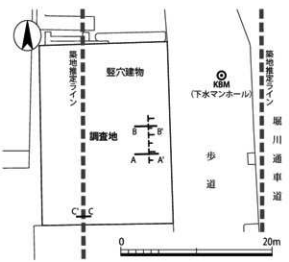


図6　遺構位置図（1：500）

1　調査経過（図５・６）

本件は，下京区堀川通五条下る柿本町地内における共同住宅建設に伴う調査である。調査地は，平安京左京六条二坊五町跡及び堀川小路跡に該当する。『拾芥抄』によると同町には，平安時代末期に関白藤原基通の邸宅「猪熊殿」が所在したとされる。室町時代以降，昭和40年代までは法華宗大本山本圀寺の一角となっていた。

堀川小路は，『延喜式』左右京職京呈条に「一路加堀川東西辺各二丈。」と記されている。発掘調査でも，中央に幅２丈の川があり両側に２丈幅の道路が存在することを西堀川小路跡の発掘調査で確認しており，記載を裏付けている[1]。

上記の成果から，当該地は堀川小路に関連する遺構群の展開が予想された。調査は平成25年（2013）3月31日，4月１～３日にかけて実施し，室町時代後期の堀川とその西肩護岸，平安時代の土坑を検出した。

2　層序と遺構（図７・８）

層序は，KBM-1.5m ～ 2.0m付近まで現代盛土，撹乱であり，以下，C断面では黄灰色砂礫の地山，A・B断面では堀川の堆積層と続き，-2.7mにて黄灰色砂礫の地山となる。

堀川（図６・７，写真３・４）　A・B断面にて検出した河川堆積である。幅3.2m以上，深さ1.3mを測る。層序は大きく３層に分かれ，下から灰色粗砂（６層），灰色粗砂（５層），灰黄色砂礫又は，にぶい黄褐色泥砂礫混じり（１・２層）となる。また，灰色粗砂（５層）を切り込んで，直径50cm程度の石が据えられていることを確認した。石は東面に面を持ち，裏込め（３層）を伴うことから，堀川西肩の護岸と考えられる。遺物は細片であるが，６層から14世紀の土師器片，３層から15世紀後半～ 16世紀前半の土師器，１・２層から16世紀の土師器が出土している。

土坑（図８）　C断面にて検出した平安時代の土坑である。幅1.8m以上，深さ0.7m以上を測る。

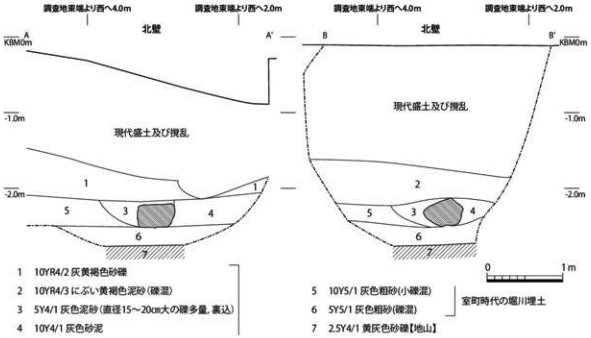


図7　A・B断面図（1：50）

埋土は褐灰色砂泥である。遺物は，10～11世紀の土師器，緑釉陶器，瓦片が出土している。

3　まとめ

今回の調査では，平安時代中期～後期の土坑，室町時代後期の堀川を確認した。中でも堀川は一時期大型の石を用いて護岸していることが明らかとなった。石は1石だけであるが裏込めを伴い，本来はさらに積み上がっていた可能性が高い。石の裏込めから15世紀後半～16世紀前半の遺物が出土していることから，当該期に護岸が構築されている。調査地の西側には，室町時代以降，本圀寺が広大な寺域を構えており，天文5年（1536）には，法華宗が比叡山延暦寺と対立して天文法華の乱が勃発，本圀寺も焼け落ちている。本圀寺は寺域の東端に沿って濠を築いていることがわかっており[2]，護岸も，緊迫した情勢の中で防御のために築かれた可能性が高い。堀川に護岸を施し，二重の濠を備えたものと評価できる。

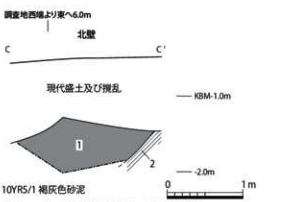


図8　C断面図（1：50）

写真3　A-A' 間護岸遺構（南から）

写真４　B-B' 間護岸遺構（南から）

堀川の西岸には護岸を施し川筋を固定する一方で，調査地の東側，十二町跡の発掘調査では，宅地内まで堀川の洪水が及び，浸食されていた様相が明らかとなっている[3]。調査地の南側に当たる七条二坊七町跡の調査でも，室町時代後半には堀川の本流が調査地よりも東へ振っていることが明らかになっている[4]ことから，堀川通りが西本願寺前で東に振る現在の景観は室町時代後期まで遡るものといえよう。

（西森　正晃）

註

1）堀内明博「平安京右京五条二坊」『平安京跡発掘調査報告 昭和55年度』京都市埋蔵文化財センター，1981年。
「右京三条二坊」『昭和57年度 京都市埋蔵文化財調査概要』（財）京都市埋蔵文化財研究所，1984年。

2）近藤知子「平安京左京七条二坊・本圀寺跡」『平成６年度 京都市埋蔵文化財調査概要』（財）京都市埋蔵文化財研究所，1996年。

3）原山充志「平安京左京六条二坊」『昭和62年度 京都市埋蔵文化財調査概要』（財）京都市埋蔵文化財研究所，1991年。

4）近藤知子「平安京左京七条二坊」『平成７年度 京都市埋蔵文化財調査概要』（財）京都市埋蔵文化財研究所，1997年。

Ⅲ- 1　平安京右京一条四坊九・十町跡・史跡・名勝妙心寺庭園・史跡妙心寺境内（25N060）

図11は妙心寺境内における防災工事並びに電線・通信線埋設工事に伴う詳細分布調査で出土した唐草文軒平瓦である。採集地点は，仏殿の西側にあたる№１地点付近である。№１地点では，ＧＬ-0.3mまで現代盛土，-0.8mまで平安時代後期の遺物包含層が堆積し，地山となる。唐草文軒平瓦は廃土から採集したが，上記の包含層から出土した可能性が高い。

唐草文軒平瓦（図11）瓦当文様の構成は，中心飾りに四葉花弁を配し，両側へと唐草が展開する。調整技法の特徴は，瓦当部凹面は横ナデ，顎部は横ケズリ，平瓦部凸面縄叩き，凹面は布目を残し側端はナデを施す。胎土は砂粒を含み，焼成は硬質で，色調は灰白色を呈す。

生産地は凸面に縄叩きを残していること，中心飾りが四葉花弁であることから，讃岐国もしくは阿波国と推測する。生産年代は12世紀中頃から後半と考えられる。　　（鈴木　久史）

図９　調査位置図（１：5,000）

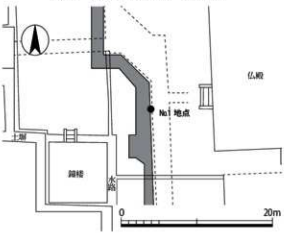


図10　調査区位置図（１：500）

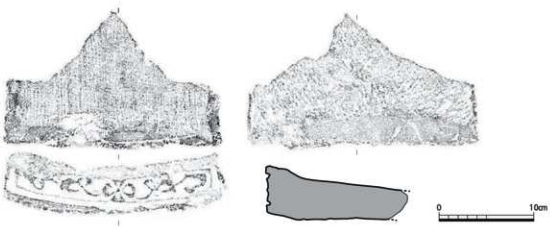


図11　出土遺物実測図（１：４）

Ⅲ- 2　平安京右京四条二坊十一町跡・壬生遺跡・御土居跡（13H408）

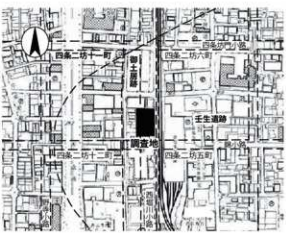


図12　調査位置図（1：5,000）

1　調査経過（図12）

調査地は右京区壬生淵田町内で，壬生遺跡の西半，右京四条二坊十一町跡の東端と西堀川小路跡，御土居跡に該当する。壬生遺跡は，古墳時代の散布地である。十一町は淳和天皇の離宮（淳和院）の一角にあたり，西堀川小路は中央に人工の堀川（西堀川）を築いた特殊な道路である。御土居跡は，天正19年（1591）豊臣秀吉によって洛中を囲むように築いた総延長22.5kmの惣構えである。[21]

当該地には東西15.0～22.6m，南北34.2m，高さ0.78～1.72mの土壇状の高まりが残されている。この高まりに民家や店舗が建ち，その一角に土塁（御土居跡）を利用した築山があったとされていた。[22]今回，建物の解体がおこなわれることとなり，土塁の遺存状況を確認するために詳細分布調査を平成25年（2013）11月29日と12月２日に実施した。その結果，敷地内において盛土の一部を検出し,御土居跡の確認に至った。そこで,調査目的を御土居跡の遺存範囲を確認することとし，平成26年（2014）９月１日から19日にかけて調査を実施した。調査範囲は，盛土を検出した敷地北側から中央にかけて設定した。なお，本調査目的が御土居跡の範囲確認であることから，御土居跡以前の遺構調査は北端の断割調査に留めた。

周辺では当該地の南隣で試掘・詳細分布調査を実施している（図14№1～6）。調査の結果，十二町跡の内溝と西堀川小路西築地基底部を検出した。内溝は幅3.4m，深さ0.2mを測り，築地基底部は東西1.7～3.0m，高さ0.2～0.8m，南北長約32mである。さらに，西堀川の氾濫による砂礫層も確認しており，西堀川小路の河川化を確認している。[30]このように，調査地周辺部には平安時代から中世にかけての遺構面が良好に遺存している。

西堀川は三条坊門小路付近の発掘調査成果により10世紀後半頃に機能を停止したことが明らかとなっている。[40]その後，野寺小路などが河川化するとともに，三条二坊十二町内を横断する河川も確認している。[50]御土居跡はこれまでに15箇所で土塁跡もしくは堀跡を確認している（図13・表２）。発掘調査によって確認した土塁の規模は，幅20m，高さ２m以上で，堀は幅13～20m，深さ１～2.5mを測る。

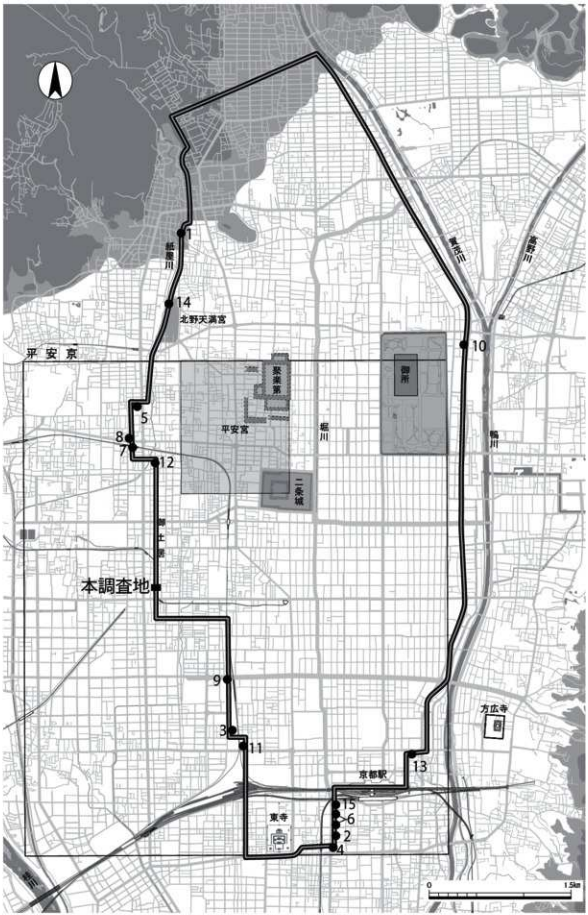


図13　御土居跡発掘調査地点（1：40,000）

表２　御土居跡発掘・試掘調査一覧表

調査№	調査地	調査期間	調査概要	文献
1	北区衣笠荒見町（旧野口町）	1918	測量	『京都府史蹟勝地調査会報告』第２冊 1983年
2	南区西九条春日町13（九条弘道小学校）	1980.09.16～1980.10.09	堀を検出。東西幅約17.5m、深さ約２mを測る。堀は江戸時代迄じて湿地帯あるいは水路として存続し、近代になり完全に埋没する。	（財）京都市埋蔵文化財研究所「平安京左京九条二坊十三町」『昭和55年 京都市埋蔵文化財調査概要』2011年
3 | 下京区朱雀堂ノ口町 | 1982.01.27～1982.10.15 | 土塁と堀を検出。土塁は幅15m、高さ２m、堀は南北幅20m、深さ５mを測る。堀から、大量の木製品と６体分の人骨が出土した。 | 平田泰ほか「右京七条一坊」『昭和57年度京都市埋蔵文化財調査概要』1984年 |
4 | 南区西九条春日町19 | 1984.05.21～1984.10.01 | 堀を検出。東西幅約20m、深さ約15mを測る。堀底は作業単位を示す連続した凹みが認められた。堀からは土師器などの他に、「寛永二十一年」(1644)・「正保４年」(1647) などの紀年木簡、ポルトガル語で記したキリシタン関係の荷札が出土。 | 丸川義広ほか「平安京左京九条二坊」『昭和59年 京都市埋蔵文化財調査概要』1987年 |
5 | 中京区西ノ京中保町1-4（北野中学校） | 1987.10.08～1987.11.30 | 堀を検出。東西幅5m以上、深さ約１mを測り、断面「V」字状を呈す。 | 菅田薫「平安京右京一条二坊」『昭和62年度 京都市埋蔵文化財調査概要』1991年 |
6 | 南区西九条鳥居区町１ | 1991.05.01～1991.10.17
1991.11.05～1992.03.21 | 堀を検出。東西幅14m以上、深さ約2.5mを測る。堀から「　保四年　八月中」・「正保四□　八月□」などの文字資料が400点以上出土。 | 菅田薫「平安京左京九条二坊」『平成３年度 京都市埋蔵文化財調査概要』1995年 |
7 | 中京区西ノ京円町地内 | 1997.09.08～1998.02.13 | 江戸時代に築かれた御土居の内側の排水溝（南北方向）を検出。東西幅1.5m、深さ0.3mを測る。 | 小松山一良ほか「平安宮左馬寮・朝堂院跡・平安京右京一・二条二～四坊」『平成９年度 京都市埋蔵文化財調査概要』1999年 |
8 | 中京区西ノ京円町55-1 | 1999.11.01～2000.03.25 | 土塁基底部と内溝を検出。基底部は東西15～16mを測る。断面形状は台形を呈す。内溝は東西幅２m、深さ約0.4mを測る。 | 小森俊寛ほか「平安京右京一条二坊」『平成11年度 京都市埋蔵文化財調査概要』2002年 |
9 | 下京区中堂寺南町地内 | 2001.01.18～2001.04.06 | 堀を検出。東西幅12.5m以上、深さ約1.5mを測り、断面は中央部が大きく開いた「V」字形を呈す。堀から寛永通寶が20枚通なった状態で出土。 | 平尾政幸ほか『平安京右京六条一坊・左京六条一坊跡』2002年 |
10 | 上京区御車道今出川下二丁目栄町361 | 2008.02.25 | 土塁の内溝を検出。幅1.6m以上、深さ0.6m。 | 馬瀬智光『御土居跡・寺町旧域』『京都市内遺跡試掘調査報告　平成20年度』2009年 |
11 | 下京区朱雀正会町１-20 | 2009.03.09～2009.04.30 | 土塁の基底部を検出。東西約12m、南北約５mの範囲で高さ0.05～0.25mの盛土を確認。 | 小松山一良『平安京左京七条一坊四町跡・御土居跡』2009年 |
12 | 中京区西ノ京笠殿町38 | 2012.04.15～2012.09.07 | 土塁基底部と堀を確認。土塁基底部は東西幅14m以上を測る。堀は東西幅14m以上、深さ2.5mを測る。 | 高橋潔ほか『平安京右京二条二坊十一町・西堀川小路跡・御土居跡』2014年 |
13 | 下京区小稲荷町22-2ほか | 2013.04.15～2013.08.12 | 17世紀に付け替えた土塁を検出。 | 近藤章子ほか『平安京左京八条四坊八町跡、御土居跡』2014年 |
14 | 上京区馬喰町・北野 | 2013.06.03～2013.08.09 | 土塁と石組み暗渠を検出。土塁は幅約17m。暗渠長は19.3mを測る。 | 南孝雄「御土居の実像」京都市考古資料館文化財講座第257回2014年 |
15 | 南区西九条北ノ内町６ほか | 2014.05.20～2014.09.26 | 堀を検出。東西幅8.5m、深さ0.75m、南北45m分を検出。 | 平成27年刊行予定 |

2　層序と遺構

基本層序　基本層序は，調査区北端で0.3～1.2mの現代盛土があり，その下層に土塁の盛土が厚さ0.1～1.2mで堆積する。これらの盛土を除去すると，東側から中央にかけて氾濫堆積層（拳大の礫が主体となる砂礫層）が厚さ0.3～1.2mで，氾濫堆積層の直下に，厚さ0.5～0.6mの西堀川埋土が堆積する。東側の地山は，西堀川の氾濫によって削られており標高28.2～28.7mを測る。一方，西側は氾濫の影響が少なく盛土直下（標高29.8m）で明黄褐色の地山（図17-141層）となる。

調査区南端では0.1～1.0mの現代盛土があり，その下層に厚さ1.1mの土塁の盛土が堆積する。各盛土を除去すると中央から東側にかけて氾濫堆積層（拳大の礫が主体となる砂礫層）が厚く堆積する。一方，西端では厚さ約0.7mの黒褐色土の積土が堆積し，以下，浅黄色砂礫層，灰白色砂礫の地山となる。南端では断割り調査を実施しておらず，氾濫堆積層の一部を確認するに留まる。

土塁　土塁盛土は調査区北端と南端及び，中央から東側にかけての範囲に遺存していた。その規模は，最も良好に遺存している北端で東西約20m，残存高約1m，南北長は8m以上を測る。構築土は，明黄褐色土や浅黄色土～にぶい橙色土などが主体となり，小～中礫を含む泥砂と砂泥が互層となる。構築土の単位は，薄い層（4～10cm）と厚い層（20～30cm）に分けることができ，前者は土の締まりが良いことから版築を施しているものと考えられる。また，構築土の一部に泥砂と砂泥を水平に積み上げた箇所を（図17-65～71，74～82層，図19-32～39層）確認した。北端で幅約3.2m以上，高さ0.5～0.8mを測り，断面形状は小山状を呈する。中央では幅2m以上，残存高は0.4mを測る。北端を観察する限りでは，小山状堆積層は約10m間隔で築かれ，小山と小山の間を埋めるように土を入れて土塁盛土を構築している。堆積土層の傾き（土の投入方向）が，北端で東から西へ，中央

図14　調査区配置図（1：750）

図15　調査区平面図・上層（1：150）

では南から北へ，南端は西から東へと向かう。このようなことから，一定の範囲内において作業方向（単位）が決められていたことが分かる。小山状の積み土は作業単位の境を示すとともに，土塁構築過程における基礎として捉えることができる。盛土内から出土した遺物は僅かであった。

遺構

石組み遺構　調査区中央部で検出した石組み遺構である。東西1.6m，南北1.7mを測る。遺構検出に留めているために成立時期や性格については不明だが，井戸の可能性が高い。

溝１　調査区西端で検出した南北方向の溝である。溝心の検出位置が想定西堀川小路築地心から西へ2.3mであることから，右京四条二坊十一町東内溝と推定する。検出面での幅は0.8m，深さは0.3mを測り，断面形はU字状を呈する。北側調査区外へとのびる。溝1は溝２を掘り込んで成立しており，溝２の掘直しと推測する。埋土から京都Ⅱ期中に属する緑釉陶器椀が出土した。

溝２　調査区西半で検出した南北方向の溝である。溝心の検出位置が想定西堀川小路築地心から西へ2.8mであることから，右京四条二坊十一町東内溝と推測する。埋土から京都Ⅱ期中の属する緑釉陶器が出土した。検出面での幅は，東西2.5m，深さ0.3mを測り，断面形は皿状を呈する。北側調査区外へとのびる。

溝３　調査区西側で検出した南北方向の溝である。西肩の検出位置が想定西堀川小路西築地心か

図16　調査区平面図・下層（1：150）

ら東へ約3.2mであることから，西堀川小路西側溝と推測する。東肩が西堀川の氾濫の影響を受け削平されているが，東西幅約1.4m以上，深さ0.9m以上を測る。南北の調査区外へのびる。埋土は灰褐色泥砂から褐灰色泥砂である。

築地基底部　調査区北壁で検出した土層（図17-132 ～ 135層）である。地山を溝状に掘削し，褐灰色泥砂土，浅黄色砂礫土，黒褐色泥砂土，明褐色砂礫土を入れる。層の厚さは，0.2 ～ 0.3mである。

積土4　調査区南西で検出した積土である（図18-76層）。東西3.5 ～ 5.9m，南北5.7m，高さ0.7mを測る。黒褐色泥砂土を主体とするが，黄褐色ブロック土の混入状況の相違で６層に細分することができる。検出位置は，推定西堀川築地心上から東側にかけてである。西堀川小路西築地の可能性が高い。

西堀川　調査区北端で検出した南北溝である。幅は5.4m，南北長1.6m以上，深さ0.5mを測り，断面形は緩やかな逆台形を呈す。南北の調査区外へとのびる。両岸の地山が水流の影響を受け，僅かではあるが削られている。また，両岸には杭が打ち込まれており，そこへ横板を差し込んで補強している。杭は西側９本，東側７本を確認した。埋土は２層に分層することができ，中央は砂礫層（図17-111 ～ 116層），東西両肩付近には泥砂から砂泥土（図17-117 ～ 127層）が堆積する。これは

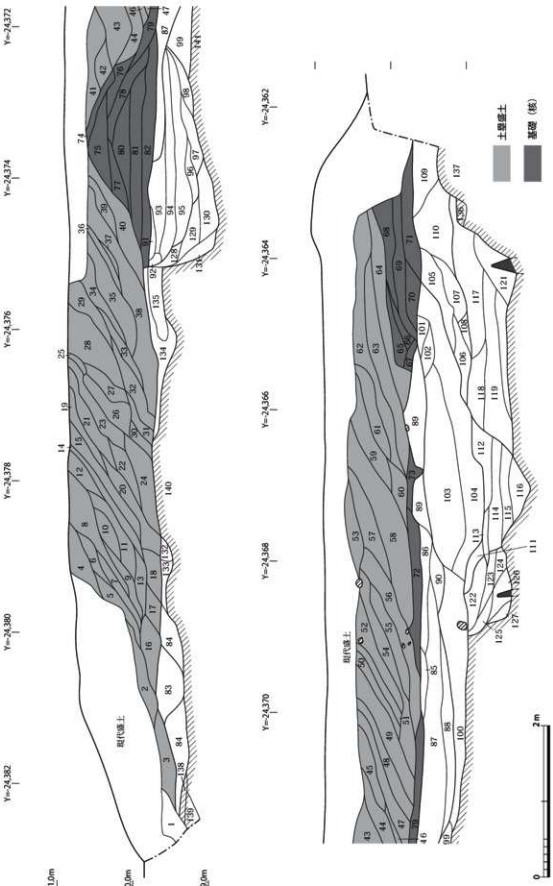


図17　調査区北壁断面図（1：50）

1	2.5Y7/8黄色砂泥	
2	10YR6/2灰黄褐色砂泥	
3	10YR8/6黄橙色砂礫	
4	7.5YR7/3にぶい橙色泥砂（礫混）	
5	10YR7/4にぶい黄橙色砂泥	
6	7.5YR7/1明褐灰色砂泥（小礫混）	
7	7.5YR4/1褐灰色砂泥	
8	10YR8/3浅黄橙色砂泥（小礫混）	
9	7.5YR7/4にぶい橙色砂礫	
10	2.5Y6/2灰黄色砂泥（大礫混）	
11	2.5Y7/2灰黄色泥砂（砂礫混）	
12	2.5Y5/2暗灰黄色砂礫（中礫混）	
13	10YR6/1褐灰色砂礫	
14	2.5Y6/1黄灰色砂泥	
15	10YR7/1灰白色砂礫（中～大礫混）	
16	10YR6/2灰黄褐色砂泥（礫混）	
17	5Y7/1灰白色砂礫	
18	2.5Y6/4にぶい黄色泥砂（礫大混）	
19	10YR7/6明黄褐色砂泥	
20	5Y6/1灰色砂泥	
21	2.5Y7/2灰黄色泥砂	【盛土１】
22	2.5Y7/3浅黄色砂泥（礫中混）	
23	2.5Y6/2灰黄色泥砂（中～大礫混）	
24	5Y5/4オリーブ色砂泥（よく締まる、礫中）	
25	10YR7/4にぶい黄橙色砂泥（よく締まる）	
26	2.5Y7/4浅黄色泥砂（礫中混）	
27	2.5Y7/6明黄褐色砂泥（よく締まる、礫小混）	
28	2.5Y6/2灰黄色砂泥（礫大～中）	
29	10YR7/6明黄褐色砂泥（よく締まる、礫中混）	
30	2.5Y6/4にぶい黄色泥砂（よく締まる）	
31	2.5Y7/3浅黄色泥砂（礫大混）	
32	10YR7/8黄橙色砂泥（礫小混）	
33	5Y7/4浅黄色砂泥（礫中混）	
34	10YR7/4にぶい黄橙色　砂泥（よく締まる、礫中混）	
35	5Y7/3浅黄色砂泥（礫中混）	
36	10YR7/8黄橙色泥砂（礫小、よく締まる）	
37	2.5Y7/3浅黄色砂泥（よく締まる）	
38	2.5Y7/6明黄褐色シルト～砂礫	
39	2.5Y7/4浅黄色砂泥（礫小）	
40	10YR6/8明黄褐色泥砂（礫大～中下層にたまる）	
41	10YR7/8黄橙色砂礫（礫中混）	
42	2.5Y7/4浅黄色砂礫	
43	10YR5/2灰黄褐色泥砂（礫大～小混）	
44	10YR6/6明黄褐色砂泥	
45	10YR7/4にぶい黄橙色泥砂	
46	10YR5/2灰黄褐色シルト	
47	10YR6/4にぶい黄橙色砂泥（礫中混）	【盛土２】
48	10YR7/4にぶい黄橙色砂泥（礫中混）	
49	10YR6/6明黄褐色砂泥（礫中～小混）	
49	10YR6/6明黄褐色　砂泥（礫中～大混）	
50	7.5YR5/1褐灰色　砂泥（よく締まる混）	
51	7.5YR6/4にぶい橙色砂泥（小礫混）	
52	7.5YR7/2明灰褐色泥砂（礫小混）	
53	10YR7/6明黄褐色砂泥	
54	7.5YR5/2灰褐色泥砂～7.5YR7/2明褐灰色砂礫（礫小混）	
55	7.5YR6/3にぶい褐色泥砂（よく締まる）	
56	10YR5/2灰黄褐色泥砂～シルト	
57	10YR6/3にぶい黄橙色泥砂	
58	10YR5/3にぶい黄褐色泥砂	
59	2.5Y7/3浅黄色砂泥	
60	2.5Y7/2灰黄色砂礫（礫中混）	
61	2.5Y7/6明黄褐色砂泥（礫小混）	
62	2.5Y6/4にぶい黄色泥砂	
63	2.5Y7/4浅黄色砂泥（下層に礫）（礫中混）	【盛土２】
64	10YR8/4黄橙色砂泥（礫中）	
65	10YR7/2にぶい黄橙色砂泥（礫小混）	
66	2.5Y7/3浅黄色砂泥（よく締まる）	
67	10YR5/3にぶい黄褐色シルト	
68	10YR7/6明黄褐色砂～泥砂	【盛土基礎（核）１】
69	2.5Y7/6明黄褐色砂泥	
70	5YR4/1褐灰色泥砂	
71	2.5Y7/4浅黄色砂礫（礫中、よく締まる）	
72	10YR8/3浅黄橙色砂礫	【基底部】
73	2.5Y5/2暗灰黄色泥砂	
74	2.5Y7/6明黄褐色泥砂	
75	2.5Y6/4にぶい黄色泥砂（よく締まる）	
76	2.5Y7/6明黄褐色砂泥（礫中～小混）	
77	2.5Y6/6明黄褐色泥砂	
78	2.5Y6/6明黄褐色泥砂	【盛土基礎（核）２】
79	2.5Y4/3オリーブ褐色泥砂	
80	2.5Y7/4浅黄色泥砂（よく締まる）	
81	2.5Y5/2暗灰黄色泥砂（よく締まる）	
82	2.5Y6/4にぶい黄色砂礫～泥砂（小礫多量混）	
83	10YR6/1褐灰色泥砂（礫中～小混）【溝１】	
84	10YR4/1褐灰色シルト（礫小混）【溝２】	
85	10YR3/1黒褐色　砂礫（礫小混）	
86	10YR6/4にぶい黄橙色砂泥	
87	5Y6/6オリーブ黄色微砂～砂礫（礫中混）	【氾濫堆積】
88	2.5Y4/6赤褐色砂礫（礫中混）	
89	2.5Y5/2暗灰黄色泥砂	
90	7.5YR4/2灰褐色砂礫	
91	2.5Y5/1黄灰色泥砂（礫中混）	
92	2.5Y5/4黄褐色細砂	
93	2.5Y6/4にぶい黄色粗砂～砂礫（礫中混）	【氾濫堆積２】
94	7.5YR5/6明褐色砂礫	
95	5Y6/4オリーブ黄色砂礫～粗砂（礫中混）	
96	5YR5/6明赤褐色砂礫（マンガン含む）	
97	7.5YR4/1褐灰色砂泥（礫小混）	
98	5Y6/2灰オリーブ色砂礫～砂泥 【氾濫堆積２】	
99	10YR6/6明黄褐色砂泥	
100	7.5YR3/1黒褐色砂礫	
101	10YR5/1褐灰色泥砂	【氾濫堆積３】
102	5Y6/2灰オリーブ色粗砂	
103	2.5Y7/1灰白色砂礫（礫小～中混）	
104	10YR3/1黒褐色砂礫～2.5Y6/4にぶい黄色砂礫	
105	7.5YR2/1黒色泥砂	
107	10YR5/1褐灰色泥砂	【氾濫堆積４】
108	10YR3/1黒褐色泥砂	
109	2.5Y2/1黒色　泥砂	
110	2.5Y3/1黒褐色泥砂	
111	N6/灰色　砂泥（上層ラミナ層あり）	
112	2.5Y6/6明黄褐色砂礫～5Y6/2灰オリーブ色粗砂	
113	5Y5/1灰色　粗砂	
114	5Y6/2灰オリーブ色砂礫（礫小混）	
115	2.5Y7/6明黄褐色砂礫（礫中混）	
116	2.5Y5/1黄灰色砂礫（やや粘質あり、礫小混）	
117	10YR6/1褐灰色泥砂～10YR3/1黒褐色　砂泥	
118	10YR7/1灰白色砂礫（礫大混）	
119	2.5Y6/1黄灰色砂泥（小礫混）	【西堀川堆積層】
120	10YR4/1褐灰色泥砂	
121	10YR3/2黒褐色泥砂	
122	N4/灰色泥砂（上層に中礫混）	
123	7.5Y6/1灰色粗砂～N5/灰色泥砂（礫中混）	
124	N6/灰色砂礫～泥砂（礫小混）	
125	N5/灰色泥砂	
126	10YR3/1黒褐色砂泥（礫中混）	
127	N4/灰色　砂泥	
128	10YR4/1褐灰色泥砂	【西堀川小路西側溝】
129	7.5YR5/1褐灰色泥砂（礫中混）	
130	7.5YR5/2灰褐色泥砂	
131	2.5Y6/3にぶい黄色砂礫～泥砂	
132	10YR4/1褐灰色泥砂	【西堀川小路西築地基底部】
133	2.5Y7/4浅黄色砂礫	
134	2.5Y3/1黒褐色泥砂	
135	7.5YR5/6明褐色砂礫	
136	5Y5/2灰オリーブ色砂泥（小礫混）	
137	5Y7/2灰白色砂礫	【地山】
138	5Y7/2灰白色粗砂	
139	5Y6/2灰オリーブ色砂礫	
140	10YR5/6黄褐色砂礫	
141	5Y6/4オリーブ黄色粗砂～砂礫（礫中混） ～　2.5Y6/6明黄褐色砂礫（礫中混）	

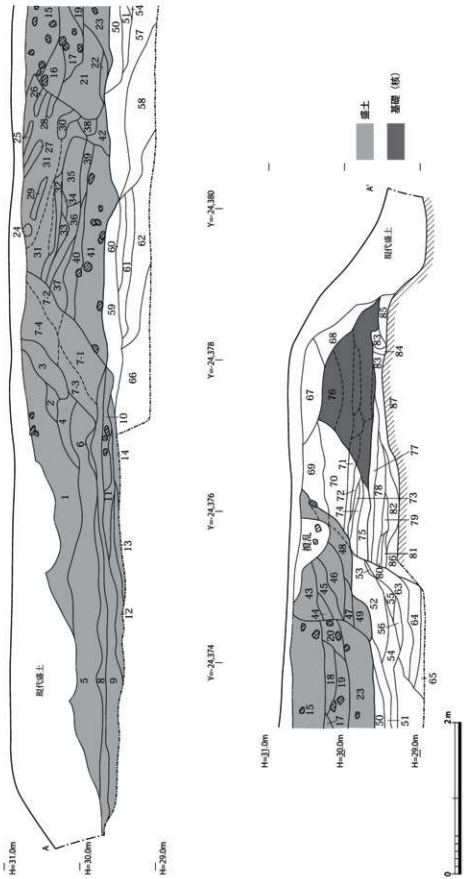


図18　調査区南壁断面図（1：50）

1 10YR4/3にぶい黄橙色泥砂
2 10YR7/2にぶい黄橙色砂礫（礫小混）
3 10YR5/4にぶい黄褐色砂泥
4 2.5Y6/4にぶい黄色砂泥（よく締まる）
5 2.5Y7/3浅黄色砂礫（礫小混）
6 10YR5/6黄褐色泥砂
7 2.5Y4/3オリーブ褐色シルト（少量の礫混）
（1～4ブロックの入り方が違う）
8 2.5Y6/4にぶい黄色微砂～細砂（ラミナ状）
9 N4/灰色シルト～泥砂（礫小混）
10 10YR8/1灰白色砂礫～泥砂（礫中混）
11 10YR8/2灰白色砂礫 ～ 10YR7/2にぶい黄橙色　砂泥（礫中～小）
12 5Y5/1灰色微砂～粗砂
13 10YR5/4にぶい黄褐色粗砂（礫小混）
14 2.5Y6/6明黄褐色砂礫（礫中混）
15 2.5Y8/4淡黄色砂礫（礫中～小混）
16 2.5Y8/3淡黄色砂礫（礫大～小混）
17 2.5Y7/3浅黄色砂礫（礫中～小混）
18 2.5Y7/2灰黄色砂礫（礫中混）
19 5Y7/2灰白色砂礫（礫大～中混）
20 2.5Y7/2灰黄色砂礫（礫小混）
21 10YR7/3にぶい黄橙色砂礫（礫中～小混）
22 2.5Y7/3浅黄色砂礫（礫小混）
23 2.5Y7/4浅黄色砂礫（礫大～中混）
24 2.5Y8/3淡黄色　砂礫（礫小混）
25 2.5Y5/3黄褐色シルト～微砂
26 5Y6/3オリーブ黄色砂礫～シルト（礫小混）
27 10YR5/4にぶい黄褐色シルト～微砂
28 5Y6/3オリーブ黄色砂礫～シルト（礫小混）
29 2.5Y8/3淡黄色砂礫（礫小混）
30 2.5Y6/3にぶい黄色砂礫（礫中～小混）
31 7.5YR5/4にぶい褐色微砂～シルト
32 2.5Y8/3淡黄色砂礫（礫小混）
33 2.5Y7/4浅黄色砂礫（礫小混）
34 2.5Y7/4浅黄色砂礫（礫小混）
35 2.5Y8/3浅黄色砂礫（礫小混）
36 2.5Y4/6オリーブ褐色シルト
37 2.5Y8/3浅黄色砂礫（礫小混）
38 2.5Y7/2灰黄色砂礫（礫中混）
39 2.5Y8/3淡黄色砂礫（礫小混）
40 2.5Y6/6明黄褐色シルト
41 2.5Y8/3浅黄色砂礫（礫小～大混）
42 2.5Y5/3黄褐色シルト
43 7.5YR5/4にぶい褐色微砂～シルト
44 2.5Y7/3浅黄色砂礫（礫小混）
45 7.5YR4/2灰褐色微砂～シルト（礫中～小混）

【盛土】

46 10YR6/4浅黄色砂礫
47 10YR8/4浅黄橙色砂礫（礫中混）
48 7.5YR3/2黒褐色シルト

【盛土】

49 10YR6/4にぶい黄橙色粗砂
50 2.5Y6/6明黄褐色粗砂 ～ 2.5Y6/1黄灰色砂質土（小礫混）
51 2.5Y6/6明黄褐色粗砂
52 10YR8/3浅黄橙色砂礫（礫中混）
53 10YR5/4にぶい黄褐色粗砂
54 10YR6/6明黄褐色砂礫（礫小混）
55 5Y5/1灰色泥砂 ～ 10YR5/6黄褐色砂礫（礫小）
56 10YR5/6黄褐色　砂礫（礫中）
57 10YR3/2黒褐色砂礫（マンガンを含む）
～ 10YR5/4にぶい黄褐色微砂
58 10YR5/3にぶい黄褐色粗砂
59 5YR5/4にぶい赤褐色砂礫（礫中混）
60 2.5Y5/1黄灰色粗砂
61 5YR5/4にぶい赤褐色微砂
62 10YR4/4褐色粗砂～砂礫（礫中混）
63 10YR5/1褐灰色泥砂
64 10YR6/1褐灰色粗砂
65 10YR6/6明黄褐色砂礫（礫小混）
66 10YR6/1褐灰色泥砂
67 10YR4/1褐灰色砂泥砂
68 10YR4/2灰黄褐色泥砂
69 10YR3/1黒褐色泥砂（礫混）
70 2.5Y7/4浅黄色砂礫
71 7.5YR7/4にぶい橙色砂泥（礫小混）
72 7.5YR4/1褐灰色泥砂（礫大混）
73 7.5YR5/4にぶい褐色泥砂（礫小混）
74 10YR2/1黒色泥砂（やや粘質が強い）
75 7.5Y3/2黒褐色砂泥
76 10YR3/1黒褐色泥砂（わずかに2.5Y5/6黄褐色ブロックを含む）【積土】
77 7.5Y4/1黒色泥砂
78 7.5Y4/2灰褐色泥砂
79 10YR4/1褐灰色泥砂
80 7.5Y5/4にぶい褐色粗砂～泥砂
81 10YR5/1褐灰色砂泥
82 N2/黒色泥砂
83 2.5Y7/3浅黄色砂礫（礫小混）
84 2.5Y6/1黄灰色砂泥
85 5Y6/4オリーブ黄色微砂～粗砂（一部）（礫中混）
86 5Y7/4浅黄色砂礫
87 5Y7/2灰白色砂礫（礫中混）【地山】

【氾濫堆積】

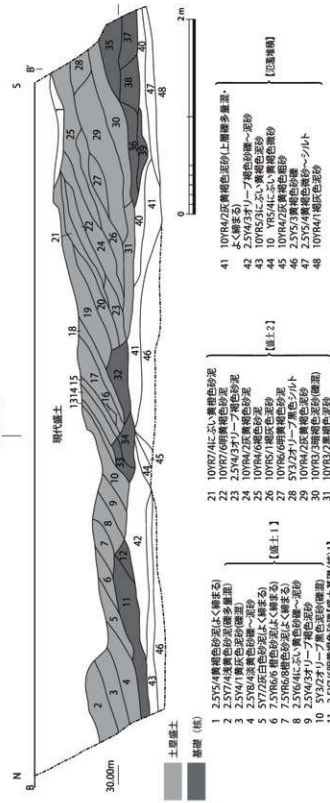


図19　B-B'間断面図（1：50）

中央部が大雨による土石流などの影響を受ける一方で，東西両扇付近は比較的流れの弱い部分に当たり，砂質土と泥土が徐々に堆積した結果と考える。出土遺物は，京都Ⅱ期中に属する須恵器である。

西堀川氾濫堆積層５　調査区中央から東側にかけて検出した，西堀川の氾濫堆積層である。幅は12.5m以上，南北長16m以上，厚さ0.9mを測る。ただし，西堀川及び氾濫堆積層は北端を除く場所では検出面で留めていることから，北壁断面と南壁断面との関連を明らかにすることができなかった。そこで，北端断割り調査によって得られた知見を中心に述べる。堆積土は概ね４層に大別できる。最も古い堆積層（氾濫堆積第４層）は，西堀川の東肩口を覆う図17-105 ～ 110層である。その上層に99 ～ 104層（氾濫堆積第３層）が覆う。次に，西端で堀川小路西側溝を覆う91 ～ 98層（氾濫堆積第２層）となり，最も上位に85 ～ 90層（氾濫堆積第１層）が堆積する。各層ともに小礫～大礫を多量に含んでおり，所々に人頭大の石が混じる。以上のように，西堀川が埋没することによって主流が敷地の東側へと変わるが，再び砂礫が堆積し，最終的に西側へと移動したことが分かる。このように当該地においても，西堀川が土石流によって埋没した状況が認められる。

出土遺物は土師器や緑釉陶器・瓦類である。出土遺物の多くが京都Ⅱ期中～新に属するものであり，周辺の調査成果が示している通り，西堀川が10世紀に機能を停止した可能性が高い。しかし，南端の河川堆積層中（図18-50 ～ 66層）で中世に属する輸入陶磁器片を確認した。したがって，当該地周辺は中世に再び水害にあっている可能性がある。

３　遺　　物（図20）

出土遺物は整理箱で２箱である。

溝１出土遺物（図20-1）　溝１からは土師器18片，須恵器６片，緑釉陶器２片，丸瓦１点，平瓦２点が出土した。このうち図化することができたのは緑釉陶器椀（１）のみである。緑釉陶器椀の底径は７㎝を測り，高台は貼付けの蛇の目高台である。釉薬は内外面に施されオリーブ灰色に発色している。胎土は僅かに砂粒を含む。尾張産で京都Ⅱ期中に属する。

溝２出土遺物（図20-2）　溝２からは土師器28片，須恵器11片，緑釉陶器５片，灰釉陶器２片，平瓦９点が出土した。このうち図化することができたのは，須恵器椀（２）のみである。須恵器椀は底部のみで底径は６㎝を測る。底部は貼付けの輪高台である。内面に僅かな自然釉の痕跡が認められる。外面はケズリ，内面はナデを施す。京都Ⅱ期新に属する。

西堀川出土遺物（図20-3）　西堀川堆積土内からは須恵器壺（３）が１片出土した。壺は底部のみで，底径は7.2 ～ 7.8㎝を測る。高台は貼付けの輪高台である。内外面には自然釉がかかり，底には「十」のヘラ記号が認められる。体部はケズリ，内部はナデを施す。胎土はごく少量の砂粒を含み焼成は硬質である。

氾濫堆積５出土遺物（図20- ４～ 12）　氾濫堆積層（図17-85 ～ 110層）からは，土師器20片，須恵器８片，緑釉陶器２片，灰釉陶器１片，硯１片，軒平瓦１点，丸瓦３点，平瓦10点が出土した。なお，氾濫堆積層は北端での断割り調査に留まっているため，各層ごとに遺物を抽出していない。また，羽釜，輸入陶磁器は南壁（図18-50 ～ 66層）から出土した。

土師器

高坏７（図20-7）　高坏の脚部である。脚部外面の面取りは７面で丁寧にヘラケズリを施す。ケ

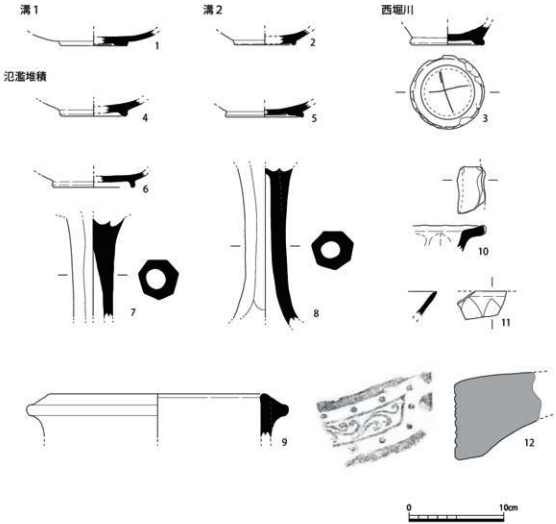


図20　出土遺物実測図・拓影（1：4）

ズリの方向は下方ら上方へ向かって施される。内面はナデ調整。胎土は極少量の砂粒を含む，焼成はやや軟質で，浅黄橙色を呈す。京都Ⅱ期中に属する。

高坏８（図20-8）　高坏の脚部である。脚部外面の面取りは７面で丁寧なヘラケズリを施す。内面はナデ調整。全面に摩耗が顕著である。胎土は極少量の砂粒を含み，焼成はやや軟質で，色調は橙色を呈す。京都Ⅱ期中に属する。

羽釜９（図20-9）　いわゆる菅原分類摂津C型に分類される羽釜の口縁部である[6]。全体に摩耗が著しく調整技法は不明である。

施釉陶器

緑釉陶器椀４（図20-4）　底径は6.6㎝で，ケズリだしの輪高台である。体部の多くが欠損し磨滅も著しく調整は不明。ただし，高台付近に２重の沈線が認められ何らかの調整の痕跡と考える。内外面ともに施釉されるが，高台内は無釉である。胎土は極少量の砂粒を含み，焼成な軟質である。京都産でⅡ期中に属する。

緑釉陶器椀５（図20-5）　底径は８㎝で高台は貼付けの蛇の目高台である。体部は欠損し調整は

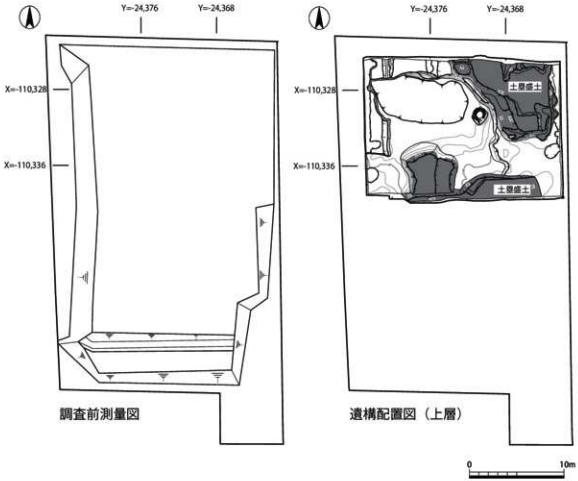


図21　遺構変遷図（1：400）

不明。内外面ともに施釉される。胎土は極少量の砂粒を含み，焼成は硬質である。尾張産で京都Ⅱ期中に属する。

灰釉陶器6（図20-6）　底径は8.4cmで高台は貼付けの輪高台である。体部が著しく欠損しているが，高台付近はケズリ，内面はナデを施す。内面にわずかに施釉が認められる。胎土は少量の砂粒を含む。焼成は硬質，色調は灰色を呈す。京都Ⅱ期中に属する。

輸入陶磁器

青磁碗10（図20-10）　体部を残すのみであるが，外面にはケズリによって鎬蓮弁文が表現されている。口縁部及び内面はナデ調整を施す。13世紀～14世紀に属する[7]。

青磁盤11（図20-11）　口縁部のみであるが，内面はケズリによって蓮弁を表現している。また，口縁部は弁に対応して窪みが見られる。13～14世紀に属する[7]。

軒平瓦

瓦12（図20-12）は唐草文軒平瓦（NS203・204）である。西賀茂角社瓦窯跡もしくは西賀茂醍醐の森瓦窯跡の製品である[9]。平瓦部凹面は布目を残し，側縁付近は面取りを施す。凸面は縦ナデを施す。胎土は砂粒と小石を含み，焼成は軟質で色調は褐色を呈す。

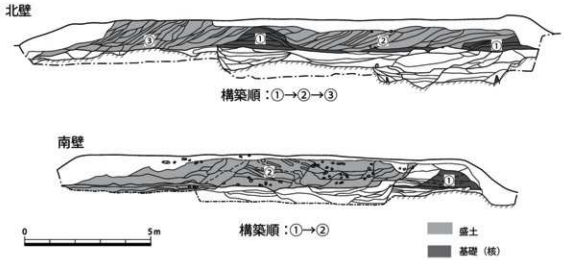


図22　土塁構築模式図（1：150）

4　まとめ

本調査では御土居盛土が最大で東西20m，南北８m，高さ１mで遺存していることを確認し，断割り調査によって西堀川小路跡も検出した。そこで周辺の調査事例を踏まえて若干の考察を加えたい。

土塁盛土の規模　元禄17年（1702）に描かれた「京都惣曲輪御土居絵図」（巻頭図版２）によると、当該地付近の東西規模を「拾四間壹尺」（約25.8m）と記録している。本調査ではこのうち20mの土塁盛土を検出したこととなる。僅かに残された土塁盛土ではあるが，元禄期に測量された状況が現在まで維持されていたことが明らかとなった。

土塁盛土の構築方法　基本的な土塁の構築方法は，以下の通りである。

①盛土構築過程で基礎（核）及び土止めとなる積土を築く。

②その後，基礎（核）の内側斜面に粘土と砂礫を斜めに積み重ねていく。

盛土には版築を施している箇所と版築をせずに厚い砂礫を投入している箇所が認められる。版築土はやや粘性をもつ砂泥土～泥砂土が主体となり，これらが構築時の土の崩落を防ぐ役割を担っていたものと推定する。このような構築方法は，下京区朱雀堂ノ口町内で実施した御土居跡発掘調査（調査３）や山科本願寺の土塁においても確認することができ[10]，大規模な土塁を構築するにあたって効果的な方法であったと考えられる。さらに，これらの構築工程に作業単位が認められることを明らかにした。

作業単位（図22）　調査区北端の土塁盛土は，堀から離れた２ヶ所（調査区東端と中央部）に礫混じりの土を水平に積み重ねて小山状の基礎（核）（図17-65 ～ 71，74 ～ 82層）を築いた後に，東端の基礎（核）の西側斜面へ礫混じりの粘質土と砂礫土を斜めに積み上げる。積み土の方向は，もう一方の基礎（東から西へ）へと向かう。次いで，中央部の基礎（核）の西側斜面に東側と同様の工法で積み土をおこなう。したがって，ここでの作業方向は東から西への意識のもとに進められたことが分かる。一方，中央から北側にかけての土塁では，中央と南西に小規模の積土（図19-11･12，32 ～ 34層）と，基礎（核）となる小山状の積土（図19-35 ～ 39層）を築き，その後，

南西側基礎（核）の北東斜面へ土砂を投入する。南壁においても基礎（核）として利用したと考えられる積土4が認められることから，中央部から南西部においても同様の工法を用いて盛土したと考えることができる。したがって，調査区南端から北側にかけての基本的な土塁盛土の作業方向は，南西から北東へ向かっていたと想定することができる。

以上の通り，土塁盛土の作業単位が調査区北端と，調査区中央部から南側にかけてでは異なっている。また、作業単位の接点部となる北端の土塁（北壁）と南北方向の土塁の接点部の堆積層は，礫の混入状況に違いが認められるものの，色調など類似する点が多くある。したがって，基底部付近のみではあるが，共通の積み土を行っている可能性がある。この点を勘案すると，御土居の造営計画段階において，基礎となる積土の位置があらかじめ選定されていたこととなる。そして，この時に決定した小山状の積土は，構築過程における基礎や土止めとなるとともに，作業単位の区分や方向を明示しているものと考えられる[13]。このように大規模造営を実施する際に作業単位を明示する方法は，短期間に大人数を作業させるのに適した方法であったことが分かる。

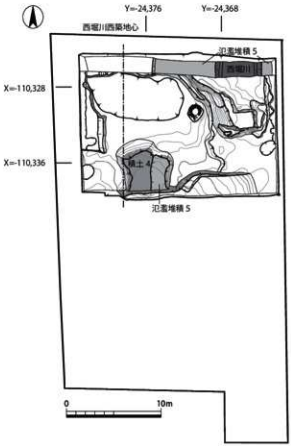


図23　遺構配置変遷図下層（1：400）

積土4と氾濫　また，留意したいのが，南西隅地で検出した積土4と砂礫堆積層（図18- 8～75層）である。積土4は南隣敷地で確認した西堀川小路西築地のほぼ延長線上に当たり，一連の遺構である可能性が高い。しかし，本調査区では断片的な確認に留まったことから西堀川小路西築地とする明確な根拠に欠ける。そのため，築地に類似する堤状の遺構とする。この堤状の積土4に向かって砂礫土が厚く堆積する。南隣の敷地においても，西堀川の氾濫堆積土とされる砂礫が築地を侵食する状況を確認しており，南壁の砂礫層も西堀川の氾濫堆積の可能性が高い。したがって，堤状の積土4は，宅地内（淳和院）を河川による氾濫の影響から防ぐために築かれた可能性が最も高いと考える。すなわち，御土居造営以前から当該地の南西側は，堤状の積土とそれを覆う氾濫層が厚く堆積していたと考えられる。そして御土居の造営は，このような地形を利用しておこなわれたと推定することが出来る。そのため南壁では氾濫層である人頭大～拳大の礫を多量に含む土で，土塁が構築され，氾濫層が南西側に向かって堆積していたため，土塁の積土の方向は南西から東へ規制されたとも考えることができる。ただし積土4の成立が平安時代まで遡りえるのかは，南敷地の発掘調査成果を待たなければならない。そこで，もう一つの試案は，想定西堀川小路西築地の位置が，中

世以降も敷地境としての意識が維持され，境を明示するための積土を構築した可能性を考える。そして，御土居の土塁の造営時に積土を核として，周辺の河川の氾濫土を盛土構築土として利用したとも考えられる。このように南端に関しては２通りの状況を考えることができるが，いずれにせよ，北側の土塁の積み方と南側の積み方では明らかに異なり，作業単位の違いが現れていることに変わりはない。作業単位の違いは，御土居造営直前の立地環境に合わせた結果とも考えることができる。短期間で御土居を完成させた背景の１つとして，自然地形を巧みに利用したことが指摘されている[12]。本調査成果においても同様の指摘をすることができ，造営場所の選定基準の一つに，土塁構築に適した自然地形を呈している場所との考え方があったと推測する。

西堀川と氾濫堆積　本調査では西堀川小路の路面跡を確認することができなかったが，幅5.4mの西堀川と幅2.5mの西堀川小路西側溝を検出した。西堀川は西堀川小路の中央に施工された人工の河川で，運河として利用されていたとされている。『延喜式』左右京職京程の注釈には「一路加堀川東西辺各二丈」とあり，西堀川の東西両側にはそれぞれ二丈の道路が施工されていた[13]。昭和57年（1982）の右京三条二坊十町における発掘調査では，幅約6mの西堀川と幅約6mの西側路面，幅約１mの西側溝を検出している[14]。したがって，三条から四条までの河川幅は約６mで維持され続けていたことが分かる。西側溝は2.45mと規定幅より大きく，西側の宅地が淳和院であることに起因するもと考えられる。さらに，西堀川の東西両岸には杭と板を利用した護岸がなされている。『延喜式』によると，京内の各戸に戸の人数によって杭を供出させたとあり，杭材の寸法は七尺から八尺，太さ三寸から五寸と決められている[15]。また，『続日本後紀』天長十年（833）条によると護岸用の杭として「楡柱一万五千株」が徴されたとある[16]。このようなことから遅くとも９世紀前半には西堀川が施工されていたと理解することができる。両岸は上流から運ばれた土砂で抉られており，そこへ泥砂が堆積している。一方，河川の中央部は砂礫で埋まっており，最終的には大雨などによる氾濫土が堆積し機能を停止したと考えられる。洪水は西堀川埋没後にも度々繰り返されており，上層には厚く氾濫堆積土が認められ，ある時期には天井川となっていたと推測する。

以上の通り，本調査では御土居跡の遺存範囲を把握するとともに構築過程を明らかにすることが出来た。また，これまで御土居の造営地の選定については幾つかの指摘があるが，今後は発掘調査成果を加えた議論をする必要があるものと考える。

なお，今回の調査・整理に際しては岩崎奈緒子氏（京都大学），中村武生氏にご指導・ご助言をいただいた。記して謝意を表したい。

（鈴木　久史）

註

1）周知の埋蔵文化財包蔵地の名称は，土塁跡と堀跡を含めた範囲を「御土居跡」とする。豊臣秀吉が造営する際に，これらをどのように呼称していたのかは明らかではない。しかし，吉田兼見『兼見卿記』天正19年正月18日に「山城堤」，浅野長政発滝川忠征宛書状天正19年4月25日「洛中惣構御普請」，とあり，様々な呼び名があった可能性が高い（馬瀬智光　第217回京都市考古資料館文化財講座「豊臣政権における聚楽第の意味」2010年）。そこで本報告では，周知埋蔵文化財包蔵地及び土塁と堀の

両方を指し示す場合は「御土居跡」もしくは「御土居」とする。

2） 森谷尅久・横井清「御土居史話」『日本美術工芸』349，日本美術工芸社，1967年。中村武生「第52話「史跡」以外の遺構」『御土居堀ものがたり』京都新聞出版センター，2005年。

3） 長門満男「6　平安京右京四条二坊十一・十二町　淳和院（96HR470）」『京都市内遺跡立会調査概報平成９年度』京都市文化市民局，1998年。

4） 平尾政幸・辻純一「右京三条二坊」『昭和57年度京都市埋蔵文化財調査概要』（財）京都市埋蔵文化財研究所，1984年。

5） 南孝雄ほか『平安京右京三条三坊三町跡・西ノ京遺跡』（財）京都市埋蔵文化財研究所，2013年。
（財）京都市埋蔵文化財研究所『昭和53年度 京都市埋蔵文化財調査概要』2011年。

6） 菅原正明「畿内における土釜の製作と流通」『文化財論叢』奈良国立文化財研究所，1983年。

7） 太宰府市教育委員会「太宰府条坊跡ＸＶ-陶磁器分類編-」『太宰府市の文化財第49集』2000年。

8） 前掲註７）。

9） 平安博物館考古第三研究室『平安京跡研究調査報告第４輯』「西賀茂瓦窯跡」(財)古代学協会，1978年。

10） 近藤知子「山科本願寺跡２」『平成９年 京都市埋蔵文化財調査概要』（財）京都市埋蔵文化財研究所，1999年。

11） 調査２・４・６で確認した堀底には畝状の凹凸が見られ，作業上の制約から生じたとする。すなわち，複数の作業班が同時に掘削を開始すると，作業範囲が接するところは掘削が雑になり掘り残しが生じ，結果的に畝状の高まりとして残されたと考えている（丸川義広「御土居跡の発掘調査とその成果」『日本史研究』第420号，1997年。丸川義広「御土居の発掘調査」『豊臣秀吉と京都 聚楽第・御土居と伏見城』日本史研究会，2001年。）このような畝状の残りは作業単位を表しているとも言え，今回確認した土塁の積土の方向の違いと関連があるものと考えられる。今後の調査では，堀の作業単位と土塁の積土単位が一連の作業分担として捉えることができるのかを明らかにする必要がある。さらに，これらの単位がいわゆる普請の割り振りと関連している可能性もあり，今後の課題といえよう。

12） 門田誠一「土城としての御土居-土築構造と立地についての基礎的予察-」『仏教大学文学部論集83号』仏教大学，1999年。

13）『延喜式』巻四二 左右京職「（略）小路十二，各四丈（一路加堀川東西邊各二丈）。」『国史大系第26』吉川弘文館，1972年。

14） 前掲註４）。

15）『延喜式』巻四二 左右京職「凡堀川杭者。不論課不課戸。皆令戸頭輪之。其戸十九人巳下一株。廿人巳上二株。 卅人巳上三株。（長八尺以下七尺以上。本径五寸。末径三寸）。」『国史大系第26』吉川弘文館，1972年。

16）『続日本後紀』巻一 仁明天皇 天長十年 五月甲寅　太政官処分。課左右京戸。令輪檜柱一万五千株。以充東西 堀河杭料。『国史大系第３』吉川弘文館，1971年。

Ⅲ- 3　平安京右京六条一坊五町跡・六条大路跡（14H149）

図24　調査位置図（1：5,000）

1　調査経過（図24）

本件は下京区朱雀分木町１における地中送電設備新築工事に伴う調査である。調査地点は，平安京右京六条一坊五町及び六条大路跡に該当する。この場所で地中送電設備の計画があったため，平成26年（2014）７月28日から８月28日まで調査をおこなった。同町については，調査地北側に隣接する京都リサーチパーク建設に伴う発掘調査が実施され，四分の三町を占める平安時代前期の貴族邸宅が発見されている[1]。邸宅は多数の掘立柱建物群で構成され，中央の柵列を境として南半に整然と配された正殿や寝殿が，北半に小規模掘立柱建物からなる雑舎群が広がり，貴族邸宅におけるハレとケの空間が明らかにされた。当時の調査では，六条大路は調査範囲外となるが，大路を越えて宅地が広がることは考えにくく，寝殿前の前庭が狭く，園池が存在しないことを確認している。

2　層序と遺構・遺物（図25・26，写真5）

層序は，GL-1.2mまで現代盛土，以下，褐灰色砂泥の平安時代整地層，-1.3mでにぶい黄橙色シルトの地山となる。検出した遺構は平安時代の整地層を切り込んで成立する東西溝である。南肩のみを認め北肩は既に削平を受けていた。幅1.1m以上，深さ0.3mを測り，長さは６m以上を確認している（A-B間）。埋土は上下2層に分かれ，下層には泥土が堆積していることから，滞水していた

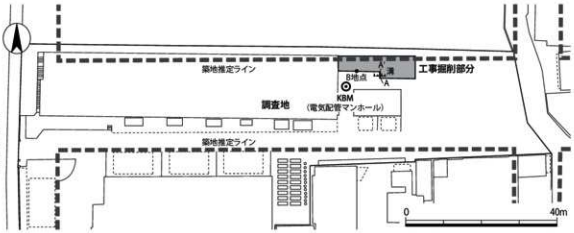


図25　調査区位置図（1：1,000）

ことがわかる。遺物は平安時代の平瓦が出土している。位置的に六条大路北側溝と捉えられる。

3 まとめ

今回確認した六条大路北側溝は，平安時代の整地層を切り込み成立していることも確認した。整地層及び溝からは平安時代の瓦以外に遺物が出土せず時期の特定はできないが，瓦を一定量含んでいることから，平安京遷都直後に開削されたものではないと判断できる。周辺域の宅地班給がおこなわれ，造営の進捗状況に合わせて掘削された可能性も考えられよう。

（西森　正晃）

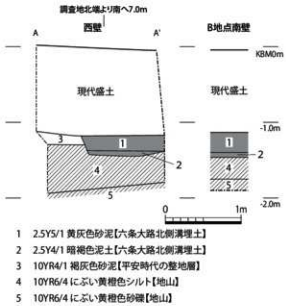


図26　A・B断面図（1：50）

註

1）梅川光隆ほか『平安京右京六条一坊－平安時代前期邸宅跡の調査－』京都市埋蔵文化財研究所調査報告第 11 冊，（財）京都市埋蔵文化財研究所，1992 年。

写真5　六条大路北側溝（東から）

Ⅲ- 4　平安京右京六条三坊十四町跡・西京極遺跡（13H521）

図27　調査位置図（1：5,000）

1　調査経過（図27・28）

右京区西院六反田町53の工場建設工事に伴う調査である。当該地は平安京右京六条三坊十四町の西端，西京極遺跡の南東端に位置する。

近辺の調査では，調査地の南側で昭和62年（1987）と平成25年（2013）に試掘調査をおこない，1987年の調査（87 HR31）では飛鳥時代の焼土坑を検出し[1]，2013年の調査（13H275）では弥生時代の落込や平安時代の楊梅小路両側溝を検出している[2]。東側では平成２年（1990）

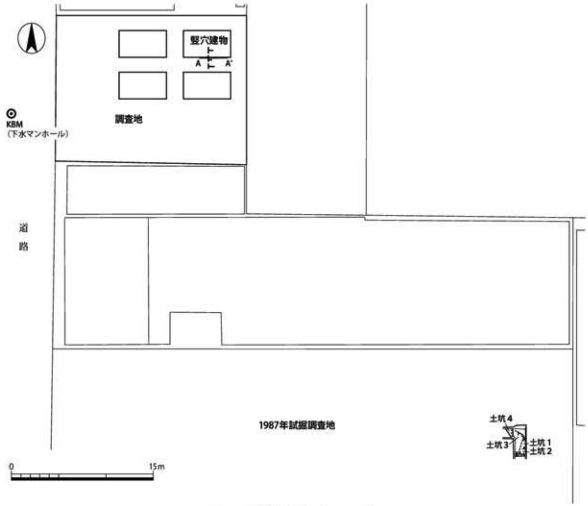


図28　遺構位置図（1：400）

の立会調査（90HR20）で弥生時代の落込を検出している[3]。北西付近では2005年の立会調査（04HR304）で弥生時代中期の土坑，溝，後期の溝を検出している[4]。調査地の近辺は遺構の残存状態が非常に良い地域である。

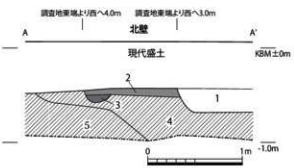
詳細分布調査は，1月8日から14日までおこない，竪穴建物1基を検出した。

2　層序と遺構（図29・30）

調査地内の基本層序は，地表下-0.5mまでが現代盛土層，-0.5m以下は敷地東側で旧耕作土層，西側では黄褐色粘土の地山を検出した。この地山を切る竪穴建物を検出した。

竪穴建物　A-A'間のKBM-0.4mの高さで幅1.0mに渡って工事掘削の北壁断面で検出した。西側の壁溝は確認できたが，東側は0.4m下る旧耕作土と考えられるオリーブ灰色砂泥によって，削平を受けていた。建物内埋土は厚さ0.1mを測る暗褐色砂泥である。床土はみられない。壁溝は幅0.3m，深さ0.1mを測る。やや幅広く検出しているので，竪穴建物が東西方向の検出断面に対して傾きを持ち，壁溝を斜めに検出している可能性がある。また，壁溝の掘り直しがおこなわれ，複数の壁溝をひとつのものとして観察している可能性も考えられる。いずれにしても，断面のみの検出のため竪穴建物の平面形状，方位に対する傾きは不明である。

埋土内からの遺物は，僅かに古墳時代の土師器小片が出土したのみである。



1　10Y5/2 オリーブ灰色砂泥（粘質）【耕作土】
2　10YR3/4 暗褐色砂泥（炭混）【竪穴建物埋土】
3　10YR4/6 褐色砂泥（炭混）【竪穴建物壁溝】
4　10YR5/8 黄褐色粘土【地山】
5　10YR5/2 オリーブ灰色粘土【地山】

図29　竪穴建物断面図（1：40）

写真6　竪穴建物（南から）

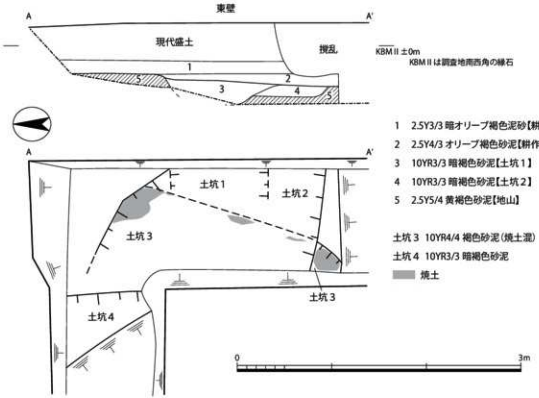


図30　1987年試掘調査 遺構平面及び断面図（1：40）

3　まとめ

今回の調査成果は，当地で竪穴建物を検出したことにより，西京極遺跡の集落域が更に南側に広がることを確認したことである。また，調査地南側の1987年試掘調査で飛鳥時代の焼土坑を検出しているが，この遺構も竪穴建物の可能性がある。竪穴建物であるならば，古墳時代から飛鳥時代にかけての集落が存在していた可能性も考えられる。近辺の調査成果で今回の調査地の西側から南側にかけては広範な湿地状堆積が広がっていることから[5]，当地の北側や東側に拡がる集落を想定でき，西京極遺跡が東へ広がる可能性もある。今後の近辺の調査に期待したい。

（吉本　健吾）

註

1）「調査一覧表」『京都市内遺跡試掘立会調査概報 昭和62年度』京都市文化観光局，1988年。

2）「Ⅵ 試掘調査一覧表」『京都市内遺跡試掘調査報告 平成25年度』京都市文化市民局，2014年。

3）「調査一覧表」『京都市内遺跡試掘立会調査概報 平成２年度』京都市文化観光局，1991年。

4）吉本健吾「Ⅱ-２ 平安京右京六条四坊三町・西京極遺跡」『京都市内遺跡立会調査報告 平成17年度』京都市文化市民局，2006年。

5）前掲註４）。

Ⅲ- 5　平安京右京六条四坊八町跡・西京極遺跡（14H180）

1　調査経過（図31）

本件は，右京区西院月双町地内におけるコンビニエンスストア建設に伴う調査である。調査地は，平安京右京六条四坊八町跡南西隅及び西京極遺跡に該当する。

図31　調査位置図（1：5,000）

周辺は遺構の残存状況が良好である。調査地北側で平成18年度（2006）と平成24年度（2012）に発掘調査を実施しており，古墳時代中・後期と奈良時代の竪穴建物を21棟，飛鳥時代の掘立柱建物１棟，奈良時代の掘立柱建物３棟，平安時代前期の掘立柱建物１棟，柵列などを検出している[1]。平成25年度（2013）の発掘調査では，古墳時代中・後期の竪穴建物７棟，奈良時代の竪穴建物22棟，奈良時代から平安時代の掘立柱建物６棟などを確認している[2]。上記の成果から，古墳時代中期に集落が形成されて以降，大規模な集落に発展し，奈良時代には格式の高い掘立柱建物群が建てられ，葛野郡衙の可能性が指摘されている[3]。

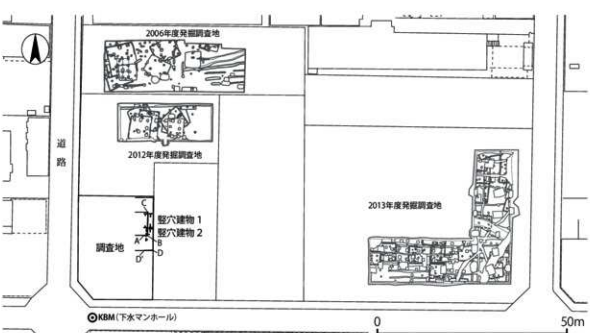


図32　遺構位置図（1：1,000）

したがって，今回も同時代の遺構群が展開することが期待された。調査は7月25・28日に実施し，竪穴建物２棟，落ち込み等を検出した。

2　層序と遺構（図33）

基本層序は，GL-0.7mまで盛土で，以下，時期不明の包含層，-0.8mでにぶい黄橙色シルトの地山となるが，調査区西半及び南半には包含層は認められない。遺構は全て地山上面で成立する。

竪穴建物１　B-C間の掘削断面で南北3.6m，深さ0.1mを測る。断面のみの検出のため，建物の振れは不明である。壁溝は床面北端で幅0.4m，深さ0.1m以上，南端で幅0.1m，深さ0.1mである。床面中央には幅0.5m，深さ0.1m以上の土坑が認められる。遺物は出土せず，時期は不明であるが，形状，位置から主柱穴では無い。

竪穴建物２　B-C・A-B間の掘削断面で南北1.2m，東西0.2m，深さ0.1mを測る。断面のみの検出のため，建物の振れは不明である。壁溝は北側のみ存在し，幅0.2m，深さ0.2m以上である。主柱穴，貯蔵穴は認められない。遺物は出土せず，時期は不明である。

落込１　B-C間北端の掘削断面で南北0.9m以上，深さ0.15m以上を測る。掘方の立ち上がりが急なため，竪穴建物の可能性もある。

3　ま と め

今回の調査では，竪穴建物２棟を含め多数の遺構を確認した。遺物の出土は少ないため，遺構の年代は不明であるが，周辺調査事例と同時代のものと理解できよう。2006年度調査区東半，2013年度調査区西端には落込が存在することがわかっており，今回の調査地は，落込西側に広がる微高地に位置することが明らかとなった。

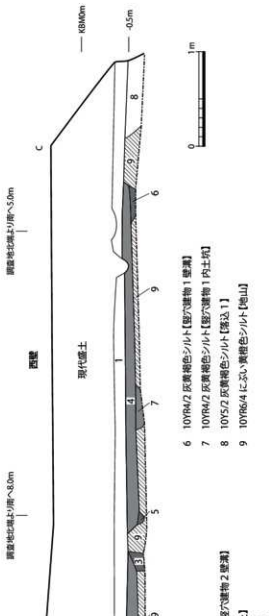


図33　A-B-C間遺構断面図（1：40）

西京極遺跡は，東側に縄文時代中期末から奈良時代まで続く大規模な旧河川が流れており[4]，遺跡内には，支流と考えられる旧河川や低湿地が多く存在していた。集落域はその間の微高地上に存在し，中心域は時期によって変動するものの，弥生時代中期以降，平安京遷都に至るまでほぼ途切れることなく営まれている。これまでの調査で生産域は確認されていないが，豊富な低湿地は水田耕作に適地であり，良好な生産域を抱えた西京極遺跡は，地域の拠点集落として発展したのである。今後は生産域の確認も視野にいれて，周辺の調査に臨む必要があろう。

（西森　正晃）

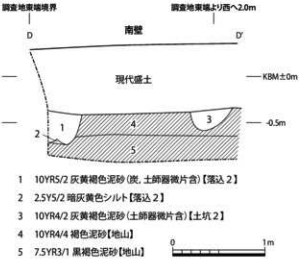


図34　D-D' 間遺構断面図（1：40）

写真７　竪穴建物１南側壁溝と
竪穴建物２南側壁溝（東から）

写真８　B-C間断面（北東から）

註

1）柏田由香『平安京右京六条四坊八町跡・西京極遺跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2006-14，(財)京都市埋蔵文化財研究所，2006年。
柏田由香「平安京右京六条四坊八町跡・西京極遺跡」『京都市内遺跡発掘調査報告 平成25年度』京都市文化市民局，2014年。

2）佐藤好司ほか『平安京右京六条四坊八町跡・西京極遺跡』(株)イビソク，近日刊行予定。

3）前掲註１)。

4）堀内明博ほか『平安京跡研究調査報告 第20輯　平安京右京六条三坊』(財)古代學協会，2004年。

Ⅲ- 6　平安京右京七条二坊十五町跡（13H662）

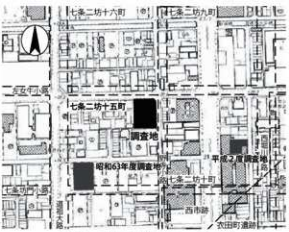


図35　調査位置図（1：5,000）

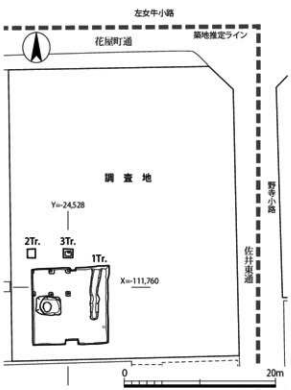


図36　調査区位置図（1：500）

1　調査経過（図35）

調査地は下京区西七条掛越町26- 1に所在し，平安京右京七条二坊十五町の北東隅にあたる。周辺では昭和63年に同町内の南西部で，七条坊門小路の北側溝や９世紀後半の掘立柱建物，井戸などを検出しているほか[1]，平成２年に西大路通の東側で平安時代前期の掘立柱建物・井戸・四門八行制の行界をしめす柵列などがみつかっている[2]。したがって，今回の調査地でも平安時代前期の居住域が広がっていると予想された。

平成26年４月30日に店舗新築工事に伴って試掘調査をおこなったところ，平安時代前期の溝・井戸がみつかり，記録保存のための調査が必要となった。ただし，遺構の残存状況が限定的であったため，工事工程と調整の上，事業者が重機を提供し，同年5月12日から16日まで詳細分布調査として遺構の確認と記録作業をおこなった。

調査は，現代盛土と耕作土を機械で掘削したのち，遺構検出・掘削などを人力でおこなった。また，併行して写真撮影・図面作成などの記録作業を実施した。調査面積は100㎡である。

2　層序と遺構（図37・40）

調査地の基本層序は，現代盛土が厚さ0.6 ～ 0.8m，現代耕作土が厚さ0.2 ～ 0.3m，床土もしくは近世耕作土が厚さ0.1mで堆積し，以下は地山であった。遺構の検出は地山直上でおこなった。なお，地山は平坦な状態の調査区北西端で砂礫，南東では砂礫の上に堆積する厚さ約0.3mの細砂からシルト層であった。同じ高さで南東の方が地層

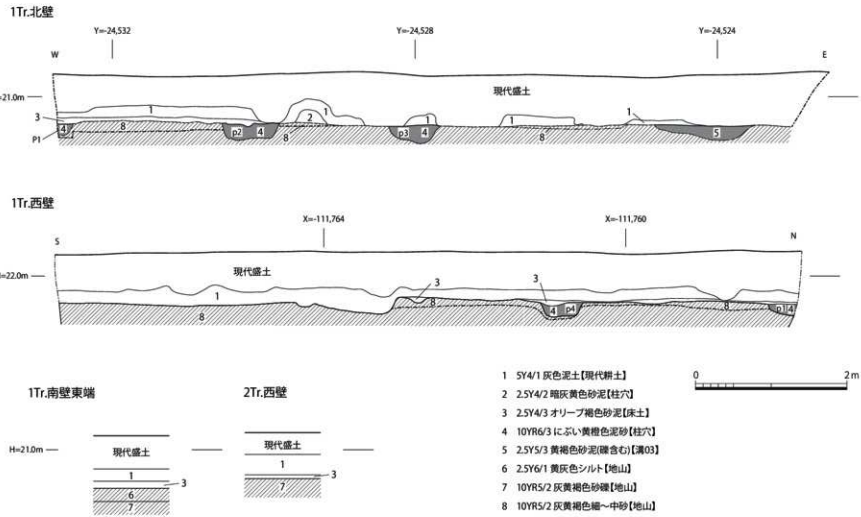


図37 調査区断面図（1：50）

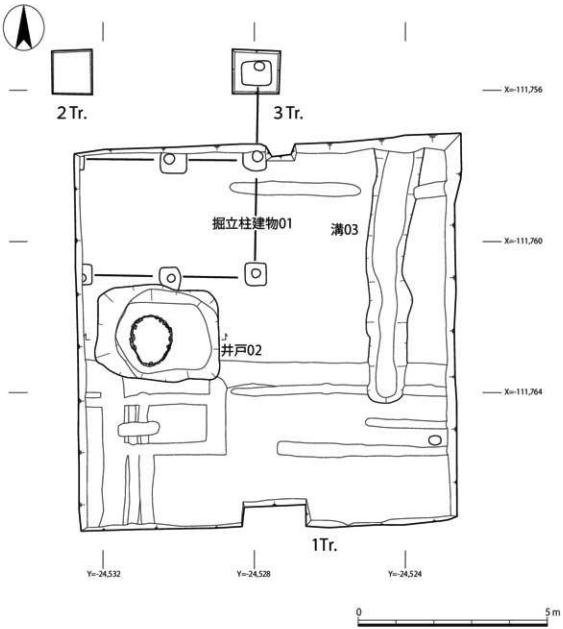


図38　調査区平面図（1：100）

の残りが良いことから，旧地形は北西が高く南東が低かったと推測される。

また，西壁の中央付近には現代の畦畔と区画溝が観察された。壁面観察から現代の耕作地は北半と南半で分かれており，北が高く，南が1段低くなっていたことがわかる。この畔の位置は周辺の地割と共通しており，なんらかの区画を踏襲している可能性がある。なお，調査地南半は平安時代の遺構が希薄であったが，これが区画の違いのためか，耕作によって削られたためかは不明である。

検出遺構は掘立柱建物1棟，井戸1基，南北溝1条である。

掘立柱建物の柱穴からは遺物が出土しなかったが，柱穴の形状と他の遺構の出土遺物から，今回の調査で確認した遺構の時期は平安時代前期と考えられる。

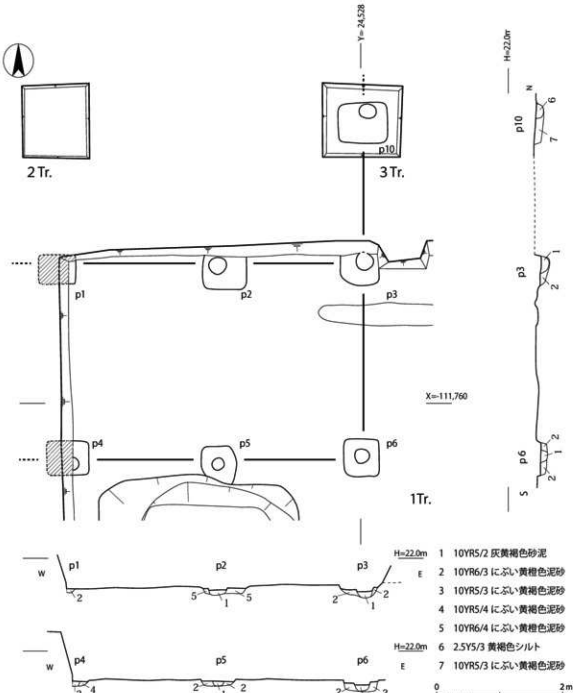


図39　掘立柱建物01実測図（1：60）

掘立柱建物01　調査範囲内で南北1間，東西2間を検出した。方位は北で東に2度傾いている。南北の柱間3.0m，東西の柱間は2.4mであった。南北の柱間が広いことから廂付の建物である可能性を想定し，柱筋の北側をそれぞれ拡張した（2・3Tr.）。その結果，2Tr.では何も検出せず，3Tr.で柱穴を検出した。このため掘立柱建物01は南廂付東西棟の建物であると考えられる。柱穴の掘方は隅丸方形で，身舎部分の柱穴の大きさは長辺0.8m，短辺0.7m，柱あたりの直径は0.2mであった。廂の柱穴は掘方が一辺0.5m，柱あたりの直径は0.2mであった。深さは検出面から約0.2mで，

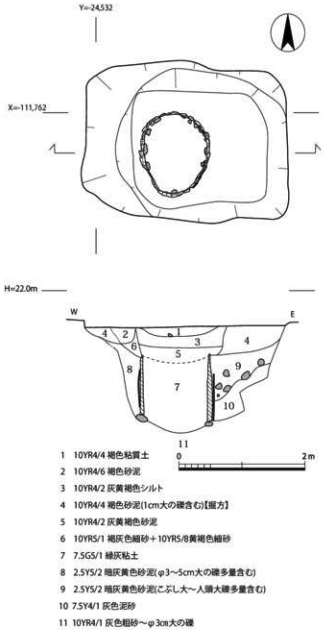


図40　井戸02平面及び断面図（1：60）

写真9　井戸の枠板と薄板（南東から）

埋土は柱あたりが灰黄褐色砂泥，掘方がにぶい黄褐色泥砂であった。

井戸02　調査地の西端で検出した。掘方は東西3.4m，南北2.4mの不整方形で，中心よりやや西寄りに縦板組で円形の井戸枠を検出した。井戸枠は掘方の肩から0.6m下がったところで検出し，内径は約0.9m，深さは1.2mである。井戸枠に使用された板材は幅10 ～ 15cm，厚さ８cm前後，全長は上部が痩せていたため不明だが残存長は90 ～ 100cmである。側面にはホゾ孔が1箇所あり，ダボで板材同士を固定させていた。孔は幅２cm，長さ６cmの方形で，下端から56cmの高さにあけられていた。

このほか，井戸枠板材の外側には厚さ0.5cmの薄板が枠材を包むように配置され（写真９），薄板は互いを３cm前後重ね合わせられていた。

また，井戸枠の下には高さ調整のため拳大から人頭大の礫が入れられていた。井戸枠内は緑灰色の粘土で埋まっていた。

掘方は，検出面からの深さ1.5mで湧水層と考えられる砂礫層を掘り下げており，井戸枠に接した掘方の埋土には拳大から人頭大の礫が多量に含まれていた。とくに東掘方は人頭大の礫を多量に含み，礫が人為的に入れられたことが推測される。掘方の下層からは土師器皿１（図41- １）が出土し，このことから細片のため確実性に欠けるが井戸が掘られた時期は9世紀の中頃に遡るものと考えられる。なお，掘方上部は廃棄時に掘りかえされた可能性があり，井戸枠内と同時期の遺物を含む。埋土は褐色の砂泥である。井戸からは土師器，須恵器，黒色土器，緑釉陶器，灰釉陶器，白磁などの土器類のほか，斎串，付木などの木製品や平瓦が出土した。

溝03　調査区の東側で検出した南北方向の

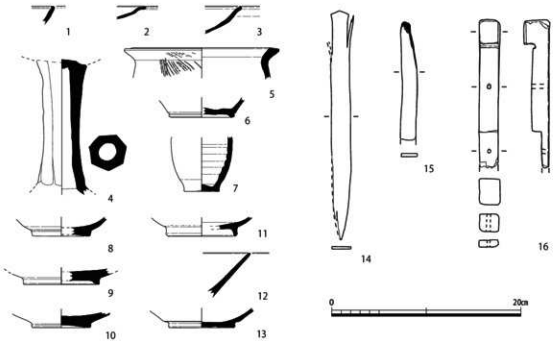


図41　井戸02出土遺物実測図（1：4）

溝である。幅1.2m，検出面からの深さは0.1mである。埋土は黄褐色砂泥で，土師器，須恵器，黒色土器，緑釉陶器，灰釉陶器，白磁などが出土した。

3　遺　物（図41・42）

今回の調査からは土師器・須恵器・緑釉陶器・灰釉陶器・輸入陶磁器のほか少量の木製品が出土した。土器類の総破片数は324片で，各土器類の出土比率は土師器71.0％，須恵器６.0％，緑釉陶器16.0％，灰釉陶器1.5％，黒色土器4.0％，輸入陶磁器1.5％である。土師器を除くと須恵器22.0％，緑釉陶器56.0％，灰釉陶器４.0％，黒色土器14.0％，輸入陶磁器4.0％である。少量での統計ではあるが，やや緑釉陶器が高い傾向を示している。

井戸の掘方下層から細片ではあるが土師器杯１が出土した。井戸枠内からは土師器皿２・３・高杯４・甕５，須恵器高台付杯６・小壺７，緑釉陶器椀８～10，灰釉陶器椀11，越州窯系青磁椀12，白磁椀13や斎串14・付木15・部材16などの木製品が出土した。

１は細片であるが土師器の杯で口縁端部がつまみあげられている。５は土師器甕で外面にタテ方向のハケメが残り，内面はナデられている。緑釉陶器８の焼成は硬質，９・10は軟質で，いずれも京都産である。11は灰釉陶器で釉薬はハケ塗りされている。13の白磁椀は蛇の目高台で，胎土は精緻である。16の部材は２ヶ所木釘孔があり，上部の孔には木釘が残存していた。

このほか井戸埋土内からは，細片のため図化できなかったが黒色土器A類椀や平瓦が出土した。１は少し古い様相を示し９世紀中頃，その他の遺物はいずれも9世紀後半のものである。

溝03からは土師器杯17・皿18・高台付皿19，緑釉陶器椀20・21・壺22，灰釉陶器小壺23・24，白磁椀25が出土した。緑釉陶器20は軟質・21は硬質でいずれも京都産である。22は緑釉陶器

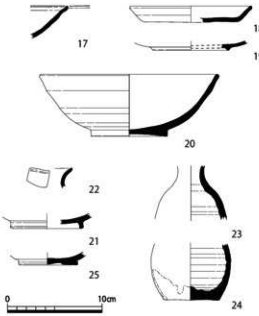


図42　溝03出土遺物実測図（1：4）

小壺の注口部である。23・24は灰釉陶器小壺で同一個体の可能性がある。25の白磁椀は蛇の目高台で，胎土は精緻である。遺物の時期は9世紀後半と考えられる。

4　まとめ

今回の調査では平安時代前期の建物，井戸，溝を検出した。溝は調査開始当初，四行八門の区画の可能性が考えられたが，測量の結果，四行八門の地割りは調査区内にかからないことがわかった。検出された建物は廂付の東西棟建物で，出土遺物には緑釉陶器，灰釉陶器，この時期には出土例が少ない輸入磁器が含まれていることなどから，この建物を含む敷地は四行八門の区割りよりも広いものだったと推定される。

周辺の調査成果では事例が少ないものの，同町の南西端の調査地や東に接した同十町の東側の調査地で平安時代前期の掘立柱建物がみつかっている。

ただし十町内の他の場所でおこなわれた試掘調査では各地で湿地が確認されていることから，[3] 微妙な高低差の中で安定した場所には建物が建てられており，居住区と湿地が混在していたような風景が想像される。

（赤松　佳奈）

註

1）菅田薫「24 平安京右京七条二坊」『昭和63年度 京都市埋蔵文化財調査概要』（財）京都市埋蔵文化財研究所，1993年。

2）堀内明博「22 平安京右京七条二坊」『平成2年度 京都市埋蔵文化財調査概要』（財）京都市埋蔵文化財研究所，1994年。

3）「Ⅵ 試掘調査一覧表」『京都市内遺跡試掘調査報告 平成25年度』京都市文化市民局，2014年。

Ⅳ－1　植物園北遺跡（14S029）

1　調査経過（図 43・44）

調査地は史跡賀茂別雷神社境内（上賀茂神社）の南東約 200m の場所で，植物園北遺跡の北西部に該当する。周辺の調査では顕著な成果はあがっていないが，この場所で保育所の建設が計画されたため詳細分布調査をおこなった。

調査は 7 月 24・25・29・30・31 日，8 月 1 日におこなった。

図 43　調査位置図（1：5,000）

2　層序と遺構（図 45）

基本層序は，現代盛土，褐色砂質土（近世遺物包含層），灰黄褐色粘質土（平安時代包含層），褐灰色～黒褐色砂礫（地山）である。近世包含層や平安時代包含層は南半のみ堆積していた。

敷地北半で検出した土器溜りから，多量の土師器が出土した。土器溜りは現代盛土直下の GL-0.4 m で検出した。部分的な調査のため規模は不明だが，少なくとも東西 1.7 m以上，南北 3.5 m以上の規模がある。A 地点で南肩を検出し，北肩は調査区外にのびる。また，西肩は B' 地点で肩部とみられる上がりがみられるが，東肩は調査区外にのびる。検出した深さは約 0.8 m である。

図 44　調査区位置図（1：500）

土器溜りは 4 ～ 10 層に分けることができ，特に 4 ～ 6 層から平安時代後半の土器が多量に出土した。そのほかの層にも土器は含まれているが少ない。

そのほかの検出遺構は平安時代の包含層とピットである。ピットは包含層の下層で検出したがいずれも平安時代後半であると考えられる。

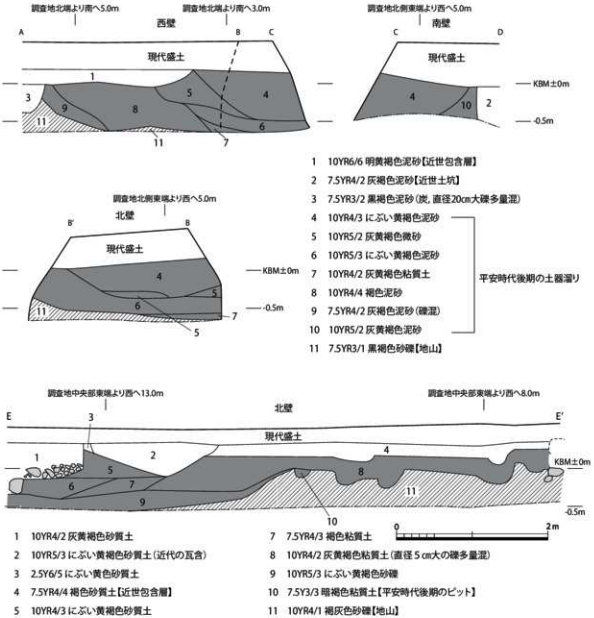


図45　断面図（1：50）

3　遺　　物（図46）

土器溜りと平安時代の包含層から平安時代後半の土師器が出土した。特に土器溜りからは多量の土師器が出土した。

1～40は土器溜りから出土した土師器である。

1～3は皿Ａｃである。口径9.2～12.0cmで，器高が0.9～1.4cmある。円盤状の底部周縁部が浅く凹み，口縁端が内方へ折り曲げられる。4～11は皿Ａである。口径9.4～10.4cmであり，「て」の字状口縁を呈するが，口縁部の仕上げが悪いものもみられる。

12～37は皿Ｎである。大小２法量みられる。口縁が外反するものもみられるが，口縁部上部から端部が立ち上がるものもみられる。12～17は皿Ｎ小で口径9.6～12.0cmである。18～37は皿Ｎ大で口径13.0～17.6cmである。口縁部から体部外面には２段ナデが施されるものがある。

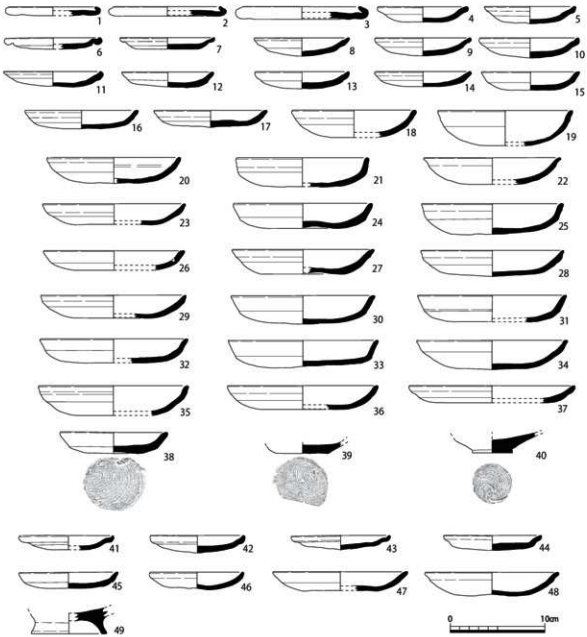


図46　出土遺物実測図（1：4）

26には内面に穿孔痕跡が見られる。38～40はロクロ土師器であり底部に糸切り痕跡が残る。38は皿で口径11.4cm，器高2.2cmである。40は白色土器の皿である。

41～49は包含層から出土した土師器である。41～44は皿Aである。口径10.0～10.4cmであり，口縁部の仕上げが悪いものがみられる。45～48は皿Nである。大小2法量みられ45・46が皿N小で口径9.8～10.4cm，47・48が皿N大で口径14.0cmである。口縁部から体部外面には2段ナデのものと，2段ナデが不明瞭になるものがみられる。49は台付皿である。

これらの遺物は，京都V古（平安時代後半）に位置づけられる。また，平安京内で出土する土器と比べ器壁が厚く，白色系のものが多い。土器溜り出土土器と包含層出土土器に明確な時期差はみられない。

写真10　B地点土器出土状況（東から）

写真11　C地点土器出土状況（北東から）

4　ま と め

周辺ではこれまで顕著な調査成果はなかったが，今回の調査で平安時代後半に位置づけられる多量の土器が出土したことは重要な成果であった。

今回出土した土器は，ロクロを使用したものが含まれ，胎土が白色のものが多く，平安京などで出土する土器とは様相が異なる。このような傾向は，当該地が史跡賀茂別雷神社境内（上賀茂神社）の南東約 200m の場所にあることや，社家町が広がっていた地域とみられることから推測すると，上賀茂神社の社家で使用していた土器を一括廃棄したものと考えられる。

植物園北遺跡は弥生～古墳時代の集落と平安時代の集落遺跡であるが，今回出土した土器群から，平安時代には上賀茂神社周辺には社家町が広がっており，その遺構群が浅いところで残存していることが明らかになった。今後，植物園北遺跡における平安時代の遺構の広がりや集落のありかたについて再検討が必要である。

（家原　圭太・熊井　亮介）

Ⅳ - 2　大徳寺旧境内（13S674）

1　調査経過（図 47・48）

本件は，北区紫野大徳寺町 55 における小方丈新築工事にともなう調査である。調査地は大徳寺旧境内の北東にある塔頭芳春院の敷地にあたる。芳春院は，慶長十三年（1608）に前田利家夫人松子によって，玉室宗珀（1572～1641）を開祖として創建された。

周辺では，平成 23 年度に調査地東側の福祉施設建設にともなう試掘調査において[1]，東西方向の濠 2 条が確認された（図 48）。北側の濠は幅 6.5 m，深さ 3.5m，南側の濠は幅 4.5m，深さ 2.5m を測り，いずれも近世前半に埋め戻されていることが明らかとなった。2 条の濠が併存していたかは不明であるが，18 世紀初頭に描かれた『紫野龍寶山大徳禅寺方境』には大徳寺を囲う「総堀」1 条が描かれている[2]。

上記の成果から，濠が確認されることが想定され，掘削工事にともない 4 月 4 日に調査を実施した。その結果，東西方向の濠状遺構の南肩を確認した。

図47　調査位置図（1：5,000）

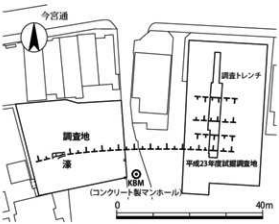


図48　遺構位置図（1：500）

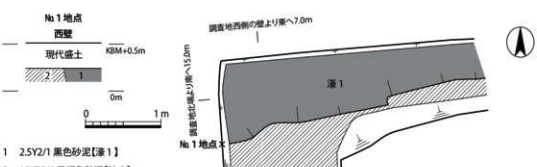


図49　遺構平面及び断面図（1：50）

写真12　濠１（東から）

層序は，現代盛土直下，GL-0.3mにて黄褐色砂泥の地山となる。地山上面で成立する濠１は，東西方向を示し，南肩を確認した。規模は幅1.0m以上で北肩は調査区外に広がり，長さは3.5m以上でさらに東西に伸びる。遺物の出土は無く時期は不明である。

３　まとめ

濠１は南肩を確認したのみであるが，前述した東側の濠の延長にあたることは間違いない。位置的には２条ある濠のうち，南側の濠の続きとなる。南肩の傾きが東側と比べてやや南に傾くが，これは現今宮通の傾きと同一であり，大徳寺境内を囲む「総堀」の一部として捉えられよう。現在は境内の南東隅に部分的に残るのみとなった濠であるが，近世に描かれた絵図が示すように，境内全域を囲む濠が存在したことを証明する事例として貴重である。

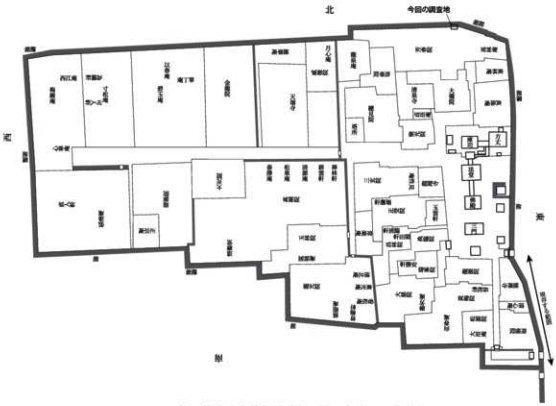


図50　紫野龍寶山大徳禪寺方鏡（註２掲載図に加筆）

なお，計画建物は木造で掘削深度も浅く，遺構面は地中に保存されている。

（西森　正晃）

註

1）家原圭太「大徳寺旧境内」『京都市内遺跡試掘調査報告 平成23年度』京都市文化市民局，2012年。

2）中居和志「大徳寺旧境内」『京都府中世城館跡調査報告書第3冊－山城編1－』京都府教育委員会，2014年。

Ⅳ - 3　上京遺跡（13S615）

1　調査経過（図 51）

本件は，上京区小川通今出川下る西入東今町374 ほかに計画されたマンション建設工事にともなう調査である。上京遺跡には室町時代の市街地が広がり，将軍家や公家屋敷・寺院などが建ち並んでいたと考えられるが，調査地の付近では試掘・発掘調査がほとんどおこなわれておらず，遺跡の詳細はいまだ不明な点が多い。

調査地は，大永 5 年（1525）に描かれた洛中洛外図屏風歴博甲本では「極楽寺」という寺院が描かれている周辺に該当する。ただし，地名の「今町」は元亀 2 年（1571）の御借米之記中の上京小川組のなかに見え，寛永 14 年（1637）の洛中絵図には，小川と堀川の間が「今町」と記されていることから，16 世紀後半には町屋になっていたと推測される。[1)]

図51　調査位置図（1：5,000）

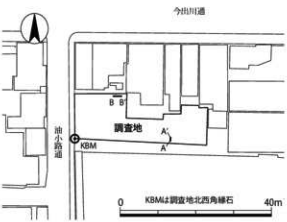


図52　調査断面位置図（1：1,000）

2　層序と遺構（図 52・54）

調査地では 5 ヶ所で土層を確認した。このうち代表的な A-A'，B-B' 地点について記す。A-A' で確認した層序は KBM-1.1 ～ 1.3m までが現代盛土，一部に黒褐色砂泥の近世包含層が残り，-1.3m 以下が地山である。

B-B' の層序は KBM-1.0m までが現代盛土，-1.3m までがにぶい黄褐色シルトからなる包含層，-1.5m まで黒褐色泥砂，以下にぶい黄褐色砂泥からなる地山である。

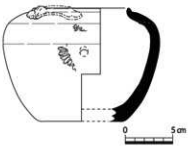
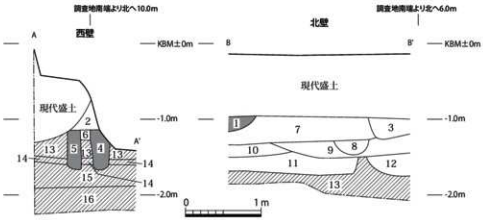


図53　瓦器壺実測図（1：4）

A-A' では室町時代のピットや断面図にはかからなかったが土坑を確認した。この地点で確認した土坑から，図 53 の瓦器壺 1 ほか，細片のため図化しなかったが，土師器皿片，白磁小片などが出土した。　（赤松　佳奈）



1　N3/0 暗灰色泥砂【江戸時代前期の落込】
2　10YR3/2 黒褐色砂泥（炭，焼土，礫混）【桃山時代～江戸時代初期の包含層】
3　10YR4/1 褐灰色泥砂【室町時代の落込】
4　10YR4/2 灰黄褐色泥砂（炭含む）【室町時代前期のピット１】
5　10YR4/1 褐灰色砂泥（炭，礫混）【室町時代前期のピット２】
6　10YR3/2 黒褐色泥砂
7　10YR5/4 にぶい黄褐色シルト【時期不明の包含層】
8　10YR4/1 褐灰色泥砂【時期不明の土坑】
9　10YR3/1 黒褐色泥砂
10　2.5Y3/2 黒褐色泥砂（小礫多量混）
11　10YR2/1 黒色泥砂
12　10YR2/1 黒色泥砂（礫混）
13　2.5Y6/3 にぶい黄褐色砂泥
14　10YR5/2 灰黄褐色シルト
15　10YR3/1 黒褐色シルト
16　10YR3/3 暗褐色シルト
【地山】

図54　遺構断面図（１：50）

3　遺　　物（図53）

土坑から瓦器が出土している。口縁部がすぼまる壺型であり，双耳壺のような耳が付き，体部中央付近に外面から内面に向けた焼成前穿孔がある。この穿孔の周囲には菊花文状の手彫りの陰刻を施す。調整は内面がナデ，外面は布状工具で磨いており，底部にはいわゆる奈良火鉢などの大和産瓦器大型品に通有の離れ砂の痕跡はない。胎土には黒色粒や白色砂粒などが多く含まれる。調整や胎土から大和産ではなく，瓦器鍋や羽釜と同じく楠葉周辺で生産されたと推定する。類例がなく，生産時期は不明だが，穿孔周辺の文様が菊花文であれば，14 世紀の奈良火鉢が持つスタンプ菊花文の影響を受けていると考えられ，14 世紀の所産である可能性が高い。内面に付着物はないため，内容物は不明だが，穿孔は管を取り付けることで注ぎ口にした可能性が考えられ，液体が入っていたと推察する。

（新田　和央）

註

1）『角川日本地名大辞典　26　京都府　下巻』角川書店，1982 年。

写真13　A-A' 間断面
（東から）

写真14　ピット２
完掘状況（東から）

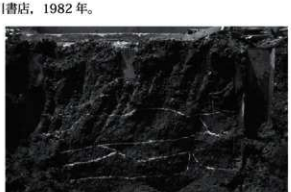


写真15　B-B' 間断面（南から）

Ⅳ - 4　白河街区跡・岡崎遺跡（14S001）

図55　調査位置図（1：5,000）

図56　調査断面位置図（1：1,000）

1　調査経過（図 55）

調査地は，左京区岡崎西天王町 80 他で，名勝平安神宮神苑の北東に隣接し，北側には丸太町通が通る。ここで，宗教法人施設の収蔵庫等が建設されることになったことから，掘削工事にともない詳細分布調査を実施した。調査期間は，平成 26 年 6 月 6 日から 6 月 20 日である。

当該地は，白河天皇が承保 2 年（1075）に法勝寺を建立して以降，院御所である白河殿や「勝」字をもつ御願寺が造られた白河街区跡の一画を占める。調査の結果，白河街区跡の都市計画を考察するうえで重要と考えられる東西溝を検出した。

2　層序と遺構（図 56 ～ 58）

当該地の基本層序は，GL-0.4m まで現代盛土，-0.8m まで近世の遺物包含層である黒褐色泥砂層，-0.9m で地山の褐灰色粘土層に達する。平安時代末期の東西溝（溝 1）は，この地山上面で検出した。

溝 1　幅 4.8 ～ 5.0m，深さは最大で 0.9m を測る。調査区の東壁と西壁では全く異なる堆積状況を示す。東壁（図 57）の観察から，2 回程度の造り替えがあると考えられる。古期は 7 層，9 層，10 層の埋土が相当し，断面は浅い皿形を呈する。9 層の黄灰色粗砂は，流水のあったことを示している。中期は 6 層・8 層で，幅 1.2m 前後，深さ 0.5m 程度の断面 U 字形を呈する。褐灰色粗砂の 6 層，褐灰色微砂～シルトの 8 層とも，流水があったことを示している。新期は 4 層・5 層で，幅約 3.0m，深さ約 0.5 m を測り，断面形状は浅い皿形を呈する。出土遺物の時期に大きな差はなく，短期間に何度も造り替えられたと考えられる。東壁及び平面観察可能であった部分については，護岸等の痕跡は認められなかったが，古期の溝で性格不明の径 0.1 m 程度の杭を検出した。

西壁（図 58）は複雑な堆積を示しているが，この断面観察からも，2 回程度の造り替えを確認した。古期は，9 層・12 層で，13 層～ 17 層もこの時期の溝にともなうものと考えられる。これらの層は，竪穴建物の壁溝に近い断面を呈しており，古期の溝の両側を板材で護岸していた可能性

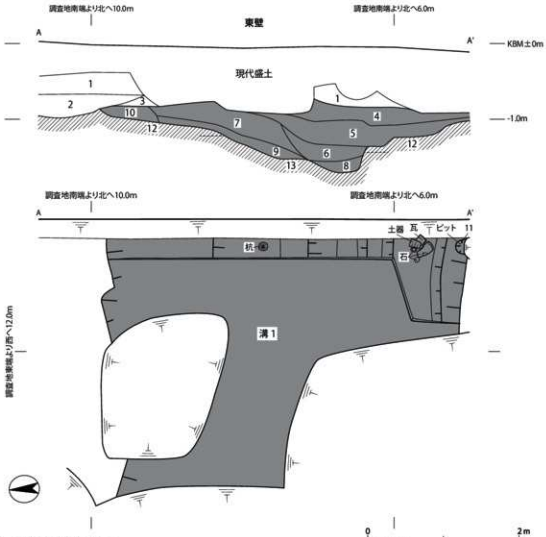
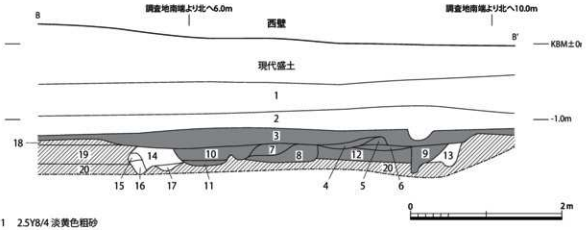


図57　遺構平面及びA-A'間断面図（1：50）

がある。9層も板材が据えられていた可能性がある。この時期の溝の規模は，幅約 4.3 m，深さ 0.3 mを測る。断面は浅い箱形を呈する。黄灰色シルトに灰白色シルトを含む 12 層は流水痕跡であり，東壁の 9 層に相当する。中期は，7 層～ 11 層を埋土にもつ浅い箱形を呈する溝で，幅約 1.8m，深さ約 0.2 mを測る。10 層及び 11 層は，流水堆積を示す粗砂層であり，東壁の 6 ・ 8 層に比定できる。新期は 3 層～ 6 層を埋土にもち，幅 5.0 m以上，深さ 0.2 mを測る。断面の形状は浅い皿形を呈している。西壁の古期の溝の端部が護岸されていたとすると，門など特に養生を施す必要のあった施設が存在した可能性がある。

溝 1 は，調査区の東西で大きく堆積状況が異なるものの，およそ 3 時期の変遷をたどることがで



1　2.5Y8/4 淡黄色粗砂
2　2.5Y3/1 黒褐色泥砂（締まりあり，炭化物含む）【近世盛土】
3　2.5Y4/2 暗灰黄色砂泥
（締まりあり，土師器混入，シルト塊を含む）【溝１埋土】
4　5Y7/4 浅黄色粗砂【溝１埋土】
5　5Y4/2 灰オリーブ色砂泥【溝１埋土】
6　10YR5/1 褐灰粗砂～シルト【溝１埋土】
7　10Y5/4 にぶい黄褐色砂泥（土師器含む）【溝１埋土】
8　10YR5/2 灰黄褐色砂泥（よく締まり，土師器含む）【溝１埋土】
9　5Y3/2 オリーブ黒色泥砂（土師器含む）【溝１護岸埋土】
10　5Y4/1 灰色粗砂（やや締まる，土師器含む）【溝１埋土】
11　5Y3/1 オリーブ黒色粗砂（土師器含む）【溝１埋土】
12　2.5Y4/1 黄灰色シルトに 2.5Y7/1 灰白色シルト含む【溝１埋土】
13　5Y3/2 オリーブ黒色泥砂に 2.5Y7/1 灰白色シルト含む
【溝１護岸埋土】
14　5Y4/1 灰色粗砂に 5 Y8/4 淡黄色微砂～シルト大量に含む
【溝１護岸埋土】
15　5Y/1 灰色シルト【溝１護岸埋土】
16　2.5Y4/1 黄灰色シルト～粗砂【溝１護岸埋土】
17　5Y4/1 灰色シルト【溝１護岸埋土】
18　10YR8/6 黄橙色微砂【地山】
19　10YR3/1 黒褐色シルト【地山】
20　2.5Y7/1 灰白色シルト【地山】

図58　B-B' 間遺構断面図（1：50）

きた。注目すべきは，この溝の位置である。当該地は，法勝寺西道（東），名称未詳南北小路（西），大炊御門大路末（南），春日小路末（北）に囲まれた方形街区の中央部分に相当する[1]。特に，検出した東西溝は，春日小路末と大炊御門大路末の中間，南北二分の一町ラインに近接しており，この方形街区を東西に二分する区画溝であると考える。

3　遺　　物（図 59）

東西溝からは，土師器，須恵器，灰釉系陶器，瓦器，瓦質土器，輸入陶磁器，瓦片等が出土した。

土師器皿（1）は口径 7.1cm，器高 2.0cm で，側壁が鋭く湾曲する珍しい形である。白色系土師器皿（2）は口径 8.6cm，器高 2.1cm で，底部に回転糸切り痕が認められる。土師器皿 Ac（3 ～ 5）は，口径 8.2 ～ 9.8cm の範囲に収まる。5 は土師器皿 Ac の上に別の皿が融着している。遺物の大半を占めるのは，土師器皿 N（6 ～ 24）である。皿 N 小（6 ～ 15）は口径が 9.2cm 前後のものと，口径 10.2cm 前後のものがある。皿 N 中（16 ～ 18，20 ～ 23）は，口径が 13.7 ～ 14.5cm に収まる。皿 N 大（19・24）は，口径が 15.5cm 前後である。

25・26 は瓦器椀である。26 は口径 14.2cm，器高 4.7cm の楠葉型である。27・28 は，東海系の灰釉系陶器（山茶碗）であり，高台に籾殻圧痕，底部には糸切り痕が残る。他に図化できなかったものの，東播系須恵器鉢，玉縁をもつ白磁椀，越州窯系青磁椀なども出土している。29 は瓦質羽釜の口縁部である。出土遺物の時期は京都 V 期新段階～ VI 期古段階が主体であり，溝の埋没時

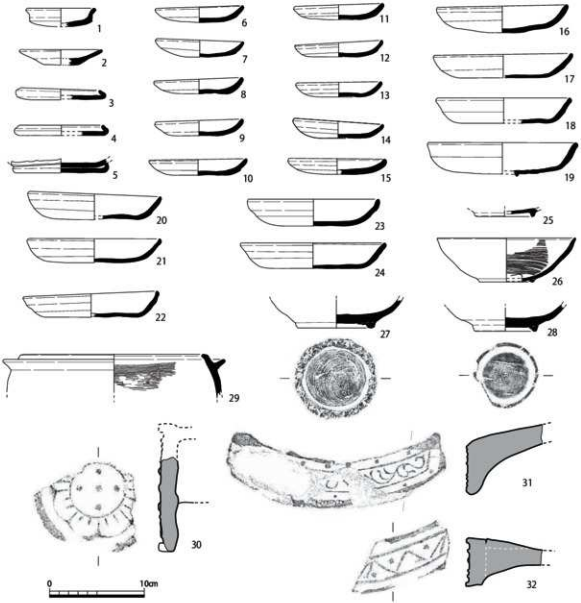


図59　出土遺物実測図（1：4）

期もこの時期と考える。

瓦片で図化したものに軒丸瓦（30）と軒平瓦（31・32）がある。複弁八葉蓮華文軒丸瓦（30）及び幾何学文軒平瓦（32）は山城産で，尊勝寺跡に同文瓦が認められる[2]。唐草文系軒平瓦（31）は，左京区の南ノ庄田瓦窯跡のMSH01型式と同笵と考えられ[3]，尊勝寺跡からも出土している。

4　ま　と　め

今回の調査で検出した東西溝は，春日小路末と大炊御門大路末の中間，南北二分の一町ラインに近接していることから，この方形街区を東西に二分する区画溝と考えた。周辺の調査履歴では，丸太町通北側の錦林小学校で平安後期の整地層[4]，同じく丸太町通の北側で錦林小学校グラウンドと岡崎通に挟まれた住宅地から平安末期の土器を多量に含む井戸跡[5]が検出されている以外は，当該時期の占有状況や条坊に関する成果はあまり確認されておらず，今後の周辺調査の成果に期待した

写真16　溝１A-A' 間断面（西から）

写真17　溝１B-B' 間断面（東から）

い。　（馬瀬　智光）

註

1）堀内明博「白河街区における地割とその歴史的変遷」『院政期の内裏・大内裏と院御所』文理閣，2006 年。

2）杉山信三他「尊勝寺跡発掘調査報告－京都会館建設地の調査－」『平城宮跡第一次・伝飛鳥板蓋宮跡発掘調査報告』，奈良国立文化財研究所，1961 年。

3）平方幸雄・高　正龍『南ノ庄田瓦窯跡』（『京都市埋蔵文化財研究所調査報告』第 18 集），（財）京都市埋蔵文化財研究所，1998 年。

4）（財）京都市埋蔵文化財研究所「一覧表　北白川地区（KS）」『京都市内遺跡立会調査概報　平成３年度』京都市文化観光局，1992 年。

5）長谷川行孝「白河街区跡　No.55」『京都市内遺跡試掘調査概報　平成 11 年度』京都市文化市民局，2000 年。

Ⅳ-5　尊勝寺跡・白河街区跡・岡崎遺跡（14R117）

1　調査経過（図60・61）

本件は，左京区岡崎西天王町における電力設備の設置にともなう詳細分布調査である。調査地は，六勝寺の一つに数えられる尊勝寺跡の推定寺域に含まれ，調査位置はその中でも寺域の中心よりやや東に寄った位置にあたる。調査は，6月24日，7月3・8・14・23・24日に実施した。

本調査地の周辺では，平成7・8年度に岡崎公園内地中化工事や電気通信管路の新設にともなって発掘および立会調査が実施されている[1]。これらの調査では多くの成果があげられており，特に尊勝寺では伽藍を構成する4棟の建物跡や，それに付随する雨落溝などが良好な状態で検出されている。

図60　調査位置図（1：25,000）

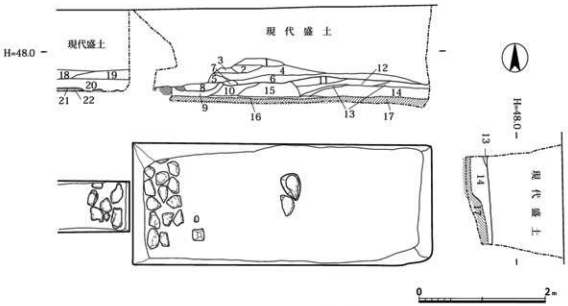
図61　調査位置図（1：12,500）

2　層序と遺構（図62）

調査地には既に埋設管が存在しており，それにともなって部分的に遺構の直上まで現代盛土が及ぶ箇所も認められる。基本層序は，現代盛土，黒色泥砂，褐色砂質土，黒色砂質土の順に堆積し，その下には黒～褐色系の土からなる整地土と考えられる層が数層存在する。そして，それらの直下，GL-1.4mで黄色粗砂の白河砂を確認している。

調査位置の西端部で石組の遺構を検出した。この遺構は，幅が約1.3mで長さは2.0m以上となる。掘削が及ばなかったため，遺構の中心部の構造は不明であるが，遺構の東端と西端では南北に列をそろえた石列がそれぞれ2列以上存在し，その石列は調査地よりも更に南北に続いていくのを確認した。この石組遺構は，位置や用石法，標高から平成7・8年度の調査時に検出された建物1の西側を南北に走る雨落ち溝と同一の遺構と考えられる。なお，NO.2地点での調査により，雨落溝や整地土がこの地点まで続かないことが明らかとなった。

この雨落溝に使用されている石材の目地と石材の底面には暗褐色泥砂が詰まっていることから，この暗褐色泥砂層（9層）は雨落溝を構築する際の裏込めの可能性がある。また，層位的にみて明



1 2.5Y2/1黒色泥砂(近世遺物包含層)
2 10YR4/2灰黄褐色泥砂
3 10YR3/2黒褐色砂質土
4 7.5YR 4/3褐色砂質土
5 7.5YR2/1黒色砂質土
6 10YR2/1黒色砂質土
7 10YR2/2黒褐色砂質土
8 10YR4/2灰黄褐色砂泥
9 10YR3/3暗褐色泥砂【盛方】
10 7.5YR5/6明褐色泥砂
11 2.5Y3/2黒褐色泥砂
12 10YR3/1黒褐色泥砂
13 7.5YR4/6褐色粘質土
14 7.5YR2/1黒色泥砂
15 2.5Y3/1黒褐色泥砂
16 5Y6/1灰色細砂
【整地土】
17 2.5Y6/3にぶい黄色粗砂【地山】
18 10YR4/3にぶい黄褐色泥砂
19 10YR3/2黒褐色砂泥
20 10YR3/1黒褐色泥砂
21 10YR6/4にぶい黄橙色粗砂
22 10YR3/3暗褐色粗砂

図62　NO.1　平断面図（1：60）

褐色砂泥・黒褐色泥砂・灰色細砂（10・15・16層）は，この雨落溝の構築と同時期かそれ以前の造作である。特に，明褐色砂泥と明褐色泥砂層で多く認められる拳大の礫は，この2層にのみみられる特徴であり何らかの意図がうかがえる。これらに加えて，黒褐色泥砂・黒褐色泥砂層・褐色粘質土・黒色泥砂（11～14層）も尊勝寺の造営にかかわる整地土と考えられる。調査区の中央では，整地土とみられる層（11～14層）を掘り込んで据えられた人頭大の礫を検出している。この礫は，近接して2つ存在しており，ともに平坦な面を上に向け，雨落溝の東へ約2mの所に位置する。平成7年度の調査でも，この雨落溝から東へ2mほど離れた場所で礎石と考えられる礫が検出されており，今回検出したこの礫も建物1の礎石となる可能性が想定される。このように考えた場合，11～14層はいずれも尊勝寺の造営にかかわる整地土と考えられ，周辺の調査事例を参考にするならば，本来的にはこの整地土は更に厚く盛られたものと推定される。そして，今回の調査で確認することが出来た整地土の上面の標高が47.5m前後に揃うことは，上面が後世の削平を受けたことを示唆する。

なお，詳細分布調査の性質上，一つの調査には数日にわたって複数の調査員が参加するため，層の土色などに差が生じる。よって，ここでは北壁の土層の番号は調査の日で区別しているが，8層と20層，16層と21層，17層と22層はそれぞれ対応関係にあることを付記しておく。

3　遺物（図63）

出土した遺物の総量は，およそコンテナ1箱分である。遺物の種類は瓦・土師皿・須恵器である。

右図は，その中で唯一の軒平瓦である。尊勝寺に伴うと考えられる整地土の上面から出土した。瓦当の左半分は欠損しているが，均整唐草文軒平瓦と考えられる。唐草文は，中央から展開し，主葉を大きく巻き込む。その間にYやI字形の子葉を配する。丸瓦部凸面は格子目のタタキが施される。焼成は硬質で，色調は灰白色を呈する。

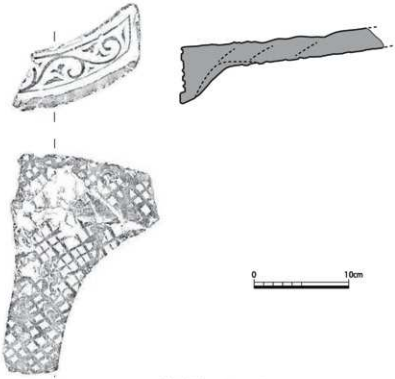


図63　遺物実測図（1：4）

4　まとめ

今回の調査では，平成7・8年度の調査で確認されていた建物1に伴う雨落溝や整地土，礎石の可能性がある礫を検出した。あわせて，NO.2地点で雨落溝などが確認できないことから，そこまで建物の範囲が及ばないことが判明した。また，断面の観察から小丘（土塁）状整地の方法の一端を窺うことが出来た。

白河地域は，東山から西の鴨川に向かって傾斜していく地形であり，加えて今回の調査地の西壁トレンチでは地山と考えられる黄色粗砂が南に向かって高くなる段差が確認できる。六勝寺の造営に際しては，斜面の間に平坦なテラスを造り出し，更に大小の段差を設けることでこのような立地条件を克服したものと考えられる。今回の調査で確認できる範囲から推測するならば，原地形の段差が存在する箇所からある程度の距離の場所に，小丘（または土塁）状の盛土を設け，その段差と小丘（土塁）状の盛土の間に更に土を充填して整地し平坦面を造成したものと推測される。

尊勝寺は，六勝寺の中で最も調査が進んでいる。しかしながら，不明な点はなお多い。今後のさらなる調査に期待したい。

（熊井　亮介）

註

1）上村和直ほか「4 尊勝寺跡・最勝寺跡・岡崎遺跡（95KS62）」『京都市内遺跡立会調査概報』1997年。
堀内明博「Ⅲ　白河街区跡」『平成7年度京都市埋蔵文化財調査概要』1997年。
平方幸雄「9　尊勝寺跡・最勝寺跡2」『平成8年度　京都市埋蔵文化財調査概要』1998年。

Ⅳ-6　伏見城跡（14F111）

図64　調査位置図（1：5,000）

1　調査経過（図64）

調査地は，伏見区桃山町大蔵45他に所在する伏見桃山城運動公園内の野球場周辺に位置する。当該地は木幡山伏見城の城郭跡北西部に位置し，長束大蔵丸にあたる。この場所で野球場スタンド等の新築工事が計画されたため，平成25年9月26日に試掘調査をおこない，ほとんどは現代攪乱をうけている事がわかった。また，三塁側の施設は，平成16年の発掘調査結果[1]をうけて地下遺構を保存することとなった。

これらの指導から，掘削深度が深い配管部分や試掘調査の及んでいない範囲を対象に，施工時の詳細分布調査を実施することとなった。

木幡山伏見城は，豊臣秀吉が伏見に築いた2つ目の城で，豊臣秀吉がその生涯を閉じた城でもあ

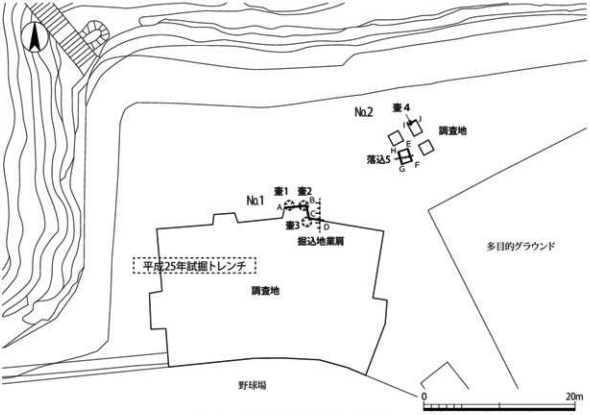


図65　北側遺構位置図（1：500）

る。この城は江戸幕府の三代将軍徳川家光の時期に廃城になるまでの約30年間，紆余曲折を経ながらこの地に存在していた。江戸時代になって伏見城の跡地には桃が植えられたため，桃山と呼ばれるようになったことが，後の安土桃山時代という時代呼称につながっていく。

木幡山伏見城は，指月城[23]が慶長元年（1596）の地震で倒壊した後に，場所を変えて新たに築かれた城で，大坂城に移った豊臣秀頼の大老として徳川家康が慶長五年（1600）に入城したため，関ヶ原の前哨戦では徳川方の城として西軍の猛攻をうけて焼失した。ただし，関ヶ原の戦い後すぐに徳川家康によって再建され，廃城は前述のとおり三代将軍家光が将軍宣下式を執行した後すぐにおこなわれている。

このため，木幡山伏見城跡には豊臣期の遺構と徳川期の遺構が重複していることが予想される。

2　層序と遺構（図65～69）

球場内の工事にともなって，合計19地点で遺構の検出および地層の観察をおこなった。このうち重要度の高い地点（№1～3）について報告する。

なお，施工時の詳細分布調査のため，遺構の検出は主に断面でおこない，観察・報告した断面にはAからNまでのアルファベットを記した。。

№1地点(A-B-C-D断面)

野球場一塁スタンド側で，建物跡にともなう総地業を検出した。検出した地業は，版築を含む堀込地業と壺掘地業1・2・3（以下壺1・2・3と略称で記す）である。

壺掘地業は，東西一間（壺1－2），南北一間（壺2－3）を確認した。各壺掘地業間の柱間は

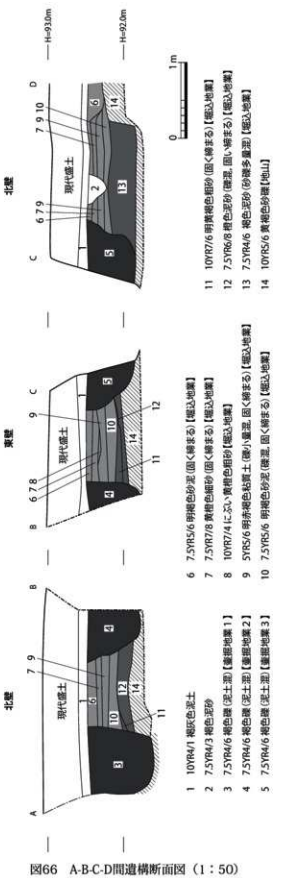


図66　A-B-C-D間遺構断面図（1：50）

1.9m であった。直径は 1.0m，深さ 0.8m で，褐色泥土が混じる多量の礫で埋まっていた。礫は拳大で，全体的に固く叩き締められていた。

掘込地業は，確認できる範囲で東西約 5m 観察した。実際には更に 1 ～ 2m 西へ拡がると考えられる。確認できたのは東肩から壺 1 までの範囲で，西及び南北の範囲は確認できていない。C―D 断面によると，壺 3 から東肩 D までの距離は約 1.5m で，C―D 間の掘込地業最下部は一気に埋め立てられている。層厚は 36cm で埋土は礫を多量に含む明褐色砂泥である。壺掘地業間および西部上層は，版築によって造成されており，明褐色～黄橙色の砂泥と砂が 4 ～ 7 層，互層に積み重なり固く締められていた。層厚は約 5 cm ～ 10cm である。

以上の結果から，確認した範囲には地盤を固く締めた上に，直径約 1m の壺掘地業の必要な建物が建っていたことがわかった。建物の規模などは不明だが，みつかった範囲よりも西に展開すると考えられる。

また今回の調査に先立っておこなった試掘調査（図 65）では，トレンチのほとんどで GL-1.8m まで現代攪乱が及んでいるのを確認しているが，西端部では GL-0.7m ～ 1.2m で黄褐色砂泥の地山を確認している。今回確認した地業は GL-1.2m から 1.4m に及ぶため，地業が施されていれば検出できた可能性が高い。このため，建物は北に向かって展開していたと考えられる。

№ 2 地点（E-F,G-H,I-J 断面）

多目的グラウンド北西端と，北堀の痕跡である崖面の間で，壺掘地業 4（以下壺 4）および落込 5 を検出した。

図67　E-F,G-H間遺構断面,平面図及びI-J間遺構断面図（1/50）

壺掘地業４　直径 0.6m，深さ 0.4m の壺掘地業で，砂礫が多量に混ざる褐色泥砂で固く締められて埋まっていた。ここでは壺掘地業周辺に版築の痕跡は確認されなかったが，明褐色砂泥および褐色砂礫からなる固く締まった整地層を検出した。

落込５　上述整地層を切って掘り込まれている。確認した幅は 0.6m，深さ 0.4m であった。埋土は，礫混じりの褐色泥砂である。反対の肩は工事用トレンチの外であったため確認できていない。このためこの遺構の性格は不明である。埋土からは近世の丸・平瓦が出土している。

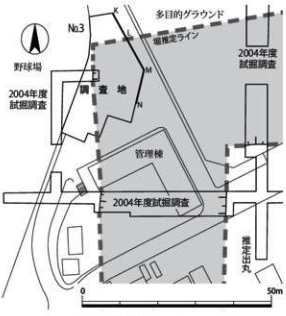


図68　南側遺構位置図（１：1,000）

№３地点（K-L-M-N 断面）

三塁側スタンドの東側壁面で整地層および焼瓦が含まれた土坑を確認した。該当地点は，周辺の調査成果と絵図による復元から伏見城出丸の堀推定地にあたり，北肩が観察される可能性があった。

ただし工事掘削深度の制限があり，深さが十分でなかったため明らかな堀の埋土は確認できなかった。また，堀の推定ライン部分に現代攪乱が深く及んでいたため，北肩も確認することができなかった。ここでは，土層断面の観察結果を記し，将来の課題としたい。

壁面は堆積状況の違いによって，K－L，L－M，M－N の３つに分けて記す。なお，層名は切りあい関係や遺物によって地層の年代観を明らかにできなかったため，便宜上 K 地点から順次付されており，番号の順序は層位の上下を表すものではない。

K－L 断面

K－L 断面の基本層序は，現代盛土以下 GL-1m から，層厚 35cm の明黄褐色砂泥（層５），層厚 30cm の礫を少量含む明黄褐色泥砂（層７），以下礫混じりの黄橙色粗砂（層 12）で GL-1.9m まで確認した。また，盛土直下で層５を切って成立する土坑２基を検出した。

土坑６　直径 0.6m，深さ 0.7m の底部が V 字状を呈する土坑で，埋土は黒褐色砂泥であった。

土坑７　直径 0.5m，深さ 0.4m の底部が方形の土坑で，埋土は灰黄色粗砂からなる。埋土には焼土，炭化物，丸・平瓦が含まれる。

層５および７は，非常に固く締まっており，地層の堆積状況や遺物の出土状況から整地層の可能性がある。また焼瓦を含む土坑６に切られていることから，関ケ原前哨戦以前に遡る整地層の可能性もある。

なお，層 10 は礫混じりの黄橙色粗砂からなり，現時点では地山と解釈している。ただし，伏見城跡内の調査成果から，地山と判断されるような礫層であっても，深く掘り込むと結果的に整地層である場合がみられるため，掘り下げれば解釈がかわる可能性がある。

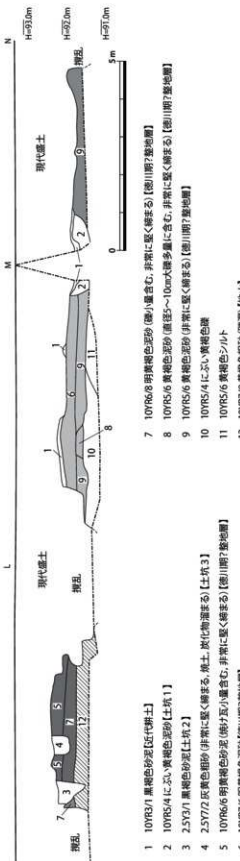


図69　K-L-M-N間遺構断面図（1：100）

L－M 断面

上述 L 地点から攪乱を挟むために地層のつながりが直接追えなかったことと，地層の色調・土質が異なると判断したことから，この断面の各地層には上述地点とは別の番号を付けた。

L－M 地点の基本層序は GL-1.1m まで現代盛土，以下部分的に層厚 0.1m で近代耕土の可能性がある褐色泥土が残り，その下位に層厚 0.2 ～ 0.4m の明黄褐色泥砂（層 6），層厚 0.2 ～ 0.3m の黄褐色泥砂（層 9）がつづく。確認した範囲の最下層は 2 層に分かれ，L 側がにぶい黄褐色礫（層 10），M 側は黄褐色シルト（層 11）であった。

層 6 ～ 9 は整地層の可能性がある。また，層 9 中には，直径 5 ～ 10cm 大の礫を含む黄褐色泥土（層 8）を確認した。層 8・9 は非常に固く締まる。

なお，層 11・12 についても，上述の層 10 と同様，一見地山に見えるが整地層や遺構埋土の可能性もある。L 付近にある攪乱のために堀の北肩が検出されなかったとすれば，層 11・12 については，堀埋土の可能性も残っている。2004 年度の試掘調査で検出した堀は GL-3.5m 以上下げた地点でも底が確認できなかった。これらのことを考えると，今回の掘削深度では，上述以上の観察をすることはできない。

M―N 断面

M－N 地点については，地層が L－M 地点で確認したものによく似ており，一連のものとして捉えられた。GL-1.5 ～ 1.7 m まで現代盛土がおよび，以下に一部で褐色泥土（層 1）が残り，大部分では GL-1.7 ～ 1.9m まで黄褐色泥砂からなる層 9 を確認した。

なおM側で層9を切る,時期不明の土坑を検出している。土坑は直径約 1.3m, 深さ 0.4m であった。

4 まとめ

今回の調査では，木幡山伏見城内ではじめて建物に関係する地業を確認することができた。検出した地点は，伏見城城郭内でも北側の地域にあたり，絵図では豊臣期の五奉行であった長束正家の屋敷地にあたる「長束大蔵」と称される平地の北西部である。

この場所は，旧伏見桃山城キャッスルランドや現在の運動公園造成にともなって，旧状が大きく損なわれている範囲である。ただし，最も試掘調査や発掘調査が行われている地域であり，北堀内や平坦地の中心部などでは，石垣や内堀などを確認している。天守などがあった中心部から南は宮内庁の陵墓となっていることから，現在も堀・石垣・廓の高まりや礎石などの遺構が良好な状態で残っており，京都府の調査で石垣や礎石が確認されている。[3)]

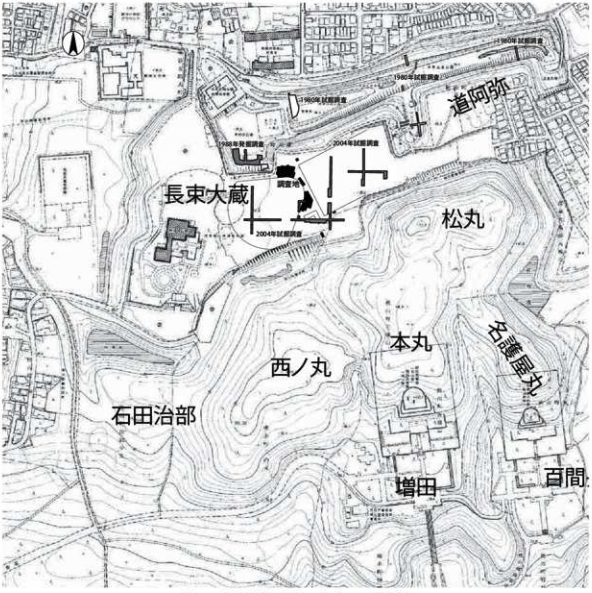


図70　伏見城復元図とこれまでの調査地

前述のとおり北側地域では，複数の調査がおこなわれており，2004 年には平坦地部分で広範囲におよぶ試掘調査をおこなった。この試掘は伏見桃山城キャッスルランド解体後におこなわれたもので，多くの場所がすでに攪乱されている状況ではあったが，内堀の一部や「出丸」を確認している。

また，柱穴や土坑などの遺構を検出し，部分的にはこれらの遺構が遺存していることが確認された。この他に現地表下すぐで地山が検出される範囲がある一方で，北堀に近い部分では，盛土で造成されていることが明らかになった。

今回地業を確認した範囲も，北堀近くに位置している。ただし，地山は極端に低いわけではなく，ＧＬ -0.8 mで検出される。とくにＡ - Ａ' 地点で検出された地業は，掘込地業の上に壺掘地業を施工しており，かなり堅牢な建物のための基礎であると推定される。候補としては，立地から，櫓のような建物が考えられる。

このような大規模な地業が伏見城中枢部分で検出されたのははじめてのことで，建物規模などは明らかでは無いが，特筆される成果といえよう。

一方で，現況でも比高 8m を越える北堀から推定されるように深く，幅が 35 ～ 40m 規模になる伏見城の堀のような遺構を調査する難しさも感じた。2004 年度の調査でも，堀の上部 2.5m は現代の埋戻し土で埋まっており，GL-3.5m まで掘り下げたが，堀の上半部しか確認できていない。掘削面積に限りのある調査では検証は難しい。

1980 年に北堀でおこなわれた試掘調査は，未報告ではあるが，石垣の裏込めや整地土などを検出しているほか，刻印のある石材などが出土している。また，前述した京都府による陵墓内の調査では，良好な状態で伏見城の遺構が残っている事が明らかになった。今回の調査で，一部とはいえ地業が検出できたことは重要な成果といえよう。　（赤松　佳奈）

註

1）丸川義広「伏見城の考古学的調査」『ヒストリア』第 222 号，大阪歴史学会，2010 年。

2）現在の桃山町泰長老に所在する指月山に豊臣秀吉が築いたといわれる城。山下正男「京都市内およびその近辺の中世城郭 - 復元図と関係資料 - 」『京都大学人文科学研究所調査報告』第 35 号，京都大学人文科学研究所，1986 年。山田邦和「伏見城とその城下町の復元」『豊臣秀吉と京都』文理閣，2001 年。

3）中居和志「伏見城跡」『京都府中世城館跡調査報告書　第３冊　山城編１』京都府教育庁指導部文化財保護課，2014 年。

調査一覧表

Ⅰ　2014年　1～3月期(平成25年度)

平安宮(HQ)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
大蔵省跡	上・仁和寺街道千本西入五番町165	3/27	GL-0.4m以下，黒色砂泥の地山。	13K627	HQ 545	1
内教坊跡，聚楽第跡	上・日暮通中立売下る須浜池町247-5	1/24	GL-0.2m，近世以降の包含層。	13K597	HQ 482	1
右近衛府跡，鳳瑞遺跡	上・下長者町通七本松西入鳳瑞町249-10	1/27	遺構無，工事終了。	13K594	HQ 484	1
右近衛府跡，鳳瑞遺跡	上・御前通下立売上る三丁目西上之町267	2/19	GL-0.3mまで現代盛土。	13K655	HQ 513	1
右近衛府跡，鳳瑞遺跡	上・下長者通七本松西入鳳瑞町257-25	3/14	GL-0.2mで褐色細砂を検出。遺構，遺物は検出できず。	13K652	HQ 535	1
宮松原跡，鳳瑞遺跡	上・御前通下立売上る二丁目仲之町289-26	2/7	GL-0.2m，時期不明の包含層(土師器，瓦)。	13K613	HQ 501	1
宮松原跡	上・下立売通七本松東入長門町410-1	1/6・7	GL-0.2mまで現代盛土。	13K543	HQ 445	1
縫殿寮跡	上・上長者町通浄福寺西入新柳馬場頭町526-8	1/10	GL-0.3mまで現代盛土。	13K568	HQ 460	1
縫殿寮跡	上・上長者町通浄福寺西入新柳馬場頭町526-7	1/10	GL-0.3mまで現代盛土。	13K567	HQ 459	1
縫殿寮跡	上・上長者町通浄福寺西入新柳馬場頭町526-6	1/10	GL-0.4mまで現代盛土。	13K566	HQ 458	1
縫殿寮跡，聚楽遺跡	上・下長者町通浄福寺西入新御幸町52-5	1/28	GL-0.5mまで現代盛土。	13K614	HQ 488	1
縫殿寮跡，聚楽遺跡	上・下長者町通浄福寺西入新御幸町52-6	2/17・18	GL-0.2mまで現代盛土。	13K629	HQ 510	1
内匠寮跡，鳳瑞遺跡	中・西ノ京左馬寮町28	1/23，6/27	GL-0.4mで明黄褐色粘土の地山を切って時期不明の土坑。	12K114	HQ 478	1
左馬寮跡	中・西ノ京左馬寮町10-2	2/20	GL-0.3m，近代以降の耕作土。	13K643	HQ 516	1
左馬寮跡	中・西ノ京左馬寮町10-2の一部(B号地)	3/10	GL-0.3mまで現代盛土。	13K608	HQ 533	1
豊楽院跡，聚楽遺跡	中・聚楽廻中町46-2	1/15	GL-0.5mまで現代盛土。	13K565	HQ 467	1
豊楽院跡，聚楽遺跡	中・聚楽廻中町46-21	1/15	GL-0.4mまで現代盛土。	13K546	HQ 466	1
朝堂院跡，聚楽遺跡	中・聚楽廻中町46-22	1/21～23	GL-0.3mまで現代盛土。	13K534	HQ 475	1
兵部省跡	中・西ノ京内畑町25-11	1/20	GL-0.5mまで現代盛土。	13K580	HQ 474	1
兵部省跡	中・西ノ京内畑町27-21	3/20	GL-1.0mでにぶい黄褐色泥砂を検出。遺構，遺物は検出できず。	13K595	HQ 539	1

平安京左京(HL)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
北辺三坊一・二町，一条二坊十四・十五・十六町，三坊一町跡，内膳町遺跡	上・西洞院通，一条通～下立売通他地内	13/7/4～14/2/13	№3：GL-0.4m，近世以降の包含層。 №5：GL-0.5m，近世以降の石垣。 №10：GL-1.2m，時期不明の包含層(土師器)。 №12：GL-0.8m，近世以降の包含層。 №13：GL-1.3m以下，黄褐色砂泥の地山。	12H474	HL 183	2・3
一条四坊三・四町，四坊十二町，烏丸丸太町遺跡，公家町遺跡	上・京都御苑3	2/20・24，3/3～25	№2：GL-0.2m，時期不明の上面が平坦で方形の石。	13H650	HL 517	3・21-1

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
二条二坊二町跡，二条城北遺跡	上・丸太町通黒門東入蘆屋町536-3，536-11，563-15	2/17～26，3/3・7	GL-0.6mまで現代盛土。	13H592	HL 508	2
二条二坊十四町跡	中・小川通夷川上る下丸屋町442-1	1/16・17・20・22・24・27～29	№1；GL-1.0mで時期不明の包含層(土師器)を切って室町の落込(土師器皿，瓦器)。№2；GL-1.1m，江戸の包含層(土製品塩壺，土師器皿＝鎌倉が混入)。-1.6m・-1.7m，平安中期の包含層(土師器皿)2層。	13H310	HL 468	2
二条三坊九町跡，烏丸丸太町遺跡	上・室町通堀木町下る大門町272-1，272の一部	1/8	GL-0.6mまで現代盛土。	13H576	HL 451	3
二条三坊十六町跡，烏丸丸太町遺跡，旧二条城跡，公家町遺跡	上・京都御苑3	13/11/1，12/6・26，14/2/5・6	№1；GL-0.2m，近世以降の包含層。-0.7m，近世の包含層。№2；GL-0.2m，近世以降の包含層。-0.4m，近世の瓦溜。№3；GL-0.5m，近世以降の包含層。№4；GL-0.2m，近世以降の包含層。№5；GL-0.3m，近世以降の包含層。№7；GL-0.1m，近世以降の包含層。№8；GL-0.4m，時期不明の上面平坦な石。№9；GL-0.2m，近世以降の包含層。	13H411	HL 344	3
三条二坊三町跡	中・倉本町他　地内	2/20・21	GL-1.7mまで現代盛土。	13H624	HL 515	2
三条二坊十六町跡，妙顕寺城跡	中・小川通二条下る古城町359	1/7・10・15・16	№1；GL-0.7m，近世以降の包含層。№2；GL-0.5m，近世以降の包含層。№4；GL-0.4m，近世以降の包含層。	13H396	HL 446	2
三条三坊三町跡，烏丸御池遺跡	中・釜座通御池下る津軽町767，769，769-2	1/15～17・20	№1；GL-1.3m，平安中～後期の包含層(土師器皿，平瓦)。№2；GL-1.1m，平安後期の包含層(土師器皿)。-1.3mで黄褐色微砂の地山を切って時期不明のピット。№3；GL-1.2m，室町後期の包含層(土師器皿)。	13H302	HL 463	3
三条四坊九町跡	中・柳馬場通二条下る等持寺町30，30-2	2/7～18	GL-1.2mで黒色砂泥を検出。遺構，遺物は検出できず。	13H453	HL 500	3
三条四坊十一町跡，烏丸御池遺跡	中・柳馬場通御池下る柳八幡町71，71-2	3/18，4/14～18・21	№1；GL-1.5m，時期不明の包含層。-1.7mより下，にぶい黄橙色シルト～砂泥の地山。№2；GL-2.1m，時期不明の包含層(土師器)。-2.4m以下，灰オリーブ色粗砂の地山。№3；GL-2.9m，近世の包含層。№4；GL-1.9m，室町前期の包含層を切って平安末期～鎌倉の土坑(土師器皿・椀)と鎌倉の土坑(土師器皿・椀)と平安～室町の土坑(土師器皿・椀，瓦器羽釜)。平安末期～鎌倉の土坑と鎌倉の土坑は切り合い関係にあり，土坑からは吉備系の土師器椀・皿が出土。-2.2m以下，浅黄色微砂の地山。	13H172	HL 537	3
三条四坊十四町跡	中・魅屋町通御池下る中白山町268-1，275	3/7，4/15・18，6/9，7/8	№1；GL-1.7m，室町の包含層(土師器皿，須恵器)。№2；GL-2.6mで黄灰色泥砂の地山を切って時期不明の堀状遺構(土師器皿)。	13H563	HL 528	3
四条一坊一町跡	中・壬生朱雀町2-13	1/8・10・14	GL-1.6m，時期不明の湿地状堆積。-1.9m以下，緑灰色粘土の地山。	13H357	HL 449	4
四条三坊一町跡，烏丸御池遺跡	中・新町通三条下る三条町326，328-1	2/10	GL-0.5mまで現代盛土。	13H596	HL 503	5
四条四坊一町跡，烏丸御池遺跡	中・高倉通三条下る丸屋町171，171-1	2/19～21・24～26・28，3/3・7	№1；GL-1.1m，近世以降の包含層。№3；GL-1.0m，近世以降の包含層。GL-1.6m・-1.9mで江戸の包含層2層。-2.1mより下，黄褐色粘土の地山。	13H383	HL 511	5
四条四坊三町跡	中・東洞院通蛸薬師下る元竹田町630	13/12/13，14/1/15	GL-2.6mまで現代盛土。	13H156	HL 416	5
五条四坊四町跡，烏丸綾小路遺跡	下・間之町通高辻下る稲荷町543-1，543-2，544-2	2/28	GL-0.4mまで現代盛土。	13H582	HL 524	5
五条四坊五町跡，烏丸綾小路遺跡	下・高倉通高辻下る葛籠屋町514-1，514-2	3/13～24	GL-0.3m・-0.5m・-0.7mで近世以降の包含層3層。	13H678	HL 534	5

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
六条二坊五町跡	下・堀川通五条下る妙本町580-13, 14	3/31, 4/1～3	中世堀川の護岸を検出。本報告6ページ。	13H529	HL 551	4
六条二坊十二町跡	下・醒ヶ井通六条上る佐女牛井町156, 154-1	3/31・4/1～4・7	№1：GL-1.8mで黄褐色細砂の地山を切って時期不明の落込。№2：GL-0.7m, 室町後期の包含層(土師器皿)。-1.1m以下, 灰色細砂の地山。№3：GL-0.6mで時期不明の包含層を切って時期不明の土坑。-1.1m以下, 灰色砂礫の地山。№4：GL-0.6m, 近世の包含層。-1.6m以下, 灰色砂礫の地山。	13H687	HL 550	4
六条三坊十五町跡, 烏丸綾小路遺跡	下・不明門通五条上る玉屋町504	3/10～13	GL-0.3mまで現代盛土。	13H616	HL 532	5
六条四坊三町跡	下・下万寿寺町498	1/31	GL-2.3m以下, オリーブ褐色砂礫の地山。	13H280	HL 491	5
七条三坊一町跡	下・若宮通六条下る若宮町559の一部	13/12/19・20, 14/1/27～30	№2：GL-0.9m, 時期不明の包含層(土師器)。-1.1m以下, 黄褐色細砂の地山。№3：GL-0.9m, 近世以降の包含層。-1.4m以下, 褐色細砂の地山。	13H472	HL 433	7
八条一坊七町跡	下・観喜寺町35番の1他	13/8/6～14/11/19	掘削深GL-1.8mまで現代盛土。	13H204	HL 236	6
八条二坊十町跡	下・油小路通木津屋橋下る北不動堂町519-1	1/9・10・14	GL-0.2m, 時期不明の落込。-0.8m, 時期不明の包含層(土師器)を切って平安後期と時期不明の落込(土師器皿)2基。	13H273	HL 452	6
八条二坊十三町跡	南・西九条北ノ内町他　地内	3/6・7	GL-1.2mまで現代盛土。	13H577	HL 527	6
八条三坊十六町跡，東本願寺前古墓群	下・塩小路町　地内	13/11/11～14/11/17	GL-1.0m, 近世以降の包含層。	13H286	HL 357	7
八条四坊七・八町跡	下・小結荷町～郷之町他　地内	2/19～21・24	GL-1.3mで灰オリーブ色砂泥を検出。遺構, 遺物は検出できず。	13H578	HL 512	7
九条一坊三・四町跡, 御土居跡	南・四ッ塚町～八条内田町　地先	13/10/7～14/3/31	№13：GL-0.9m以下, 黄褐色粘土の地山。№19：GL-0.4m, 近代以降の包含層。	13H369	HL 311	6
九条一坊十町跡, 史跡教王護国寺境内	南・九条町1	1/10	GL-0.5mまで現代盛土。	25C074	HL 461	6

平安京右京(HR)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
北辺二坊　六町跡	北・大将軍川端町91, 92, 93	1/20・21	GL-0.4mでオリーブ黒色砂泥の地山を切って室町の土坑(土師器皿, 須恵器, 緑釉陶器皿＝混入)。	13H536	HR 473	9
北辺二坊六町跡, 御上居跡	北・大将軍東鷹司町13114	1/20～22	GL-1.5mまで現代盛土。	13H471	HR 472	9
北辺四坊六町跡・史跡妙心寺境内	右・花園妙心寺町48　麟祥院内	3/7	BM+1.5m～-0.5mまで暗オリーブ色砂泥を検出。遺構, 遺物は検出できず。調査地点は約1.5mの高さの土壇が形成されており, 検出した土層はその堆積土である。	25C090	HR 530	8
北辺四坊七町跡, 史跡妙心寺境内	右・花園妙心寺町　地内	3/17・24	GL-1.0m以下, 明黄褐色砂泥の地山。	25C085	HR 536	8
一条四坊十町跡, 史跡妙心寺境内	右・花園妙心寺町64	13/11/13～14/3/4	№2：GL-0.1m, 近世以降の包含層。-0.7m以下, 明黄褐色砂泥の地山。№16：GL-0.1m以下, 明黄褐色砂泥の地山。	25N056	HR 364	8
一条四坊九町跡, 史跡・名勝妙心寺庭園, 史跡妙心寺境内	右・花園妙心寺町1	13/12/16～26, 14/1/6～4/22	平安後期の軒平瓦を採集。本報告9ページ。	25N060	HR 421	8
二条三坊八町跡, 西ノ京遺跡	中・西ノ京春日町8	1/20・27, 3/14, 6/27	№2：GL-1.0m以下, 黄色粘土の地山。№3：GL-0.9mで明黄褐色砂泥の地山を切って時期不明の土坑。	10H507	HR 470	8
三条三坊二町跡, 西ノ京遺跡	中・西ノ京西中合町45	1/15	GL-0.6mまで現代盛土。	13H556	HR 465	8

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
三条四坊十二町跡	右・山ノ内北ノ口町14	1/23・27	GL-1.4mまで現代盛土。	13H508	HR 480	8
四条二坊四町跡，壬生遺跡	中・壬生東淵田町22	13/12/19，14/2/6・24，3/11	GL-0.8m，室町の包含層(土師器皿，焼締陶器甕，不明土製品)。-0.8m，平安の包含層(土師器皿，須恵器壷)。-1.3m以下，緑灰色粘土の地山。	12H231	HR 431	11
四条二坊十一町跡，壬生遺跡，御土居跡	中・壬生淵田町7，8	13/11/29～14/9/19	桃山～江戸の御土居と平安の西堀川跡を検出。**本報告10ページ。**	13H408	HR 328	11
四条三坊三町跡	右・西院下花田町30-2	3/4	GL-0.35mまで現代盛土。	13H638	HR 526	10
四条三坊十六町跡	右・山ノ内養老町7-1，7-4，8-1	1/28～31，2/7・10・12・13，3/27	№4；GL-1.0m，時期不明の湿地状堆積(土師器)。-1.8m以下，灰オリーブ色砂泥の地山。№5；GL-1.0m，時期不明の湿地状堆積(土師器)。-1.3mでオリーブ灰色粘土の地山を切って時期不明の落込。№6；GL-1.2m，時期不明の湿地状堆積(土師器)。-1.5m以下，明黄褐色粘土の地山。№7；GL-1.1m・-1.2m，時期不明の湿地状堆積(土師器)2層。	13H289	HR 485	10
五条四坊五町跡，西京極遺跡	右・西院月双町22，23	1/28	BM-0.9mまで現代盛土。試掘調査済地点。	13H336	HR 486	10
六条三坊十三町跡	右・西院六反田町33	3/27	№1；-1.6m，時期不明の包含層(土師器壷)。-0.7m以下，黄褐色粘土の地山。№2；-0.8m，古墳の包含層(土師器甕)。-1.0m以下，黄褐色粘土の地山。試掘調査済地点。	13H275	HR 544	10
六条三坊十四町跡，西京極遺跡	右・西院六反田町53	1/8～14	古墳の祭ノ建物を検出。**本報告30ページ。**	13H521	HR 450	10
七条二坊四町跡，衣田町遺跡	下・西七条中野町7-1の一部，7-2の一部	2/21・24	GL-0.5mで粘質の灰色砂泥を検出。遺構，遺物は検出できず。	13H484	HR 519	13
八条一坊二・三・四町，御土居跡	下・観喜寺町3-14他	2/17・21，3/3	GL-2.0mで灰色砂泥を検出。遺構，遺物は検出できず。	11H346	HR 505	13
八条二坊九町跡，衣田町遺跡	下・西七条南衣田町99番2及び99-3	3/10～12	GL-1.3m以下，黄褐色細砂の地山。	13H365	HR 531	13
八条四坊十五町跡	右・西京極芝ノ下町29番地の1他	13/5/13～14/1/8	GL-0.8mまで現代盛土。	13H064	HR 085	12
九条一坊四町跡	南・唐橋羅城門町43-1	2/17・18	GL-0.5mで灰黄褐色粘質土を検出。遺構，遺物は検出できず。	13H603	HR 509	13

太秦地区(UZ)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
太秦馬塚町遺跡，常盤仲之町遺跡	右・太秦宮ノ前町～太秦蜂岡町地先	13/9/30，10/1～31，11/1～8，14/2/6～28，3/3～17，11/13	№2；GL-0.7m～-0.8mで褐色砂礫の地山を切って時期不明の土坑3基。№3；GL-0.2m，近現代の路面，-0.6m，時期不明の路面。-0.9m以下，褐色砂礫の地山。№4；GL-0.2m～-1.0m，時期不明の路面11層。№6；GL-0.3m～-0.6m，時期不明の路面5層。№7；GL-0.3m～-0.9m，時期不明の路面5層。№8；GL-0.2m～-0.5m，時期不明の路面6層。-0.8m以下，明黄褐色砂泥の地山。	13S380	UZ 307	16
広隆寺旧境内，常盤仲之町遺跡	右・太秦蜂岡町22-7	2/3	GL-0.4mでオリーブ褐色砂泥を検出。遺構，遺物は検出できず。	13S584	UZ 496	16
広隆寺旧境内	右・太秦西蜂岡町9-1他	1/7	GL-0.5mまで現代盛土。	13S446	UZ 447	16
蛻嶋遺跡	右・蛻嶋二尊院門前長神町8-1	2/28，3/24・25	№1；GL-0.3m以下，にぶい黄橙色砂泥の地山。№2；GL-0.3m以下，明黄褐色砂礫の地山。	13S659	UZ 523	23-1
史跡・名勝嵐山，壇林寺跡，蛻嶋遺跡	右・蛻嶋天龍寺立石町1-37	1/23・24・27	GL-0.3m，近世以降の包含層。-0.4m以下，明黄褐色粘土の地山。	25C064	UZ 481	23-1

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
嵯峨折戸町遺跡	右・嵯峨天龍寺椎野町～嵯峨天龍寺油掛町　地先	1/30・31，2/3～28	№2：GL-0.6mで明黄褐色粘土の地山を切って時期不明の落込。№6：GL-0.9m以下，黄褐色砂礫の地山を検出。	13S113	UZ 490	23-1
広沢古墳群	右・嵯峨広沢池下町82-1	2/24	№1：GL-0.75m，時期不明の包含層(土師器)。№2：GL-0.2m，室町後期の包含層(土師器皿)。№3：GL-0.25m・-0.52m，室町後期の包含層(土師器皿多量，不明土製品)2層。-0.9m，時期不明の包含層(土師器)。	13S645	UZ 521	26-1
円乗寺跡	右・御室聖町21-3	1/31	GL-0.2m以下，黄色粘土の地山。	13S581	UZ 492	26-2

洛北地区(RH)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
上京遺跡，寺之内旧域	上・禅昌院町他　地内	13/5/15～14/6/27	GL-0.9m以下，黄褐色砂礫の地山。	12S563	RH 089	21-1
上京遺跡	上・中筋通大宮西入横大宮町219-1他2筆	1/29～31	№2：GL-1.0m，時期不明の包含層(土師器皿)。№3：GL-0.8m，平安以降の包含層(土師器，緑釉陶器皿)。-1.1m以下，黄褐色粘土の地山。	13S520	RH 489	24-2
史跡御土居跡	北・平野鳥居前町24-61，24-67	2/20	GL-0.4mまで現代盛土。	25N070	RH 518	24-2
御土居跡	北・小山北玄以町1	3/4・6	GL-0.5mまで現代盛土。	13S509	RH 525	24-1
植物園北遺跡	北・上賀茂梅ヶ辻町8，7-4，76番	1/9	GL-0.4mまで現代盛土。	13S428	RH 457	24-1
植物園北遺跡	左・下鴨南茶ノ木町24-1	2/20	GL-0.3mまで現代盛土。	13S533	RH 514	24-1
植物園北遺跡	北・上賀茂岩ヶ垣内町13	3/24～31	GL-0.6m以下，褐色砂泥の地山。	13S635	RH 540	24-1
植物園北遺跡	左・下鴨半木町1-26，1-30（一部）	2/3・5・7・12・18	GL-0.5mで褐色砂泥を検出。遺構，遺物は検出できず。	13S402	RH 494	24-1
植物園北遺跡	左・松ヶ崎芝本町26-1，26-2	3/27，4/8～10	GL-0.6m，時期不明の包含層(須恵器壺)。-1.2m以下，暗褐色シルトの地山。	13S644	RH 546	24-1
岩倉中在地遺跡	左・岩倉中在地町12，12-7	1/20～6/27	GL-0.3m以下，明黄褐色砂礫の地山。	13S281	RH 471	26-3
栗栖野瓦窯跡	左・岩倉幡枝町1234-1，2787-2	2/3	GL-0.6m以下，明黄褐色粘土の地山。	13S571	RH 495	26-4

北白川地区(KS)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
北白川追分町縄文遺跡，北白川追分町遺跡，追分町古墳群跡，吉田上大路町遺跡，吉田本町遺跡	左・吉田本町他　地内	13/12/4～14/2/13	№1：GL-0.9mで黒色砂泥を検出。№3：GL-0.8mで明黄褐色礫砂を検出。遺構，遺物は検出できず。	13S406	KS 403	17
吉田本町遺跡，吉田上大路町遺跡，吉田二本松町遺跡	左・吉田本町他　地内	13/7/9～14/9/30	№5：GL-1.5m，時期不明の土坑と落込。№7：GL-0.8m，時期不明の落込。	13S006	KS 190	17
吉田二本松町遺跡，吉田上大路町遺跡	左・吉田二本松町30-1	1/15	GL-0.4m，近世以降の包含層。	13S463	KS 464	17
白河街区跡，東光寺跡	左・岡崎東天王町51-1（一部）	1/22	GL-0.3mまで現代盛土。	13S497	KS 477	17
得長寿院跡	左・聖護院蓮華蔵町56-10	1/9	GL-0.3m，近世以降の包含層。	13R516	KS 454	17
尊勝寺跡，岡崎遺跡	左・岡崎最勝寺町13	13/10/11，14/6/2	GL-0.7mまで現代盛土。	12R329	KS 316	17
法勝寺跡，岡崎遺跡	左・岡崎法勝寺町	13/12/24～14/2/26	№1：GL-0.9mまで現代盛土。№2：動物園北壁の基礎直下で動物園創建当時の石垣を確認。	12R305	KS 436	17

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
法勝寺跡，岡崎遺跡	左・岡崎法勝寺町	2/3～28，4/4～23，5/1～7，9/1～30，10/1	№1：GL-1.5m，時期不明の包含層(土師器)。№2：GL-1.9m，時期不明の湿地状堆積(土師器)。-2.2m以下，明緑灰色微砂の地山。№9：GL-0.8m，近世盛土。-1.3m，江戸の包含層(染付，平瓦)。-1.6m以下，オリーブ色粗砂の地山。№10：GL-2.8mでオリーブ微砂の姶良火山灰層を確認。№11：GL-0.8m，近世遺物包含層。-1.3mでオリーブ色粗砂の地山を切って時期不明の落込。№12：GL-0.7mで白川砂の地山を切って近世の落込(焼締陶器，施釉陶器)と土坑。№13：GL-1.3m・-1.6mで近世の整地層２層。-1.8m以下，灰色細砂の地山。-2.2mで黄灰色極細砂の姶良火山灰層を確認。	13R144	KS 493	17
法勝寺跡，岡崎遺跡	左・岡崎法勝寺町　岡崎公園内	1/21・22・24・27	GL-0.9m，近世以降の包含層。	13R537	KS 476	17
一乗寺西浦畑町遺跡	左・一乗寺西浦畑町8-1，8-3，9-1，11の一部	1/14	GL-0.8mまで現代盛土。	13S506	KS 462	26-6

洛東地区(RT)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
六波羅政庁跡，六波羅蜜寺境内	東・松原通大和大路東入轆轤町80	2/17，5/15・16・19・20	№2：GL-0.8m，平安末期～鎌倉の包含層(土師器皿，須恵器，焼壁上)を切って平安末期～鎌倉の土坑(土師器皿，瓦器鍋，平瓦)。-0.8m，時期不明の包含層(土師器)。-1.0mで灰色粘土の地山を切って平安～鎌倉の土坑(理土の上層に鎌倉の土師器皿，須恵器，瓦器羽釜，下層に平安の土師器皿・甕)。-1.2mで平安末期～鎌倉の土坑(土師器皿，平瓦)。地山は調査地東側から約17mの地点で約0.8m高くなる。№3：GL-0.9m，平安末期～鎌倉の包含層(土師器皿，丸・平瓦，焼壁上)。-1.9mで灰色砂礫の地山を切って平安末期～鎌倉の土坑(土師器皿，須恵器，平瓦)。№4：GL-1.0m，室町の包含層(土師器皿)を切って室町の土坑(土師器皿，須恵器，瓦器)。	11S032	RT 504	18
法住寺殿跡	東・今熊野池田町48	1/27，2/4	GL-0.4mまで現代盛土。	13S356	RT 483	18
中臣遺跡	山・西野山中臣町77-6	1/9	GL-0.1mで暗褐色砂泥を検出。遺構，遺物は検出できず。	13N504	RT 453	25-2
法性寺跡	東・本町十八町目　地内	3/20～10/28	-0.5m，時期不明の土坑。-0.6mで灰黄色シルトの地山を切って時期不明の土坑。	13S585	RT 538	27-1
山科本願寺南殿跡	山・音羽伊勢宿町26-11，26-14	1/28	GL-0.2mまで現代盛土。	13S562	RT 487	27-2
山科本願寺南殿跡	山・音羽伊勢宿町26-3	13/12/20，14/1/14	GL-0.3mで褐色砂泥を検出。遺構，遺物は検出できず。	13S549	RT 435	27-2

鳥羽地区(TB)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
鳥羽離宮跡	伏・竹田真幡木町　地先	2/3	GL-0.4m，灰色粘土の湿地状堆積。	13T623	TB 497	19
鳥羽離宮跡	伏・中島河原田町4-23，4-24	3/26・28	GL-0.2mまで現代盛土。	13T707	TB 543	19
唐橋遺跡	南・唐橋堂ノ前町20	2/4～6	GL-0.3m，平安以降の包含層(丸瓦)。-0.4m，時期不明の包含層。	13S448	TB 498	27-6
深草遺跡	伏・深草野田町　地内	3/26～10/20	-0.9m以下，浅黄色微砂の地山。	13S586	TB 542	27-7

伏見・醍醐地区(FD)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
伏見城跡	伏・桃山筒井伊賀西町17-2	2/24	GL-1.2mで暗褐色砂泥を検出。遺構，遺物は検出できず。	13F570	FD 520	14
伏見城跡	伏・村上町～南浜町　地内	13/4/1～14/11/17	GL-0.7m・-0.8m，時期不明の整地層2層。	12F485	FD 002	14
伏見城跡	伏・桃山町鍋島18-7，8-5	3/7	GL-0.2mまで現代盛土。	13F632	FD 529	14・15
伏見城跡	伏・深草大亀谷金森出雲町15-1	2/6～3/10	GL-0.5m以下，黄褐色砂泥の地山。	13F437	FD 499	15
伏見城跡，桃山古墳群（永井久太郎古墳）	伏・桃山町島津～桃山町三河	13/9/4～14/2/6	№10；GL-0.5mで浅黄色砂泥の地山を切って時期不明の土坑。№24；GL-0.4m・-0.5m・-0.5m，時期不明の整地層3層。	13F292	FD 276	15
伏見城跡	伏見区桃山町和泉1-1，桃山町大津町1の一部	1/9・14	GL-0.3m，近世以降の湿地状堆積の落込。	13F555	FD 456	15
史跡醍醐寺境内	伏・醍醐東大路町3	3/28	GL-0.2m以下，明黄褐色砂泥の地山。	25N072	FD 548	25-3
稲荷山古墳群，伏見稲荷大社境内	伏・深草開土町101-1	1/17	GL-0.5m以下，橙色砂泥の地山。	12S361	FD 469	28-1
稲荷山古墳群，伏見稲荷大社境内	伏・深草笹山町15，16の一部	3/31，4/1	GL-0.1m以下，黄色砂泥の地山。	13S633	FD 549	28-1
太閤堤（小倉堤，槙島堤）	伏・向島	13/12/11，14/1/6	GL-0.7mまで現代盛土。	13S057	FD 409	28-4

長岡京地区(NG)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
左京三条三坊十四町跡	伏・久我西出町10-2	3/28	GL-0.3m，旧耕作土。	13NG575	NG 547	20
左京四条三坊四町，五条三坊一町跡	伏・羽束師菱川町180-1	2/25～3/3	GL-0.6m以下，オリーブ褐色砂礫の地山。	11NG203	NG 522	20
左京五条四坊七町跡，羽束師志水町219-1の一部	伏・羽束師志水町219-1の一部	1/23，2/20	GL-1.6m以下，黄褐色粘土の地山。	13NG260	NG 479	20
左京九条三坊十二町跡，淀城跡	伏・淀池上町　地先	2/17・18・20	GL-1.5mまで現代盛土。	13NG589	NG 507	28-6
左京九条三坊十二町跡，淀城跡	伏・淀池上町～淀木津町　地内	13/12/16～14/1/23	GL-1.5mまで現代盛土。	13NG405	NG 419	28-6

南桂川地区(MK)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
中久世遺跡	南・久世中久世町四丁目85-5	3/24	巡回時，工事終了。	13S680	MK541	23-2
中久世遺跡	南・久世中久世町四丁目85-11	2/10	GL-0.2mまで現代盛土。	13S591	MK502	23-2
中久世遺跡	南・久世中久世町四丁目85-19	1/9	GL-0.3mまで現代盛土。	13S548	MK455	23-2
中久世遺跡	南・久世殿城町102	2/17	GL-0.4mまで現代盛土。	13S473	MK506	23-2

Ⅱ　2014年　4～12月期(平成26年度)

平安宮(HQ)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
大蔵省跡	上・上長者町通浄福寺東入高台院町545-9	9/16・19	GL-0.3mまで現代盛土。	14K204	HQ225	1
大蔵省跡	上・七本松通一条下ル三軒町71-16	10/6	巡回時，工事終了。	14K334	HQ259	1
大蔵庁跡	上・仁和寺街道下ノ森通西入ル鳳瑞町～下ノ森通東入ル二番町 地先	4/22～25・28・30，5/1・7～9・13	№1：GL-0.3mで褐色シルトの地山を切って時期不明の落込(土師器皿)。 №3：GL-0.5m，江戸の包含層(土師器)。-0.6m以下，褐色粘質土の地山。№4：GL-0.8m，時期不明の南北方向の石列。	14K020	HQ033	1
右近衛府跡，鳳瑞遺跡	上・御前通下立売上る天満屋町310	11/7・13	GL-0.3mで黒色泥砂を検出。遺構，遺物は検出できず。	14K355	HQ296	1
図書寮跡	上・鳳瑞町245-29	8/4	GL-0.3mまで現代盛土。	13K398	HQ179	1
図書寮跡	上・御前通下立売上る三丁目東入三崎町281-22、23	9/29	GL-0.4m，時期不明の包含層。	14K257	HQ243	1
図書寮跡	上・鳳瑞町245-28	10/23	GL-0.2mまで現代盛土。	14K302	HQ274	1
宴松原跡	上・七本松通下立売上ル三番町 地先	7/28	GL-0.8mまで現代盛土。	14K206	HQ168	1
宴松原跡	上・下長者町通六軒町西入利生町294-64	8/11	GL-0.3mまで現代盛土。	14K253	HQ187	1
宴松原跡	上・六軒町通下長者町下る七番町330-21	10/30	GL-0.4m，近世の包含層。-0.7m，時期不明の整地層。	14K249	HQ285	1
宴松原跡，鳳瑞遺跡	上・下立売通七本松通西入西東町地先	10/7～9，15・16	GL-0.4mまで現代盛土。	14K284	HQ257	1
掃部寮跡	上・下長者町通六軒町西入利生町288-6	6/24	巡回時，工事終了。	14K084	HQ109	1
掃部寮跡	上・六軒町通下長者町上る四番町145-3	8/11	GL-0.8mで黒褐色泥砂を検出。遺構，遺物は検出できず。	14K155	HQ186	1
縫殿寮跡，聚楽第跡	上・下長者町通浄福寺西入新御幸町52-7	7/14	GL-0.5mまで現代盛土。	14K186	HQ135	1
縫殿寮跡，聚楽第跡	上・下長者町通浄福寺西入新御幸町52-8	7/14	GL-0.4mまで現代盛土。	14K187	HQ136	1
縫殿寮跡，聚楽第跡	上・下長者町通浄福寺西入新御幸町52-1	9/5	GL-0.3mまで現代盛土。	14K286	HQ214	1
梨本・内裏跡，聚楽第跡，聚楽遺跡，上京遺跡	上・東神明町他　地内	12/3～5・8	GL- 1.0mまで現代盛土。	13K681	HQ332	1・21-1
左近衛府跡，聚楽第跡	上・日暮通出水上る秤口町161-9	5/8	GL-0.3mまで現代盛土。	14K051	HQ037	1
左近衛府跡，聚楽第跡	上・日暮通出水上る秤口町　地先	6/9	GL-0.6m，近世の整地層。	14K109	HQ083	1
左近衛府跡，聚楽第跡	上・日暮通出水上る秤口町161の一部（B号地）	7/25	GL-0.3mまで現代盛土。	14K212	HQ159	1
左近衛府跡，聚楽第跡	上・日暮通出水上る秤口町161の一部（D号地）	7/25	GL-0.4mまで現代盛土。	14K213	HQ160	1
左近衛府跡，聚楽第跡	上・日暮通出水上る秤口町161の一部（E号地）	7/25	巡回時，工事終了。	14K189	HQ158	1
左近衛府跡，聚楽第跡	上・日暮通出水上る秤口町161の一部（A号地）	7/25	巡回時，工事終了。	14K188	HQ157	1
左近衛府跡，聚楽第跡	上・日暮通出水上る秤口町161の一部（C号地）	7/25	巡回時，工事終了。	14K190	HQ166	1
左近衛府跡，聚楽第跡	上・南清水町129	9/16	GL-0.4mまで現代盛土。	14K248	HQ226	1
内裏跡	上・下立売通千本東入田中町472-3	4/17	GL-0.2mまで現代盛土。	13K654	HQ024	1
内裏跡	上・下長者町通千本東入二本松町6-18	5/15・16・19	GL-0.4mまで現代盛土。	13K561	HQ047	1
内裏跡，聚楽第跡	上・東新町町270-6	7/4	GL-0.2mまで現代盛土。	14K126	HQ123	1
内裏跡隣接地	上・下立売通千本東入下る中務町490-69	6/4	GL-0.2m，時期不明の包含層(土師器)。	14K068	HQ078	1

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
内裏跡隣接地，聚楽遺跡	上・中務町490-101	5/15	GL-0.4mまで現代盛土。	14K027	HQ049	1
内膳司跡	上・出水通千本西入尼ヶ崎横町358-6	4/1・2	№1：GL-0.4m，室町後期の包含層(土師器皿，須恵器)。GL-0.6mで黒褐色泥砂の地山を切って平安中期～後期の土坑(土師器皿，須恵器，瓦)。№2：GL-0.7mで黒褐色泥砂の地山を切って時期不明の土坑。	13K593	HQ001	1
左兵衛府跡，聚楽第跡	上・日暮通下立売上る天神町581-6	9/29	GL-0.4m，時期不明の包含層(土師器)。	14K291	HQ249	1
西雅院・東雅院・主水司跡，聚楽遺跡	上・西院町他	9/24・26・29・30，10/1，12/9	GL-1.0mまで現代攪乱。	14K292	HQ240	1
造酒司跡，鳳瑞遺跡	中・聚楽廻松下町11-28，11-2の一部	12/8	-0.6m，近世以降の包含層。	14K396	HQ340	1
左馬寮跡	中・左馬寮町1-23	5/23	GL-0.3mまで現代盛土。	14K009	HQ057	1
左馬寮跡	中・西ノ京左馬寮町11-22の一部	9/4	GL-0.3mまで現代盛土。	14K225	HQ211	1
豊楽院跡，鳳瑞遺跡	中・聚楽廻西町86-3	9/18	-0.1mで明黄褐色砂泥の豊楽殿基壇地業を検出。	14K261	HQ231	1
朝堂院跡，聚楽遺跡	中・聚楽廻東町9-7	9/24	GL-0.3mまで現代盛土。	14K315	HQ239	1
朝堂院跡，聚楽遺跡	中・聚楽廻南町25-5	10/30，11/7・11	GL-1.1mに下，浅黄色砂礫の地山。	14K063	HQ284	1
朝堂院跡，聚楽遺跡	中・聚楽廻東町20-8	12/17・18・19	GL-0.3mでにぶい黄褐色泥砂の地山を切って時期不明の落込。	14K403	HQ358	1
内舎人跡隣接地，聚楽遺跡	上・下立売通千本東入下る中務町490番地58	11/6	GL-0.4m，平安の包含層(土師器，瓦器)。	14K382	HQ295	1
中務省跡，聚楽遺跡	上・中務町486-26	10/1	GL-0.5m，近世の包含層。	14K171	HQ252	1
中務省跡，聚楽遺跡	上・主税町1132，1133	9/22・24	GL-0.8m以下，にぶい黄褐色粘質土の地山。	14K071	HQ235	1
主水司跡，聚楽遺跡	上・下立売千本東入ル下ル中務町486-20	9/1	GL-0.5m，近世の包含層(輸入青磁龍泉窯，京焼椀，平瓦)、-0.7m以下，橙色粘質土の地山。	14K264	HQ206	1
太政官跡，聚楽遺跡	上・千本通二条下る東入主税町1031-1	9/18	GL-0.7mまで現代盛土。	14K266	HQ232	1
太政官跡，聚楽遺跡	上・竹屋町通千本東入主税町1010	12/10	GL-0.3mまで現代盛土。	14K393	HQ346	1
右馬寮跡	中・西ノ京右馬寮町8-90，8-91及び8-92	7/28	GL-0.5mまで現代盛土。	14K078	HQ152	1
右馬寮跡	中・西ノ京冷泉町103及び104	9/9	GL-0.5m，近世の包含層。	14K221	HQ218	1
治部省跡	中・西ノ京東坂町14-1の一部，14-15，聚楽廻西町188-4の一部	11/25	GL-0.3m以下，明黄褐色シルトの地山。試掘調査済地点。	14K161	HQ319	1
神祇官跡	上・藤屋町　地先	11/28，12/2	GL-1.00m以下，黄褐色砂泥の地山。	14K414	HQ325	1
兵部省跡	中・西ノ京内畑町42-3	6/2	GL-0.4mまで現代盛土。	14K055	HQ072	1
兵部省跡	中・西ノ京内畑町25-20	9/11	GL-0.2mまで現代盛土。	14K265	HQ222	1
兵部省跡	中・西ノ京内畑町26-10	12/15	GL-0.2mまで現代盛土。	14K427	HQ351	1

平安京左京(HL)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
三条二坊十六町跡，妙顕寺城跡	中・油小路通二条下る二条油小路町291，291-1・293の一部	7/7	GL-0.6mまで現代盛土。	14H163	HL 125	2
北辺二坊四町跡，上京遺跡	上・堀川通一条下ル福大明神町～堀川通今出川下ル西船橋町　地先	9/5・8・17	GL-0.8mまで現代盛土。	14H239	HL 213	2
北辺二坊八町跡	上・油小路通一条下る油橋詰町83	7/1・2・4	№2：GL-0.5m以下，褐色砂礫の地山。№3：GL-0.3m，江戸の包含層。-0.5m以下，黄褐色砂礫の地山。	13H539	HL 117	2
一条三坊十町跡，旧二条城跡	上・室町通出水上る近衛町53-2	4/11	GL-0.6mまで現代盛土。	13H656	HL 020	3

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
二条二坊一町跡，二条城北遺跡	上・大宮通椹木町下る1丁目835	7/29，9/8～11・16・18	№2；GL-0.8m，平安～鎌倉の包含層(上師器皿，須恵器甕)。-0.8m以下，明黄褐色粘質土の地山。№4；現代盛土以下，-0.7m，近世の土坑(上師器，染付，焼土)。-1.2m，時期不明の整地層(上師器皿，須恵器)。-1.3m以下，明黄褐色砂礫の地山。	14H166	HL 173	2
二条二坊二町跡，二条城北遺跡	上・丸太町通黒門東入藤屋町536-101	10/9・20～24・27～29	№1；GL-1.1m，室町の包含層。-1.5m，室町の南北溝(上師器羽釜，緑釉陶器椀，黒色土器，瓦器鍋，平瓦)。-1.6m，時期不明の包含層。-1.7m以下，にぶい黄褐色砂礫の地山。№2；GL-2.3mでにぶい黄褐色砂礫の地山を切って室町の土坑(上師器皿・壺，輸入陶磁器青磁)。№3；GL-1.0m，江戸の包含層(上師器皿，染付椀，金属製品釘)。-1.1m，室町の整地層。-1.2m・1.6m，室町の包含層(上師器皿・羽釜，黒色土器，平瓦)2層。-1.6mでにぶい黄褐色砂泥の室町包含層，-2.0mで黄褐色シルトの地山を切って室町の土坑(上師器羽釜)。 №4；GL-1.0m，近世の包含層(上師器皿)。-1.3mで近世の包含層(上師器皿，平瓦)を切って近世の土坑(焼締陶器甕，平瓦)。-1.6mで暗灰黄色砂礫の地山を切って室町の南北溝(上師器皿，緑釉陶器，瓦器羽釜，平瓦)。 №5；GL-1.6mで淡黄色極細砂の地山を切って室町の南北溝(上師器皿)。№1・4・5の南北溝は一直線上に並び，室町時代の大宮大路東側溝と考えられる。№6；GL-0.9m，近世の包含層(上師器皿，隅瓦)。-1.6mで明黄褐色砂礫の地山を切って室町の土坑(礎石)。 №7；GL-0.8m，近世の土坑。-1.0mでにぶい黄褐色泥砂～砂礫の地山を切って室町の土坑(上師器皿)。№8；GL-0.5mで近世の整地層を切って近世の土坑。-1.3mでにぶい黄褐色砂礫の地山を切って中世の落込。	14H219	HL 262	2
二条二坊十町跡，二条城北遺跡	中・丸太町油小路西入丸太町22-1，42，東堀川通丸太町下る七町目1-1，16	6/17～19	GL-1.6m，平安の包含層(上師器皿，須恵器甕)。-1.8m以下，褐灰色細砂の地山。	13H708	HL 101	2
二条二坊九・十六町跡，二条城北遺跡	上・油小路通丸太町上る米屋町289	6/26・27・30	GL-0.4m，近代以降の包含層。	12H216	HL 113	2
二条三坊二町跡	中・西洞院通丸太町下る田中町138	12/12	GL-0.5mまで現代盛土。	14H399	HL 347	2
二条三坊四町跡	中・二条通西洞院東入正行寺町662，西洞院通夷川下る藤師町656	7/25	GL-2.2m・-2.4m，近世の包含層(上師器皿，平瓦)2層。-2.5mに以下，黄褐色砂礫の地山。	14H066	HL 163	3
二条三坊十一町跡	中・室町通夷川上る鍛屋町39-1，42	9/22・25，10/7	GL-1.0mまで現代盛土。	14H011	HL 236	3
二条四坊十三町跡	中・寺町二条上る西側要法寺前町715-1	4/15・16	GL-1.3mまで現代盛土。	13H513	HL 021	3
三条一坊二町跡	中・西ノ京北聖町68	7/22～24	GL-1.2m，近代以降の包含層。-1.1m，褐灰色砂泥の湿地状堆積。	14H105	HL 150	2
三条一坊三町跡	中・西ノ京職司町4-6	6/10	GL-0.5mで黄灰色泥砂の地山を切って近世の落込(上師器鉢，施釉陶器甕，染付皿・椀，丸瓦)。	14H005	HL 088	2
三条一坊七町跡	中・西ノ京北聖町1	5/27・28，6/18	GL-0.7mで黄灰色砂泥の地山を切って時期不明の落込。	14H069	HL 062	2
三条一坊十三町跡	中・大宮通姉小路下る姉大宮町西側74-1，74-2	9/26・29	№1；GL-1.4m，近世の包含層。-1.7m以下，暗緑灰色細砂の地山。№2；GL-0.9m，室町～近世の包含層(上師器皿，瓦器鍋，焼締陶器)。-1.1mでにぶい黄褐色砂礫の地山を切って時期不明の土坑。	14H251	HL 244	2
三条二坊十五町跡，妙見寺城跡	中・油小路通押小路下る押油小路町250，252-7	4/7・11・14	GL-1.3mまで青灰色泥土を検出。-1.3m以下，にぶい黄橙色砂礫の地山。	13H551	HL 005	2

遺　跡　名	所　在　地	調　査　日	調　査　概　要	受付番号	調査No.	図版
三条三坊十町跡、二条殿御池城跡	中・烏丸通御池上る二条殿町548-1、両替町通押小路下る金吹町456	12/18	GL-1.8mで二条殿の時期の層。東西方向の堀の可能性。GL-3.7m以下、地山。	14H042	HL 360	3
三条三坊十町跡、二条殿御池城跡、烏丸御池遺跡	中・両替町通姉小路上る龍池町448-4	6/2・3	GL-1.0m、灰黄褐色泥砂の池埋土。-1.5mで礫を含み固くしまるオリーブ黒色泥砂を検出。池底の可能性。北東隣地で室町時代の苑池を検出しており、その延長の可能性。	14H013	HL 073	3
三条三坊十二町跡、烏丸御池遺跡	中・室町通三条上る投行者町376、379	5/21～23	GL-1.6mで灰黄褐色砂泥を検出。-2.1mでにぶい黄褐色砂礫を検出。遺構、遺物は検出できず。	13H631	HL 050	3
三条四坊六町跡、烏丸御池遺跡	中・柳馬場通姉小路上る柳八幡町73	11/20	GL-0.3mまで現代盛土。	14H307	HL 315	3
三条四坊七町跡、等持寺跡	中・柳馬場通御池上る虎石町39	7/11	GL-1.2mまで現代盛土。	14H169	HL 100	3
四条一坊七町跡	中・壬生馬場町28番2、3、6	11/27・28	GL-2.0m以下、褐色砂礫の地山。	14H123	HL 322	4
四条一坊九町跡	中・今新在家西町9-1	10/17・20	GL-0.5m以下、にぶい黄橙色砂泥の地山。	14H280	HL 272	4
四条一坊十三町跡	中・壬生坊城町1-3	10/20・21	GL-0.8m、近世の包含層。-1.0m以下、浅黄色砂礫の地山。	14H258	HL 273	4
四条二坊十町跡	中・油小路通六角下る六角油小路町328、328-1	7/2～4・11・14	№２：GL-0.9m、平安の落込(丸・平瓦)。-1.7m以下、にぶい黄色シルトの地山。№３：GL-1.1m、時期不明の包含層(土師器)を切って平安の落込。-1.4m以下、浅黄色砂泥の地山。№４：GL-1.3m、平安末期の包含層(土師器、須恵器甕)。-1.5m以下、明黄褐色粗砂の地山。№５：GL-0.9m、平安後期の包含層(土師器皿)。-1.2m以下、黄褐色砂泥の地山。	14H019	HL 119	4
四条三坊十一町跡	中・蛸薬師通烏丸西入橋弁慶町224、225	4/7～11・14	№１：GL-0.8mで室町前期の包含層(土師器皿)を切って近世前半の落込。-0.8m、江戸前期の落込。-1.5mで室町前期の落込(施釉陶器古瀬戸、焼締陶器)。№３：GL-1.0m、室町前期の包含層(土師器皿、輸入陶磁器、焼締陶器甕)。-1.3m、平安～室町の包含層(土師器皿、緑釉陶器、瓦器羽釜、輸入陶磁器、焼締陶器)。№４：GL-1.3mでにぶい黄色シルトの地山を切って平安～鎌倉のピット(土師器皿、須恵器壺・椀、黒色土器)、鎌倉のピット(土師器皿、須恵器壺)、時期不明のピット(須恵器甕)。№５：GL-1.2m、鎌倉の包含層(土師器皿)。-1.5m以下、灰白色砂泥の地山。	13H517	HL 010	5
四条四坊三町跡	中・高倉通錦小路上る貝屋町563	5/15・16・19・20	№１：GL-1.6m、室町の包含層(土師器皿、焼締陶器甕)。-1.9mでオリーブ褐色砂質土の地山を切って室町の土坑(土師器皿、瓦器)。№２：GL-1.1m、室町の包含層(土師器皿、丸瓦)。-1.5m以下、にぶい褐色砂礫の地山。№３：GL-0.7m・-1.1m、室町の包含層(土師器皿)２層。-1.2mに以下、にぶい黄褐色砂礫の地山。	13H673	HL 048	5
四条四坊七町跡	中・六角通高倉東入堀之上町128	4/22～24	№１：GL-2.2m、室町後期の包含層(土師器皿、施釉陶器、丸瓦)。-2.6m、鎌倉の土坑(土師器皿、焼締陶器)。№２：GL-1.3m、時期不明のピット。	13H684	HL 034	5
四条四坊七町跡	中・蛸薬師通高倉東入雁金町368、370	7/8・9	№１：GL-0.5mで江戸初期の包含層(土師器皿)を切って時期不明の土坑。№２：GL-0.5m、江戸初期の包含層。	14H141	HL 128	5
四条四坊八町跡、烏丸御池遺跡	中・三条通高倉東入桝屋町61-5、61、61-1、堺町通三条下る道祐町134	7/18～31、8/5・20	平安中期の三条大路路面を検出。 **本報告３ページ。**	14H134	HL 144	5
四条四坊十二町跡	中・富小路通錦小路下る西大文字町596、錦小路通柳馬場東入東魚屋町185	12/8・9・15・19	GL-1.8mまで近現代攪乱。	14H312	HL 341	5

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
四条四坊十四町跡	中・魅屋町通蜻蛉師下る梅屋町486	5/23・26～30，6/2	№1：GL-0.9m・-1.3m・-1.5m，室町の包含層(上師器皿，瓦器鍋，輸入青磁盃，青花)3層。№2：GL-1.6m，平安末期～鎌倉の包含層(輸入白磁椀)。№3：GL-1.6m，鎌倉の包含層(上師器皿，不明土製品)。-1.7m，鎌倉の落込(上師器皿，輸入白磁)。№4：GL-1.2m，平安末期～鎌倉の包含層(上師器皿，須恵器甕)。	14H040	HL 058	5
四条四坊十五町跡，寺町旧域	中・新京極六角下る桜之町430-10，438-1	4/15・25・28	GL-1.2m，時期不明の包含層(上師器皿)。-1.4mは下，灰色粗砂の地山。	13H688	HL 022	5
五条一坊四町跡	中・壬生辻町43-1，45-6	9/17・26・29	№1：GL-0.5mで黄褐色砂泥の地山を切って時期不明の土坑(土師器皿)。№2：GL-0.4m，時期不明の包含層，-0.9mは下，褐色粗砂～砂礫の地山。	14H277	HL 229	4
五条二坊二町跡	下・大宮通綾小路下る綾大宮町58	7/8～22	GL-1.0mは下，灰黄褐色砂礫の地山。	14H087	HL 127	4
五条二坊二町跡	下・猪熊通綾小路下る瀬戸屋町308	7/25・29	GL-0.3m，近世の包含層。	14H164	HL 162	4
五条三坊三町跡，烏丸綾小路遺跡	下・新町通仏光寺下る岩戸山町425	6/2	GL-0.4mまで現代盛土。	14H095	HL 063	5
五条三坊十町跡，烏丸御池遺跡	下・烏丸通綾小路下る二帖半敷町647-1他	7/18	GL-4.7mは下，灰褐色砂礫の地山。	13H573	HL 105	5
五条三坊十五町跡，烏丸綾小路遺跡	下・東洞院通綾小路下る扇酒屋町279-1，279-2	8/12～25	GL-0.5m，桃山の包含層(土師器皿)。	14H104	HL 188	5
五条四坊三町跡，烏丸綾小路遺跡，竜臥城跡	下・東洞院通仏光寺下る高橋町608、610	10/9・14	GL-1.3mまで近世盛土。	14H320	HL 263	5
五条四坊五町跡，烏丸綾小路遺跡	下・高辻通柳馬場西入泉正寺町465，堺町通高辻下る夕顔町477-4	8/21・22	GL-0.8m，近世の包含層。	14H175	HL 196	5
五条四坊六町跡，烏丸御池遺跡	下・仏光寺通柳馬場西入東前町412	5/23・26～30，6/27	№1：GL-0.9m，近世以降の包含層。№2：GL-1.0m，時期不明の落込。-1.5m，江戸中期の包含層。№3：GL-1.2m，江戸の包含層(施釉陶器，磁器，菊丸瓦)。-1.7mは下，オリーブ褐色砂礫の地山。№4：GL-1.5m，室町の落込(上師器，須恵器，瓦器)。	14H028	HL 059	5
五条四坊十二町跡	下・高辻通柳馬場東入吉文字町425	6/6・9	GL-0.9m，近世の包含層(軒平瓦)。	13H699	HL 079	5
五条四坊十五町跡	下・魅屋町通綾小路下る俵屋町296，297-2	12/3・4・9	GL-1.5mまで現代盛土。	14H359	HL 333	5
五条四坊十五町跡	下・中之町569，570-1	12/18～25	GL-1.7m以下，灰オリーブ色砂礫の地山。	14H364	HL 361	5
五条四坊十六町跡	下・四条通魅屋町東入奈良物町365	4/10	GL-1.0mまで現代盛土。	13H590	HL 017	5
五条四坊十六町跡	下・綾小路通寺町西入足袋屋町324	5/27・28	№1：GL-0.4m，近世の包含層。№2：GL-1.5m以下，にぶい黄褐色砂礫の地山。	13H701	HL 067	5
六条一坊十三町跡，中堂寺城跡	下・中堂寺薮ノ内町16，16-2	5/1・2・7～9	№1：GL-0.8mで黄褐色細砂の地山を切って鎌倉の土坑(上師器皿，須恵器，輸入青磁)。GL-0.8mで黄褐色細砂の地山を切って平安末期～鎌倉の土坑(上師器皿，須恵器，瓦器杯，無釉陶器皿)。№2：GL-0.8m，江戸後期の包含層(上師器皿，施釉陶器皿・鍋)。№3：GL-1.5m，平安末期～鎌倉の包含層(須恵器鉢)。№4：GL-0.3m，平安末期～鎌倉の落込(上師器皿，須恵器甕，瓦器，丸瓦)。-0.4m，平安末期～鎌倉の落込(上師器皿，瓦器鉢・羽釜)。-0.7mでこの落込に切られる形で時期不明の落込。肩部分に杭跡を確認でき，南北方向の溝と考えられる。この溝は柳筒小路東側溝の推定ラインに位置する。	13H612	HL 036	4
六条二坊十五町跡，烏丸綾小路遺跡	下・五条通西洞院西入平屋町423他5筆	5/13・14・16・19	推定西洞院大路西側溝に位置する落込を検出。	13H510	HL 044	4

遺　跡　名	所　在　地	調　査　日	調　査　概　要	受付番号	調査No.	図版
六条三坊六町跡，烏丸綾小路遺跡	下・新町通五条下る蛭子町107-1他	6/12，8/18・19・20・21・22	№２：GL-1.0m，近世の包含層(上師器皿)。-1.2m，室町の土坑(上師器皿，施釉陶器皿，平瓦，金属製品鐔)と平安末期の落ち(上師器皿，須恵器蓋)。GL-1.5m以下，オリーブ黄色泥砂の地山。№３；GL-1.6m，時期不明の包含層。№４：GL-1.3m，室町時代の包含層(上師器皿，須恵器甕)。-1.5m，平安前期の包含層(上師器皿)。-2.2m以下，灰オリーブ色砂礫の地山。	14H065	HL 090	5
六条四坊十五町跡	下・安上町615	9/5～29	GL-1.9mまで現代盛土。	13H641	HL 212	5
七条一坊八町跡	下・花屋町通柳馬西入小坂町13他，築園町152の4	10/15・17	№１：GL-1.2m，時期不明の南北溝。-1.4m以下，明黄褐色粗砂の地山。№２：GL-1.0mで明黄褐色砂礫の地山を切って時期不明の土坑。	13H703	HL 268	6
七条一坊十三町跡，東市跡	下・花畑町94-2　地先（七条大宮・京都水族館前バス停　東行）	11/27	GL-0.8mまで現代盛土。	14H408	HL 323	6
七条三坊一町跡	下・新町通六条下る良町845-1の一部，845-4，850-1の一部，850-2	8/29，9/1～3	№１：GL-0.4m，江戸の包含層(上師器皿)。-0.7mから-0.8m，時期不明の包含層(上師器皿，須恵器甕)２層。№２；GL-1.1m，時期不明の包含層(上師器)。№３：GL-0.8m，室町の土坑(上師器皿，瓦器鍋)。	14H167	HL 203	7
七条三坊三町跡	下・西洞院通正面下る鍛冶屋町448，若宮通正面下る鍵屋町638-2	8/29	巡回時，工事終了。	14H125	HL 205	7
七条三坊八町跡	下・新町通六条下る良町876	10/17・21	GL-0.3m，近世の焼土層。	14H275	HL 271	7
七条三坊九町跡，東本願寺前古墓群	下・諏訪町通六条下る上柳町215	4/7～14，6/27	GL-1.4m，時期不明の包含層(上師器)。-1.5m以下，灰色砂礫の地山。	13H331	HL 011	7
七条三坊十五町跡，東本願寺前古墓群	下・不明門通花屋町下る高槻町342	12/11	GL-1.5mまで現代盛土。	14H430	HL 326	7
七条四坊九町跡	下・大工町496-2　地先（河原町正面バス停　南行）	12/3	GL-1.2mまで現代盛土。	14H407	HL 334	7
七条四坊十町跡	下・東玉水町300　地先（河原町正面バス停　北行）	12/4	GL-1.3mまで現代盛土。	14H406	HL 337	7
七条四坊十町跡，御上居跡	下・上手町通正面上る源池町358，360，375-1，西木屋町通上ノ口下る梅湊町92-6，102-1	7/15・22・24・29	GL-0.7m，浅黄色砂礫の氾濫堆積。	14H129	HL 139	7
七条四坊十町跡，寺町旧域，御上居跡	下・大工町487-3，487-1，508-4，梅湊町102-5	7/28，8/4・5・7・11	№１：GL-0.4m，近世の包含層。-0.7m以下，灰黄褐色粗砂～砂礫の地山。№２；GL-0.5m，江戸の包含層(上師器皿，坩堝)。-0.9m以下，浅黄色砂礫の地山。 №３；GL-0.5m，鴨川の氾濫堆積。-1.2m，江戸の落込(上師器皿)。-1.4m，江戸の包含層(上師器皿，須恵器鉢，染付椀)。-1.5m以下，浅黄色粗砂の地山。	13H653	HL 169	7
八条一坊二町跡，右京八条一坊三町跡，御上居跡	下・観喜寺町3　他	6/9	GL-0.6mまで現代盛土。	12H663	HL 085	6・13
八条一坊三町跡，御上居跡	下・観喜寺町3　他	6/27・30	GL-1.8m，時期不明の落込(上師器)。	12H662	HL 084	6
八条一坊八町跡	下・歓喜寺町8　地先（梅小路公園前バス停　西行）	11/26	GL-1.0mまで現代盛土。	14H405	HL 316	6
八条二坊一町跡	下・黒門通本津屋橋通上る徽宝町339	7/25・29	GL-0.4m，室町の包含層(上師器，施釉陶器)。-0.6mで室町の包含層(上師器皿，須恵器甕，瓦器羽釜)を切って室町の落込(上師器皿，瓦器羽釜，施釉陶器椀，焼締陶器甕)。-1.0m，平安後期の包含層(上師器皿)。	14H089	HL 161	6
八条二坊四町跡	南・猪熊通八条上る戒光寺町186	6/6	GL-0.4m，近代包含層。	14H044	HL 080	6
八条二坊十三町，九条三坊十六町跡	南・西九条北ノ内町，東九条西山王町32	7/22～30，8/18～22	GL-0.5m以下，灰黄色粗砂の地山。	13H683	HL 149	6
八条三坊四・五町跡，御上居跡	下・烏丸通塩小路下る東塩小路町	9/24	GL-1.0mまで現代盛土。	14H185	HL 241	7

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
八条三坊九町跡,東本願寺前古墓群	下・東坊町179	8/25	GL-0.7m・-0.8m・-0.9m，時期不明の路面3。調査地点は推定七条大路の路面にあたる。	14H199	HL 198	7
八条四坊十二・十三町跡	下・東之町他　地内	11/26	GL-0.9m以下，褐色砂礫の氾濫堆積。	14H300	HL 320	7
八条四坊十六町跡	下・若宮町他　地内	9/8・9	GL-1.7mまで現代盛土。	14H195	HL 215	7
九条一坊十二町跡,史跡教王護国寺境内	南・九条町1	10/23	GL-0.2mまで現代盛土。	26C039	HL 275	6
九条一坊十三町跡,史跡教王護国寺境内	南・九条町1	8/25～28	GL-0.3m，近世の包含層(丸・平瓦)。	23N015	HL 199	6
九条三坊四町跡,烏丸町遺跡	南・東九条下殿町70，70-1，70-15	9/26	GL-1.3mで黄橙色粗砂の地山を切って室町時代の東西溝(土師器皿)。	13H670	HL 245	7
九条三坊十五町跡	南・東九条西山王町16-4他	4/10～14	GL-0.9m以下，灰色砂礫の地山。	13H705	HL 018	7
九条四坊二町跡,烏丸町遺跡	南・東九条東山王町5	9/24	GL-0.2mまで現代盛土。	14H271	HL 227	7

平安京右京(HR)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
北辺二坊五町跡,北野遺跡，北野廃寺，御土居跡	北・北野下白梅町83	6/26	GL-0.3mまで現代盛土。	14S128	HR 115	9
北辺三坊五・六町,一条三坊九・十・十一・十二町跡	北・中京区馬代通，一条通～丸太町通他　地内	12/03	GL-0.6m，時期不明の包含層(平瓦)。	14H298	HR 336	8
北辺四坊五町跡,史跡妙心寺境内	右・花園妙心寺町48，17	8/19・20	№1：GL-0.2m，近世以降の整地層。-0.4m，時期不明の包含層(丸瓦)。-0.9m以下，明褐色シルト(礫混)の地山。№2：GL-0.5m，時期不明の土坑(瓦)。-0.6m以下，明褐色シルト(礫混)の地山。	25N065	HR 191	8
一条四坊一・二町跡	右・花園木辻北町1-1他	7/28・29，8/6～25	№1：GL-0.4m，時期不明の包含層。№2：GL-0.3m以下，明褐色砂礫の地山。	14H201	HR 172	8
一条四坊七町跡,史跡妙心寺境内	右・花園妙心寺町12-1	10/16・17・20	GL-0.1mで時期不明の整地層を切って時期不明の土坑2基。	26N019	HR 270	8
一条四坊九町跡，名勝・史跡妙心寺庭園，史跡妙心寺境内	右・花園妙心寺町1	7/17	GL-0.2m以下，にぶい黄橙色砂泥の地山。GL-1.6mまで現代盛土。	26C011	HR 142	8
二条二坊九町跡	中・西ノ京円町36-1　地先（西ノ京円町バス停　南行南詰）	11/10	巡回時，工事終了。	14H342	HR 301	9
二条三坊一町跡,西ノ京遺跡	中・西ノ京中御門西町19，18-2，18-1，24	8/26～29	№2：GL-0.5m，平安末期～鎌倉の包含層(土師器皿)。-1.0m以下，灰白色粘土層の地山。№3：GL-0.5mで淡黄色粘土の地山を切って平安の柱穴。№4：GL-0.5mで淡黄色粘土の地山を切って平安の土坑(土師器皿，須恵器甕)。№5：GL-0.4m，時期不明の包含層(土師器皿，瓦器鍋)。-0.6m以下，灰白色粘土層の地山を切って時期不明の土坑。№6：GL-0.6m・-0.8m，室町の包含層(土師器皿・鍋)2層。-0.9mで鎌倉の包含層(土師器皿，須恵器甕，輸入青磁椀)を切って鎌倉の土坑(土師器皿，石製品砥石)。-1.0mで灰白色粘土の地山を切って時期不明の土坑(土師器)。№7：GL-0.4m，江戸の土坑(不明土製品)。-0.6m，室町の包含層(土師器皿，瓦器椀)。-0.7mで灰白色粘土の地山を切って平安の土坑(須恵器鉢)。	14H148	HR 201	8

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
三条一坊九町跡	中・西ノ京永本町6, 6-1	10/27～31, 11/6・11・13	№2：GL-0.2mで明黄褐色泥砂～砂礫の地山を切って平安～室町の土坑(土師器皿・高杯, 須恵器壺, 輸入白磁, 瓦)。№3：GL-1.0m, 平安の包含層(須恵器鉢)。№4：GL-0.2m, 時期不明の落込と土坑(土師器皿, 須恵器甕, 黒色土器椀)。-0.4m以下, 灰白色泥砂～粗砂の地山。№5：GL-0.2m, 時期不明の包含層(丸・平瓦)。-0.4m以下, 明黄褐色シルトの地山。	13H219	HR 278	9
三条三坊二町跡, 西ノ京遺跡	中・西ノ京西中合町38	7/28	GL-2.4mまで現代盛土。	14H127	HR 170	8
三条三坊二町跡, 西ノ京遺跡	中・西ノ京西中合町39-2	10/23	GL-0.2m, 灰褐色砂礫の泥塊状堆積。	14H305	HR 276	8
三条四坊三町跡	右・山ノ内宮脇町1-1	4/7・8・10	GL-1.2m以下, 灰褐色粘土の地山。	13H604	HR 012	8
三条四坊十町跡	右・太秦安井西沢町7-1, 7-12, 7-27, 7-29, 7-31	7/7・10・11・14～17・22・29	№1：GL-0.8m, 時期不明の包含層。-1.1m以下, 黄褐色粗砂の地山。№2・3：GL-0.3mで黄褐色粗砂の地山を切って黒色泥砂の湿地状堆積の落込。№6：GL-0.9mで明黄褐色粘土の地山を切って時期不明の土坑(土師器)。-1.2mで明黄褐色粘土の地山を切って時期不明の土坑(土師器, 須恵器)。	13H579	HR 126	8
四条一坊九町跡, 壬生遺跡	中・壬生神明町1-20の一部	12/15・16	GL-0.4m以下, にぶい黄褐色砂泥(礫混)の地山。	14H419	HR 352	11
四条一坊十一町跡	中・壬生森町38-1の一部	10/20・21	GL-0.2m, 鎌倉～室町の整地層(土師器皿)。-0.4m～-0.9m, 平安末期～鎌倉の池状堆積(土師器皿・椀・高杯, 須恵器壺・甕, 緑釉陶器皿, 施釉陶器甕, 焼締陶器甕, 木製品署, 平瓦)。-0.7mで灰色粘土内に砂礫が入る層が認められ, 池底の礫敷きの可能性。-0.9m以下, オリーブ灰色砂礫の地山。	14H093	HR 266	11
四条二坊六町跡, 壬生遺跡	中・壬生淵田町21-1の一部, 21-3, 21-4, 21-5	8/4	GL-0.2m, 時期不明の土坑。-0.4m以下, 暗灰黄色粗砂の地山。	14H158	HR 180	11
四条二坊六町跡, 壬生遺跡	中・壬生淵田町21-19の一部, 21-7, 21-8	8/4	BM-0.6m以下, 黄褐色砂礫の地山。	14H159	HR 183	11
四条三坊八町跡, 西ノ京遺跡	右・西院上花田町10-1	9/11	GL-0.9mまで現代盛土。	14H303	HR 223	10
四条四坊三町跡, 山ノ内遺跡	右・山ノ内瀬戸畑町32の一部	12/17・18	№1：GL-0.5m, 古墳～飛鳥の包含層(土師器鍋)。№2：GL-0.3mで時期不明の包含層(瓦器)を切って時期不明の土坑(土師器)。-0.6m以下, 明黄褐色泥土の地山。	14H416	HR 359	10
四条四坊九町跡, 山ノ内遺跡	右・山ノ内西裏町11の一部, 11-3, 11-6	6/3・23	GL-1.1m以下, 黒色粘質土の地山。	13H330	HR 076	10
五条一坊二町跡	中・壬生高樋町49	5/13	GL-0.6mまで現代盛土。	14H003	HR 038	11
五条一坊十三町跡	中・壬生下溝町44-4, 44-25	12/22・24・25	№1：GL-1.0m, 時期不明の包含層(土師器, 瓦器鍋)。№2：GL-0.4m, 時期不明の包含層。	14H442	HR 365	11
五条一坊十四町跡	中・壬生下溝町51-5	12/15	GL-0.5mまで現代盛土。	14H465	HR 353	11
五条一坊十五町跡	中・壬生森前町19-6, 19-12	7/18～28	GL-0.9mまで現代盛土。	14H135	HR 145	11
五条一坊十六町跡	中・壬生森前町16-20	6/18～23	GL-0.8m以下, 灰黄褐色砂礫の地山。	14H072	HR 103	11
五条三坊三町跡	右・西院矢掛町18	6/26・27・30, 7/1・2	№1：GL-0.1m, 時期不明の包含層(土師器, 須恵器)。-0.4m以下, 明黄褐色シルトの地山。№3：GL-0.4mでにぶい黄色微砂の地山を切って時期不明の土坑とピット。№4：GL-0.3m, 時期不明の包含層(土師器, 須恵器)。	14H057	HR 114	10
五条三坊三町跡	右・西院西矢掛町17-3	9/2～5・8・9	№1：GL-0.7mでにぶい黄褐色泥砂の地山を切って平安中期の土坑(須恵器甕・椀, 輸入白磁皿)。№2：-0.6mでオリーブ黄色粘質土の地山を切って近世の土坑(土師器, 施釉陶器)。№3：-0.6m, 平安の包含層(須恵器椀)。-1.0m以下, オリーブ灰色粘質土の地山。	14H245	HR 210	10

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
五条三坊十一町跡	右・西院久田町103	4/8～10	№１：GL-0.8m，時期不明の包含層(土師器皿，輸入青磁)。-0.9m以下，明黄褐色シルトの地山。№２：GL-0.9m，平安の土坑(緑釉陶器)。-1.0mで明黄褐色シルトの地山を切って時期不明の土坑(須恵器甕)。	13H702	HR014	10
五条三坊十四町跡，西京極遺跡	右・西院日照町125	5/27	GL-0.6mまで現代盛土。	13H671	HR068	10
六条一坊五町跡	下・朱雀分木町1	7/28～8/28	平安の六条大路北側溝を検出。本報告28ページ。	14H149	HR171	11
六条一坊八町跡	下・中堂寺北町28-10	7/22・25	GL-0.6m，平安以降の包含層(平瓦)。	14H147	HR137	11
六条一坊十五町跡	下・中堂寺庄ノ内町46-7，50-2	10/1・2・6・9・14	№１：GL-0.7m，平安の湿地状堆積(不明木製品，不明石製品)。-0.7m以下，にぶい黄褐色粗砂の地山。№２：GL-0.7mで灰色砂礫の地山を切って時期不明の土坑。№４：GL-1.2m，平安後期の湿地堆積(土師器皿，須恵器甕・鍋)。試掘調査済地点。平成26年度の試掘調査報告に報告。	13H605	HR253	11
六条二坊三町跡	中・壬生東高田町1-2　地先（市立病院前バス停　東行）	6/16	GL-0.6mまで現代盛土。	14H107	HR095	11
六条二坊十町跡	右・西院南高田町18-1　地先（西大路五条バス停　東行）	8/1	GL-1.1mまで現代盛土。	14H108	HR176	11
六条二坊十五町跡，西院遺跡	右・西院南高田町10他7筆	10/31	GL-0.3mで黄灰色泥砂を検出。遺構，遺物は検出できず。	14H216	HR287	11
六条三坊十二町跡	右・西京極北庄境町31	12/24	GL-0.3mまで現代盛土。	14H475	HR368	10
六条三坊十四町跡	右・西院六反田町26，27	10/3～12/22	GL-0.3mで明黄褐色シルトの地山を切って弥生～古墳の土坑(土師器)。	14H151	HR255	10
六条三坊十四町跡	右・西院六反田町26の一部、27の一部	12/22	GL-0.2mまで現代盛土。	14H436	HR364	10
六条四坊三町跡，西京極遺跡	右・西院六反田町53	5/30，6/2～4・9～13・16	№２：GL-1.2m，平安～中世の包含層(土師器皿，緑釉陶器)。№３：GL-1.2m，室町の包含層(土師器皿)。№４：GL-1.1m，時期不明の包含層(須恵器，不明土製品)。-1.4m，時期不明の土坑と時期不明の落込。	13H619	HR071	10
六条四坊八町跡，西京極遺跡	右・西院月双町88-2	7/25・28	時期不明の竪穴建物を検出。本報告33ページ。	14H180	HR164	10
七条一坊六町跡	下・朱雀分木町1（関西電力株式会社　島原変電所）	6/17、7/14～17	№２：GL-1.4m以下，黄褐色泥砂の地山。№３：GL-1.0m，近世以降の包含層。	14H106	HR102	13
七条二坊九町跡	下・西七条掛越町61	6/10	GL-0.7m以下，灰色泥砂の地山。	13H394	HR089	13
七条二坊十一町跡，西市跡，衣田町遺跡	下・西七条市部町238-2	12/11・12	GL-0.5mで褐灰色微砂～シルトを検出。遺構，遺物は検出できず。	14H449	HR348	13
七条二坊十五町跡	下・西七条掛越町26-1	5/12～16	平安前期の建物跡，井戸，東西溝を検出。本報告36ページ。	13H662	HR043	13
八条二坊八町跡，衣田町遺跡	下・西七条南西野町62	6/2	GL-0.5m，時期不明の包含層(不明土製品，瓦)。	14H049	HR060	13
八条四坊十三町跡	右・西京極橋詰町34-1，34-2	8/26～9/9	GL-0.9m，黄褐色砂礫の氾濫状堆積。	14H110	HR200	12
九条一坊三町跡	南・唐橋赤尾町64-25	7/9	GL-0.4mまで現代盛土。	14H142	HR129	13
九条一坊十一町跡，史跡西寺跡	南・唐橋西寺町58-1	9/16	GL-0.1mまで現代盛土。	26N014	HR228	13
九条四坊五町跡	南・吉祥院中河原里西町38の一部、39の一部	11/27	GL-0.5m以下，にぶい黄色泥砂の地山。	14H309	HR324	12

太秦地区(UZ)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
太秦馬塚町遺跡	右・太秦中筋町10-1	5/26～30	№3：GL-0.7mで浅黄色砂礫の地山を切って時期不明の土坑。№5：GL-0.7mでにぶい黄褐色粘質土の地山を切って時期不明の土坑。	13S686	UZ 061	16
太秦馬塚町遺跡	右・太秦馬塚町17-1，17-15，17-17	12/25	GL-0.8m以下，橙色泥砂の地山。	14S445	UZ 369	16
常盤仲之町遺跡	右・太秦一ノ井町　地先	6/18・23・25・30，7/1・4	№1：GL-0.3m，近世以降の耕作土。-0.6m，時期不明の包含層(土師器)。№3：GL-0.8m，時期不明の包含層。№4：GL-0.4m以下，明黄褐色砂泥の地山。	14S137	UZ 106	16
史跡名勝嵐山	右・嵯峨鳥居本化野町12-8	7/22・23	GL-0.4m以下，橙色シルトの地山。	26C008	UZ 151	23-1
嵯峨遺跡	右・嵯峨大覚寺門前八軒町3-27，3-29	8/20	GL-0.2mまで現代盛土。	14S154	UZ 195	23-1
嵯峨遺跡	右・嵯峨天龍寺瀬戸川町18-19	9/18	GL-0.6mまで現代盛土。	14S241	UZ 233	23-1
円宗寺跡，仁和寺院家跡	右・御室芝橋町4-4	4/25～5/22	GL-0.3m以下，明黄褐色泥砂の地山。	13S713	UZ 035	26-2
仁和寺院家跡	右・花園土堂町18-1，17-14，33-1	6/9・11	GL-0.4m以下，にぶい黄褐色砂泥の地山。	14S058	UZ 086	26-2

洛北地区(RH)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
上総町遺跡	北・小山東小野79-1，79-2	6/24	GL-0.5mまで現代盛土。	14S091	RH 110	21-1
上総町遺跡	北・山上総町20	6/16～18	GL-1.1m，時期不明の包含層。	13S541	RH 096	21-1
上京遺跡	上・室町通蛸馬口下る森之木町461	6/18	GL-0.3mまで現代盛土。	14S133	RH 104	21-1
上京遺跡	上・寺ノ内通堀川西入東西町415	8/29	GL-0.4mまで現代盛土。	14S236	RH 204	21-1
上京遺跡	上・上立売通堀川西入芝薬師町628-1	6/16・18	GL-1.0m，時期不明の包含層(土師器)。-1.32mより下，にぶい黄橙色砂礫の地山。	13S672	RH 097	21-1
上京遺跡	上・上立売通堀川東入堀之上町13，13-3，11	7/25・29・31，8/6・7	№1：GL-1.5m以下，にぶい黄褐色砂礫の地山。№2：GL-1.4m，室町の落込(土師器皿，瓦器椀)。-1.5mで暗灰黄色砂礫の地山を切って時期不明の落込(輸入青磁椀)。	14S076	RH 165	21-1
上京遺跡	上・小川通今出川下る西入東今町374他	6/3～6・9・11	室町の柱穴を検出。本報告50ページ。	13S615	RH 077	21-1
上京遺跡	上・寺町通今出川二筋目西入北横町354-1	12/17・18	GL-0.2m，近世の包含層。-0.4m，室町の包含層(土師器皿・鍋)。	14S381	RH 355	21-1
上京遺跡	上・大宮通今出川下る薬師町237，237-1	11/5	GL-0.5mまで現代盛土。	14S365	RH 294	24-2
上京遺跡	上・元誓願寺通智恵光院下る元中之町～今出川通智恵光院西入西北小路町　地先	12/3	巡回時，工事終了。	14S441	RH 331	24-2
寺町旧域	上・今出川通寺町東入一真町68-2	5/19	巡回時，断面観察不可。	14S015	RH 051	21-1
寺町旧域	上・一真町87地先（河原町今出川バス停　東行西詰）	7/9	GL-0.7m以下，オリーブ褐色砂礫の地山。	14S153	RH 130	21-1
寺町旧域	上・寺町通今出川下る福町268	9/26	GL-0.6mまで現代盛土。	14S230	RH 246	21-1
公家町遺跡	上・京都御苑3	10/27・28	GL-0.3m，焼土を含む近世の包含層。-0.7m以下，近世の洪水層。	14S371	RH 281	21-1
大徳寺旧境内	北・紫野大徳寺町55	4/4・4/7	大徳寺の堀えの溝を検出。本報告47ページ。	13S674	RH 006	21-2
大徳寺旧境内	北・紫野大徳寺町35-9の一部，36-1の一部，61-10の一部	5/19	GL-0.3mまで現代盛土。	14S045	RH 053	21-2
大徳寺旧境内	北・紫野大徳寺町53	12/19・22	GL-0.5mでにぶい黄褐色砂泥(混礫)を検出。遺構，遺物は検出できず。	14S478	RH 363	21-2
御土居跡	北・鷹峯旧土居町1-190，1-201，1-218，1-220	8/4	GL-0.2mで明褐色粘土を検出。御土居の盛土の可能性。	14S170	RH 181	21-3
植物園北遺跡	北・上賀茂岡本町2-1の一部	8/1	GL-0.6mまで現代盛土。	14S181	RH 178	24-1
植物園北遺跡	北・上賀茂池殿町29-12，30	7/24～31，8/1	平安後期の土器溜を検出。本報告43ページ。	14S029	RH 156	24-1

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
植物園北遺跡	北・上賀茂向縄手町42	7/4	GL-0.3mまで現代耕作土。試掘調査済地点。	14S012	RH 124	24-1
植物園北遺跡	左・下鴨水口町38，38-1，55-2・3・4	5/29・30，6/2～6	GL-0.5mで黄褐色粘質土の地山を切って時期不明の土坑3。	13S426	RH 069	24-1
植物園北遺跡	左・下鴨前萩町5-1　地先（北山駅前バス停　西行）	12/8	GL-0.7mまで現代盛土。	14S431	RH 342	24-1
植物園北遺跡	左・松ヶ崎芝本町16-2，16-6	12/11	GL-0.3mで褐灰色砂泥の地山を切って時期不明の溝と土坑。	14S417	RH 349	24-1
植物園北遺跡	左・下鴨萩ヶ垣内町11	7/23～25	№1；GL-0.5m，古墳の包含層(土師器甕)。-0.6m以下，褐灰色砂泥の地山。 №3；GL-0.5m，時期不明のピット。-0.8m以下，褐灰色砂泥の地山。	14S144	RH 153	24-1
植物園北遺跡	左・下鴨北園町71-6，71-20	8/22・25	GL-0.7mで明黄褐色泥砂の地山を切って時期不明の溝状遺構。	14S203	RH 194	24-1
特別史跡・特別名勝鹿苑寺（金閣寺）庭園	北・金閣寺町1	6/12・13・25，7/4	GL-0.4m以下，明黄褐色砂泥の地山。	25N039	RH 091	24-2
平野神社隣接地	北・平野宮北町15	9/17	GL-0.1m，時期不明の包含層(土師器)。-0.3mで明黄褐色シルトの地山を切って時期不明の土坑，ピット，落込。	14A002	RH 230	24-2
北野遺跡	北・北野東紅梅町10	8/27	GL-1.1m以下，橙色砂泥の地山を切って時期不明のピット。	14S054	RH 202	24-2
北野廃寺，北野遺跡	北・北野紅梅町73-1	10/3	巡回時，工事終了。	14S259	RH 256	24-2
北野廃寺，北野遺跡	北・北野紅梅町73-3	10/7	GL-0.3m，中世の整地層(土師器，瓦器)。	14S268	RH 260	24-2
八幡古墳群	左・岩倉幡枝町　地先	10/27	巡回時，工事終了。	14S290	RH 280	26-4
栗栖野瓦窯跡	左・岩倉幡枝町2787-1	11/12	GL-0.2mで灰色粘質土を検出。遺構，遺物は検出できず。	14S368	RH 304	26-4
史跡賀茂御祖神社境内	左・下鴨泉川町59-1	12/9	GL-0.7mに下，にぶい黄橙色砂泥の地山。	26C044	RH 345	26-5
史跡賀茂御祖神社境内	左・下鴨泉川町59	12/3・5，12/9	GL-0.2mでにぶい黄色泥砂を検出。遺構，遺物は検出できず。	26N041	RH 335	26-5

北白川地区(KS)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
上終町遺跡	左・北白川西瀬ノ内町21	10/15	BM+0.4m，時期不明の包含層(土師器皿，須恵器杯)。調査地は東側道路より地表面が約0.8m高くなっている。	14S250	KS 269	17
北白川廃寺，上終町遺跡	左・北白川大堂町2-2	12/4・5	GL-0.7mで層黒褐色砂泥を検出。遺構，遺物は検出できず。	14S411	KS 338	17
池田町古墳群	左・北白川下池田町108の一部	4/21	GL-0.4m以下，黄橙色粗砂の地山。	13S714	KS 026	17
北白川追分町遺跡	左・田中東樋ノ口町56，56-2	7/1～28	GL-0.5m以下，にぶい黄橙色微砂の地山。	13S693	KS 118	17
北白川追分町遺跡	左・田中西柳ノ口町～田中門前町　地内	10/14～12/22	GL-0.2m，時期不明の包含層(弥生土器甕，土師器)。	14S285	KS 267	17
北白川追分町縄文遺跡，吉田上大路町遺跡，北白川追分町遺跡，追分町古墳群	左・吉田本町他　地内	9/29・30，10/6・7・9・14	GL-1.4mまで現代攪乱。	14S101	KS 250	17
北白川追分町遺跡，吉田上大路町遺跡	左・北白川追分町　地先（京大農学部前バス停　東行）	11/14	GL-0.9m，時期不明の包含層。	14S343	KS 307	17
吉田本町遺跡，吉田上大路町遺跡	左・吉田本町36-1　地先（京大農学部前バス停　西行）	11/12	GL-0.9mまで現代盛土。	14S344	KS 305	17
吉田二本松町遺跡，吉田上大路町遺跡，白河街区跡	左・吉田近衛町　地内	5/12～10/22	GL-2.1m以下，にぶい黄褐色泥砂の地山。	13S704	KS 039	17

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
吉田泉殿町遺跡	左・吉田牛ノ宮町6、6-4他	8/8・11～13	GL-0.8m、近世以降の包含層。-1.1mで時期不明の包含層を切って時期不明の土坑。-1.4m以下、暗褐色砂礫の地山。	14S223	KS 185	17
白河街区跡、聖護院川原町遺跡	左・聖護院川原町地内	4/21	巡回時、掘削終了。	12S484	KS 032	17
白河街区跡	左・岡崎東福ノ川町19-3、19-8	11/5	GL-0.5mまで現代盛土。	14S357	KS 293	17
白河街区跡	左・聖護院山王町25-15	5/21・22	GL-0.5mまで現代盛土。	13S452	KS 054	17
白河南殿跡、白河街区跡	左・石原町279-3	4/21～6/6	GL-0.3mまで現代盛土。	13S718	KS 027	17
白河南殿跡、白河街区跡	左・石原町279-6	4/21・23	GL-0.4mまで現代盛土。	13S720	KS 029	17
白河南殿跡、白河街区跡	左・石原町279-3、279-6	4/21・5/19	GL-0.3mまで現代盛土。	13S719	KS 028	17
尊勝寺跡、白河街区跡、岡崎遺跡	左・聖護院円頓美町46-2（武道センター）	7/17・23・29、8/1	GL-0.2mまで現代盛土。	14R168	KS 143	17
尊勝寺跡、白河街区跡	左・岡崎西天王町	6/24,7/3・8・14	平安後期～鎌倉の雨落溝を2条検出。本報告57ページ。	14R117	KS 111	17
名勝平安神宮神苑、尊勝寺跡、白河街区跡	左・岡崎西天王町97-2	7/9・22・25	上記調査の北側を調査。雨落溝の延長は検出できず。	26C015	KS 131	17
延勝寺跡、白河街区跡、岡崎遺跡	左・仁王門通新高倉東入北門前町478-5	9/12	GL-0.4mまで現代盛土。	14R242	KS 224	17
法勝寺跡、白河街区跡、岡崎遺跡	左・岡崎天王町49-2、49-3	7/11	GL-0.4mまで現代盛土。	14R136	KS 132	17
法勝寺跡、白河街区跡、岡崎遺跡	左・岡崎南御所町43-8	12/1	GL-0.4mまで現代盛土。	14R391	KS 330	17
法勝寺跡、白河街区跡、岡崎遺跡	左・岡崎南御所町15の一部、16、17、18-2の一部、15-1の一部	4/9	GL-0.5mまで現代盛土。試掘調査済地点。	13R626	KS 015	17
法勝寺跡、白河街区跡、岡崎遺跡	左・岡崎法勝寺町	6/13～20、7/2～16	GL-1.3mまで現代盛土。	12R010	KS 093	17
白河街区跡、岡崎遺跡	左・岡崎西天王町80他4筆	6/6～20	平安末期～鎌倉の東西溝を検出。本報告52ページ。	14S001	KS 082	17
白河街区跡、岡崎遺跡、東光寺跡	左・天王町27、51-3、51-5の一部	12/16～24	GL-1.4mまで現代盛土。試掘調査済地点。	14S165	KS 356	17
如意寺跡	左・鹿ヶ谷不動山町（不動山国有林）	7/30	如意寺西端丘陵斜面。台風18号で崩落した斜面で遺構、遺物は検出できず。	14S017	KS 174	26-7
法成寺跡、公家町遺跡	上・京都御苑3	6/13・16・20・23・24・27、7/2・4・7・9	№2：GL-0.9m、江戸の包含層(金属製品煙管)。№3：GL-1.1m、近世以降の包含層、-1.3m、江戸の包含層(土師器、施釉陶器、平瓦)。№4：GL-0.5m・-0.8cm・-0.9m、時期不明の路面3層。-1.0m以下、黄褐色砂礫の地山。	13S467	KS 094	26-8
寺町旧域、御土居跡	上・丸太町通河原町西入高島町335他	11/18	GL-0.3mまで現代盛土。	14S389	KS 309	26-8

洛東地区(RT)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
御土居跡	中・河原町通三条下る二丁目山崎町237-6	6/20・23	GL-1.5mまで現代盛土。	14S081	RT 107	18
将軍塚古墳群	東・梨田口梨田山南町1，山・厨子奥花鳥町２８	8/1	GL-0.2mまで現代盛土。	14S205	RT 177	18
六波羅政庁跡，六波羅蜜寺境内	東・松原通大和大路東入二丁目轆轤町81-1，84-1，82-2，129，六波羅南通東入三盛町164，176	4/9	GL-0.3mまで現代盛土。	13S668	RT 016	18
六波羅政庁跡	東・新宮川筋五条上る二丁目山田町500-2	9/1～3	GL-0.7m，近世の包含層。	14S082	RT 208	18
六波羅政庁跡	東・大和大路通五条上る山崎町360他	8/12～25	GL-2.8mまで現代盛土。	13S358	RT 189	18
法住寺殿跡，六波羅政庁跡	東・大和大路通正面下る茶屋町526-1	11/25～12/4	GL-0.5mで淡黄色シルトの地山を切って鎌倉と中世の落込(土師器皿，丸瓦２基。	14S413	RT 317	18
法住寺殿跡	東・大和大路通七条下る三丁目上池田町545の一部	7/11・14	GL-0.3mまで現代盛土。	14S085	RT 133	18
法住寺殿跡	東・本町十丁目145-1，145-2，一橋野本町8	9/22～12/15	GL-2.2mで黒褐色砂質土を検出。遺構，遺物は検出できず。	14S247	RT 237	18
鳥戸野古墳群，鳥部（辺）野，南日吉町遺跡	東・今熊野泉山町4	10/9・14・28・31	GL-0.1m以下，灰色粘質土の地山。	14S157	RT 264	18
中臣遺跡，中臣十三塚	山・西野山中臣町44-31	4/21，5/15，7/10	GL-0.5mで明黄褐色シルトの地山を切って時期不明の土坑。試掘調査済地点。	13N194	RT 031	25-2
中臣遺跡	山・西野山中臣町26-66	6/24，7/10	GL-0.6m以下，明黄褐色砂礫の地山。	14N062	RT 112	25-2
中臣遺跡	山・栗栖野草ノ木町14-2，14-3，14-4	9/8	GL-0.1mで黒褐色泥土を検出。-0.33m以下，黄褐色泥土の地山。	14N229	RT 216	25-2
中臣遺跡	山・栗栖野打越町40-3	7/18・23	GL-0.9mまで現代盛土。	14N146	RT 146	25-2
中臣遺跡	山・勧修寺東栗栖野町～掏辻番所ヶ口町　地先	9/10～12・16～18・22・26・30，10/1・9・15	№２：GL-0.2m，時期不明の土坑２基。-0.3m以下，に ぶい黄褐色砂礫の地山。№４：GL-0.4mでにぶい黄色シルトの地山を切って時期不明の落込。№５：GL-0.2mで灰黄褐色砂礫の地山を切って時期不明の落込。	14N296	RT 221	25-2
中臣遺跡	山・勧修寺西栗栖野町173及び174	11/12	GL-0.5mまで現代盛土。	14N323	RT 306	25-2
中臣遺跡	山・勧修寺西金ケ崎406-2	4/7	GL-0.4mまで現代盛土。	13N503	RT 013	25-2
中臣遺跡	山・勧修寺東金ケ崎町46の一部	10/1	GL-0.6mまで現代盛土。	14N118	RT 254	25-2
勧修寺旧境内	山・勧修寺本堂山町3-5の一部	12/1	GL-0.3mまで現代盛土。	14S435	RT 329	25-2
鳥部（辺）野，法性寺跡	東・今熊野本多山町1，1-1～10，2，3，今熊野南谷町16-21	12/1・3	GL-0.4m以下，浅黄色の岩盤。	14S308	RT 328	27-2
西野山古墳	山・西野山宮ヶ町10-65	11/20	GL-0.6mまで現代盛土。	14S346	RT 313	27-3
山科本願寺南殿跡	山・音羽伊勢宿町32-34（A号地）	12/15	GL-0.3mまで現代盛土。試掘調査済地点。	14S463	RT 354	27-4
山科本願寺南殿跡	山・音羽伊勢宿町26-12，26-13	5/19	GL-0.2mまで現代盛土。	14S024	RT 052	27-4
大塚遺跡	山・小山北溝町28，29-1，30-1，31-1，32-1	7/7・8・10・14～17・24・29	№１：GL-0.5m以下，黄褐色泥砂の地山。№８：GL-0.8mで黒褐色シルトの地山を切って時期不明の土坑(土師器）。	13S519	RT 120	27-4
史跡随心院境内	山・小野御霊町49，49-3	10/27	GL-0.9m以下，褐色泥砂の地山。	26N017	RT 282	27-5

鳥羽地区(TB)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
下三栖遺跡，下三栖城跡	伏・横大路下三栖辻堂町33他	7/15	GL-0.3m，現代耕作土。	13S696	TB 140	14
鳥羽離宮跡	伏・竹田西浦ノ井町～醍醐田町 地内	6/13～26	GL-1.1m，赤灰色粘質土の湿地状堆積。	13T697	TB 092	19
鳥羽離宮跡	伏・竹田真幡木町53の一部，54	9/2・3	GL-1.2mまで現代盛土。試掘調査済地点。	14T224	TB 209	19
鳥羽離宮跡	伏・竹田中内畑町112	10/24～11/5	GL-0.6mまで現代盛土。	14T317	TB 277	19
鳥羽離宮跡	伏・竹田浄菩提院町87	11/19	GL-0.9mまで現代盛土。	14T324	TB 311	19
鳥羽離宮跡，鳥羽遺跡	伏・中島御所ノ内町 地先	9/24・25	GL-0.7m，緑灰色微砂の水成堆積。	14T238	TB 242	19
久我神社	伏・久我森ノ宮町8-129	7/23・12/11	GL-0.6mまで現代盛土。	14S124	TB 154	20
唐橋遺跡	南・唐橋堂ノ前町22-1，22-6，22，23-1	6/16～19・23	№2：GL-0.5mで灰黄褐色泥砂の地山を切って古墳～平安の土坑(土師器，須恵器)。この土坑に切られる形で平安の土坑(土師器皿，須恵器瓶子)2。№3：GL-0.4m，平安の包含層(土師器甕，須恵器杯)。-0.5m以下，灰黄褐色微砂の地山。№4：GL-0.3m，時期不明の包含層(土師器)。-0.5m以下，灰オリーブ色粗砂の地山。	13S527	TB 098	27-6
深草遺跡	伏・深草鴨森町21-2	4/1・2	GL-1.8mまで現代盛土。	13S695	TB 002	27-7
深草遺跡	伏・深草西浦町4丁目85-2	5/12～14	GL-0.6mで灰色砂質土を検出。遺構，遺物は検出できず。	14S047	TB 040	27-7
木津川河床遺跡	伏・淀美豆町414-1他	8/21～11/27	GL-0.4m以下，黄褐色シルトの地山。	13S716	TB 197	27-8

伏見・醍醐地区(FD)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
伏見城跡，板橋廃寺	伏・御駕籠町 地先	11/7～27	№1：GL-0.8m，中世の包含層(土師器皿)。№2：GL-0.4m以下，時期不明の路面。	14F376	FD 299	14
伏見城跡	伏・桃山福島太夫西町～桃山福島太夫南町	4/15～30，5/1～30，6/3～30，7/1～10	№1：GL-0.6m以下，橙色泥砂の地山。№3：GL-0.4m，近世以降の土坑(軒平瓦，丸・平瓦)。№9：GL-0.7m，時期不明の土坑。№13：GL-0.4m，時期不明の落込。	13F305	FD 023	14
伏見城跡	伏・桃山羽柴長吉東町69	7/11・14	GL-1.1m以下，赤褐色粘質土の地山。	14F007	FD 134	14
伏見城跡	伏・鷹匠町 地内	4/4	GL-1.5m以下，にぶい黄褐色砂礫の地山。	13F371	FD 007	14
伏見城跡	伏・瀬戸物町738	8/19～22	GL-0.5m，近世の包含層。	14F208	FD 192	14
伏見城跡	伏・桃山町松平筑前10-2他	8/6・7・8・11	№1：GL-0.7m，時期不明の包含層(土師器)。№2：GL-1.1m以下，明黄褐色砂礫～シルトの地山。№3：GL-1.0m，時期不明の包含層(土師器)。GL-1.5m以下，明黄褐色シルトの地山。	14F173	FD 184	14
伏見城跡	伏・桃山町鍋島1-30	4/10	GL-0.7mで桃山の整地層を切って近世後半以降の土坑(軒桟瓦)。-0.8mで黄色砂礫の地山を切って時期不明の土坑。	13F682	FD 004	14
伏見城跡	伏・村上町370-1の一部	10/10・14	GL-0.8m，にぶい黄橙色粗砂の氾濫堆積層。-0.9mで幅0.5mの石を暗褐色砂泥で覆っている状況を確認。	14F313	FD 265	14
伏見城跡	伏・納屋町140	12/12	GL-0.7m，近世の包含層。	14F325	FD 350	14
伏見城跡	伏・南浜町 地内	6/2	GL-1.9mまで現代盛土。	14F026	FD 074	14
伏見城跡，桃陵遺跡	伏・桃陵町1-1	7/28～8/14 12/12	GL-1.2m，近世の包含層(平瓦)。-1.3m以下，浅黄色粗砂の地山。	13F442	FD 167	14
伏見城跡	伏・深草大亀谷金森出雲町15の一部，15-5の一部，15-6	11/1・10	GL-1.2m，近世と考えられる整地層。	14F295	FD 298	15
伏見城跡	伏・桃山町大蔵45他	9/9～12/18	桃山の畑掘地業と掘込地業を検出。本報告60ページ。	14F111	FD 219	15
伏見城跡	伏・桃山町遠山68-1	11/26・27，12/1・4・5	GL-1.2m，時期不明の落込。-1.4m，礫を多量に含む時期不明の落込。	13F665	FD 321	15
伏見城跡	伏・桃山町松平武蔵14-1	4/4・7	GL-0.3m，近世の整地層。-0.5mで灰白色極細砂の地山を切って近世の土坑(丸・平瓦)。	13F557	FD 009	15

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
向島城跡	伏・向島二ノ丸町116-9	5/22	GL-0.3mまで現代盛土。	13S722	FD 056	14-15
向島城跡	伏・向島二ノ丸町30-9，10，54，56	7/18	GL-0.4mまで現代盛土。	14S115	FD 148	28-3
史跡醍醐寺境内	伏・醍醐下端山町44の一部，44-1の一部	10/6	GL-0.5mまで現代盛土。	26N009	FD 258	25-3
史跡醍醐寺境内	伏・醍醐伽藍町21-1	4/1・2	GL-0.5mまで現代盛土。	25N048	FD 003	25-3
深草寺跡	伏・深草西伊達町88-18の一部，88-25の一部	8/4	GL-0.3mまで現代盛土。	14S145	FD 182	28-2

長岡京地区(NG)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
左京北辺二坊十町跡	南・久世殿城町283-1，285	11/4・10	GL-0.9m以下，にぶい黄色粘土の地山。	14NG103	NG 290	23-2
左京北辺四坊十四町跡	南・久世築山町377-3	10/31	GL-0.7m，耕作土。	14NG319	NG 288	23-2
左京一条四坊一町跡	南・久世大藪町284	12/18	GL-0.5mまで現代盛土。	14NG131	NG 362	23-2
左京一条四坊六町跡	南・久世東土川町297	8/18～27，9/1	GL-0.8m，時期不明の氾濫堆積。-1.3m，時期不明の耕土。-1.6m，弥生の湿地状堆積(弥生土器溜)。	14NG021	NG 190	20
左京二条四坊三・四町跡，東土川遺跡	伏・久我西出町2-13	9/9	GL-1.0mまで現代盛土。	14NG192	NG 220	20
左京二条四坊五・六町跡	伏・久我西出町2-1	4/4	GL-0.3m，旧耕作土。	13NG545	NG 008	20
左京三条三坊十四町・十五町跡	伏・久我西出町10-2	7/24	GL-1.2mまで現代盛土。	14NG215	NG 155	20
左京三条四坊十二町跡	伏・久我西出町13-3，13-4	5/27～30	GL-0.5mでにぶい黄色シルトを検出。遺構，遺物は検出できず。	13NG628	NG 064	20
左京五条三坊十町跡	伏・羽束師菱川町351-1，古川町273	7/3・4・7・10・14	GL-0.8m，耕作土。	13NG622	NG 121	20
左京五条三坊十六町跡	伏・羽束師菱川町284	4/10	GL-0.6m，時期不明の南北溝。-0.4m以下，灰色砂泥の地山。溝は推定東三坊坊間東小路東側溝に位置する。	13NG470	NG 019	20
左京五条三坊十六町跡	伏・羽束師菱川町287-1，288-1	12/22	GL-0.3mまで現代盛土。	14NG479	NG 366	20
左京五条四坊十二・十三町跡	伏・羽束師古川町　地先	11/18・20・27・28	GL-0.5m以下，時期不明の氾濫堆積と湿地堆積。	14NG412	NG 310	20
左京五条四坊十五町跡	伏・羽束師志水町206-9	6/9	GL-0.2m，耕作土。	14NG083	NG 087	20
左京八条四坊四町，九条四坊一町跡	伏・納所星柳他　地内	5/15・19	GL-0.2mまで現代盛土。	13NG332	NG 046	28-5
左京八条四坊六町跡	伏・納所中河原15，16-7，16-1の一部，16-4の一部	11/7・18・20	GL-0.5mまで現代盛土。	14NG362	NG 300	28-5
左京八条四坊十一町跡	伏・納所和泉屋13-5，16-6	11/4・7	GL-0.9mで緑灰色粘質土を検出。遺構，遺物は検出できず。	14NG316	NG 291	28-5
左京九条三坊五町跡，淀城跡	伏・淀本町158-15	6/23	GL-0.5mまで現代盛土。	14NG120	NG 108	28-6
左京九条三坊十三町跡	伏・納所町173-1，173-3，173-2の一部	6/16	GL-0.5mまで現代盛土。	14NG073	NG 099	28-6

南桂川地区(MK)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
福西古墳群	西・大枝中山町7-192	12/8	巡回時，工事終了。	14S432	MK344	22-1
福西古墳群	西・大枝北福西町1-1	9/8・9	GL-1.9mまで現代盛土。	14S263	MK217	22-1
大原野松木遺跡，上里北ノ町遺跡	西・府道楠原向日線，灰方交差点～大原野上里南ノ町地内	5/13～5/30 6/3～6/30 7/4・9・14 8/18・21・ 8/25・9/1 9/19・22・ 24	№14：GL-0.6mで橙色泥砂の地山を切って時期不明の土坑２。№27：GL-0.3mで明黄褐色微砂～礫の地山を切って時期不明の土坑。№30：GL-0.4mでにぶい赤褐色シルトの地山を切って時期不明の落込，柱穴とピット。	13S675	MK045	22-1
南荒木古墳	西・御陵南荒木町2-55	10/27	GL-0.5mまで現代盛土。	14S351	MK279	22-2
史跡樫原廃寺跡	西・樫原内垣外町　地先	7/3	GL-0.5mまで現代盛土。	26C016	MK122	22-3
中久世遺跡	南・久世中久世町四丁目85-3	10/29	巡回時，工事終了。	14S348	MK283	23-2
中久世遺跡	南・久世中久世町四丁目85-2	12/04	GL-0.3mまで現代盛土。	14S398	MK339	23-2
中久世遺跡	南・久世中久世町四丁目85-7	9/26	巡回時，工事終了。	14S273	MK247	23-2
中久世遺跡	南・久世中久世町四丁目85-6	9/18	巡回時，工事終了。	14S287	MK234	23-2
中久世遺跡	南・久世中久世町四丁目85-8	7/31	GL-0.1mまで現代盛土。	14S220	MK175	23-2
中久世遺跡	南・久世中久世町四丁目85-9	9/26	巡回時，工事終了。	14S293	MK248	23-2
中久世遺跡	南・久世中久世町四丁目85-21	9/29	巡回時，工事終了。	14S294	MK251	23-2
大藪遺跡，下久世構跡	南・久世殿城町524-3	11/25	GL-0.3m，室町の包含層(土師器皿・羽釜，須恵器)。	14S425	MK318	23-2
大藪遺跡	南・久世大藪町240-5	5/12～23	GL-0.2mまで現代盛土。	14S038	MK041	23-2
大藪遺跡	南・久世大藪町240-6	5/12～23	GL-0.2mまで現代盛土。	14S037	MK042	23-2
史跡・名勝嵐山	西・嵐山東海道町47-1	11/11	GL-2.1m，オリーブ褐色細砂の氾濫堆積。	26N029	MK303	28-7
史跡・名勝嵐山	西・嵐山風呂ノ橋町8-3	8/19	GL-0.3mまで現代盛土。	26C025	MK193	28-7
史跡・名勝嵐山，臨山谷ヶ辻子町遺跡	西・嵐山谷ヶ辻町38-6	4/17・18	GL-0.4m，室町の包含層(土師器皿，瓦器羽釜)。	25N077	MK025	28-7
革嶋館跡	西・川島玉頭町37-12　地先	7/18・8/8	GL-0.6mでにぶい黄褐色シルトを検出。遺構，遺物は検出できず。	14S052	MK147	28-8

京北地区(UK)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
中江古墳群	右・北中江町	11/4～21	GL-0.7mで灰褐色砂泥(礫混)を検出。遺構，遺物は検出できず。	14S090	UK 292	25-1

表３　遺物概要表

	Aランク点数	内訳	Bランク箱数	Cランク箱数	出土箱数
点数及び箱数	129点（４箱）	土師器91点，須恵器４点，緑釉陶器10点，灰釉陶器６点，白磁２点，青磁３点，瓦器４点，瓦６点，木製品３点	１箱	28箱	33箱

報 告 書 抄 録

ふ り が な	きょうとしないいせきしょうさいぶんぷちょうさほうこく
書　　名	京都市内遺跡詳細分布調査報告　平成26年度
副 書 名	
巻　　次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編 著 者 名	馬瀬智光・家原圭太・西森正晃・鈴木久史・奥井智子・新田和央・熊井亮介・熊谷舞子・赤松佳奈・吉本健吾
編 集 機 関	京都市文化市民局　文化芸術都市推進室　文化財保護課
所　在　地	〒604-8006　京都市中京区河原町通御池下る下丸屋町394番地　Y・J・Kビル2F
発 行 機 関	京都市文化市民局
所　在　地	〒604-8571　京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町488番地
発行年月日	西暦2015年3月31日

所収遺跡名	所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
平安京左京四条四坊八町跡・烏丸御池遺跡	京都市中京区 桐屋町61,-5,-1, 道祐町134	26100	1 464	35度00分30秒	135度45分47秒	2014/7/18～2014/8/20		宿舎
平安京左京六条二坊五町跡	京都市下京区 堀川通五条下る 柿本町580-13,-14	26100	1	34度59分41秒	135度45分08秒	2014/3/31～2014/4/3		共同住宅
平安京右京一条四坊九・十町跡・史跡名勝妙心寺庭園・史跡妙心寺塔頭々	京都市右京区 花園妙心寺町1	26100	1 A812 A806	35度01分21秒	135度43分11秒	2013/12/16～継続中		埋設管
平安京右京四条二坊十一町跡・壬生遺跡・御土居跡	京都市中京区 壬生淵田町7,8	26100	1 462 149	35度00分18秒	135度43分59秒	2013/11/29～2014/9/19		建物解体

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
平安京左京二条二坊二町跡・二条城北遺跡	都城跡 集落跡	平安時代	溝, 土坑	土師器, 青磁, 瓦など	
平安京左京四条四坊八町跡・烏丸御池遺跡	都城跡 集落跡	弥生～古墳時代 平安時代	路面(三条大路)	土師器, 瓦器, 瓦など	
平安京左京六条二坊五町跡	都城跡	平安時代	石列	土師器, 緑釉陶器, 木製品など	
平安京右京一条四坊九・十町跡・史跡名勝妙心寺庭園・史跡妙心寺塔頭々	都城跡 史跡名勝	平安時代		瓦	
平安京右京四条二坊十一町跡・壬生遺跡・御土居跡	都城跡 散布地 土墓跡	弥生～古墳時代 平安時代 安土桃山時代	土墓	土師器, 緑釉陶器, 瓦	

報 告 書 抄 録

ふりがな	きょうとしないいせきしょうさいぶんぷちょうさほうこく
書名	京都市内遺跡詳細分布調査報告　平成26年度
副書名	
巻次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	馬瀬智光・家原圭太・西森正晃・鈴木久史・奥井智子・新田和央・熊井亮介・熊谷舞子・赤松佳奈・吉本健吾
編集機関	京都市文化市民局　文化芸術都市推進室　文化財保護課
所在地	〒604-8006　京都市中京区河原町通御池下る下丸屋町394番地　Y・J・Kビル2F
発行機関	京都市文化市民局
所在地	〒604-8571　京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町488番地
発行年月日	西暦2015年3月31日

所収遺跡名	所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
平安京右京六条一坊五町跡	京都市下京区朱雀分木町1	26100	1	34度59分38秒	135度44分26秒	2014/7/28～2014/8/28		埋設管
平安京右京六条三坊四町跡・西京極遺跡	京都市右京区西院六反田町53	26100	1 931	34度59分44秒	135度43分28秒	2014/1/8～2014/1/14		工場
平安京右京六条四坊八町跡・西京極遺跡	京都市右京区西院月双町88-2-14	26100	1 931	34度59分52秒	135度43分17秒	2014/7/25～2014/7/28		店舗
平安京右京七条二坊十五町跡	京都市下京区西七条掛越町26-1	26100	1	34度59分33秒	135度43分53秒	2014/5/12～2014/5/16		店舗
植物園北遺跡	京都市北区上賀茂池殿町	26100	146	35度03分24秒	135度45分13秒	2014/7/24～2014/8/1		保育所

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
平安京右京六条一坊五町跡	都城跡	平安時代	六条大路北側溝	須恵器, 輸入陶磁器など	
平安京右京六条三坊四町跡・西京極遺跡	都城跡 集落跡	弥生～奈良時代 平安時代	竪穴建物(古墳時代)	土師器	
平安京右京六条四坊八町跡・西京極遺跡	都城跡 集落跡	弥生～奈良時代 平安時代	竪穴建物	土師器, 須恵器	
平安京右京七条二坊十五町跡	都城跡	平安時代	掘立柱建物, 井戸など	土師器, 緑釉陶器, 輸入磁器	
植物園北遺跡	集落跡	弥生～古墳時代 平安時代	土坑	土師器	

報 告 書 抄 録

ふ り が な	きょうとしないいせきしょうさいぶんぷちょうさほうこく
書　　名	京都市内遺跡詳細分布調査報告　平成26年度
副 書 名	
巻　　次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編 著 者 名	馬瀬智光・家原圭太・西森正晃・鈴木久史・奥井智子・新田和央・熊井亮介・熊谷舞子・赤松佳奈・吉本健吾
編 集 機 関	京都市文化市民局　文化芸術都市推進室　文化財保護課
所　在　地	〒604-8006　京都市中京区河原町通御池下る下丸屋町394番地　Y・J・Kビル2F
発 行 機 関	京都市文化市民局
所　在　地	〒604-8571　京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町488番地
発行年月日	西暦2015年3月31日

所収遺跡名	所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
大徳寺旧境内	京都市北区 紫野大徳寺町55	26100	167	35度 02分 43秒	135度 44分 45秒	2014/4/4～ 2014/4/7		書院
上京遺跡	京都市上京区 小川通今出川下る 西入東今町374他	26100	224	35度 01分 46秒	135度 45分 13秒	2014/6/3～ 2014/6/11		共同住宅
白河街区跡・ 岡崎遺跡	京都市左京区 岡崎西天王町80 他4筆	26100	417 418	35度 01分 01秒	135度 47分 02秒	2014/6/6～ 2014/6/19		収蔵庫
尊勝寺跡・ 岡崎遺跡	京都市左京区 岡崎西天王町	26100	417-02 418	35度 00分 54秒	135度 46分 53秒	2014/6/24～ 2014/7/14		埋設管
伏見城跡	京都市伏見区 桃山町大蔵45他	26100	1172	34度 56分 24秒	135度 46分 24秒	2013/9/9～ 2014/12/18		観覧場 事務所

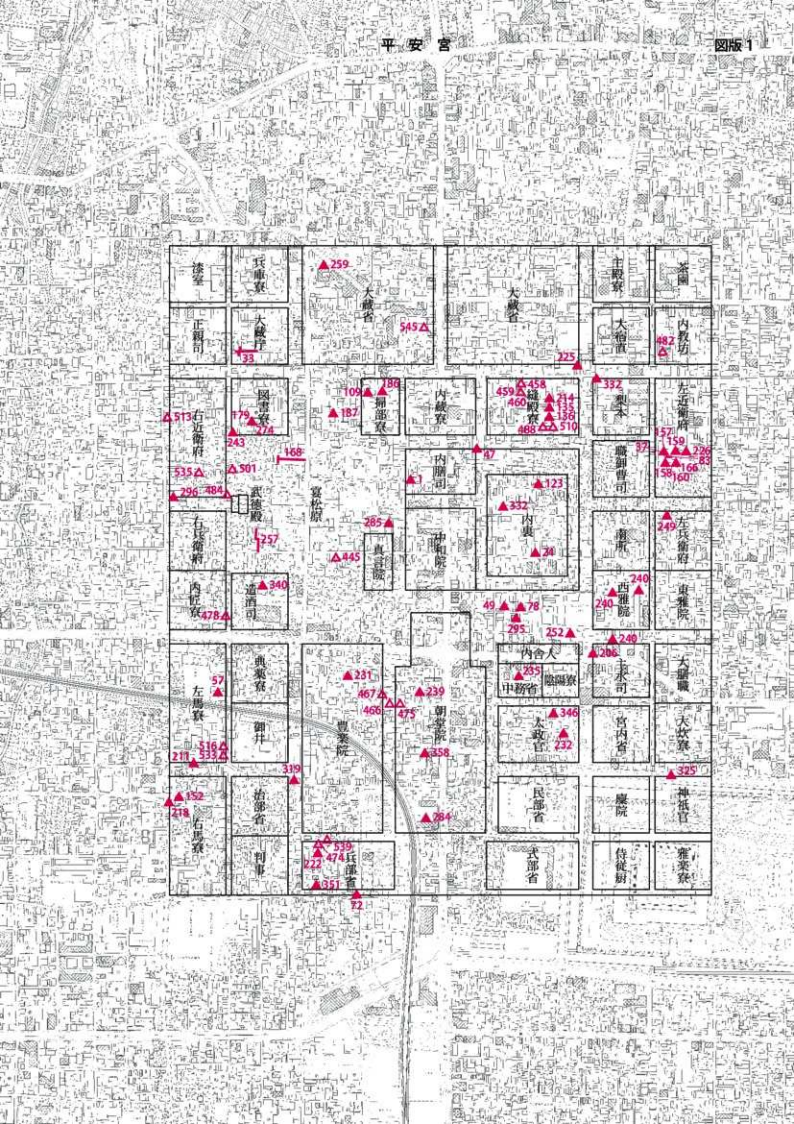
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
大徳寺旧境内	寺院跡	鎌倉～江戸時代	濠		
上京遺跡	都城跡	中世	柱穴	瓦器など	
白河街区跡・ 岡崎遺跡	寺院跡 集落跡	弥生～古墳時代 平安時代	溝	土師器, 瓦など	
尊勝寺跡・ 岡崎遺跡	寺院跡 集落跡	平安時代	雨落溝	瓦	
伏見城跡	城跡	安土桃山時代	掘込地業		

図　　版

凡　例

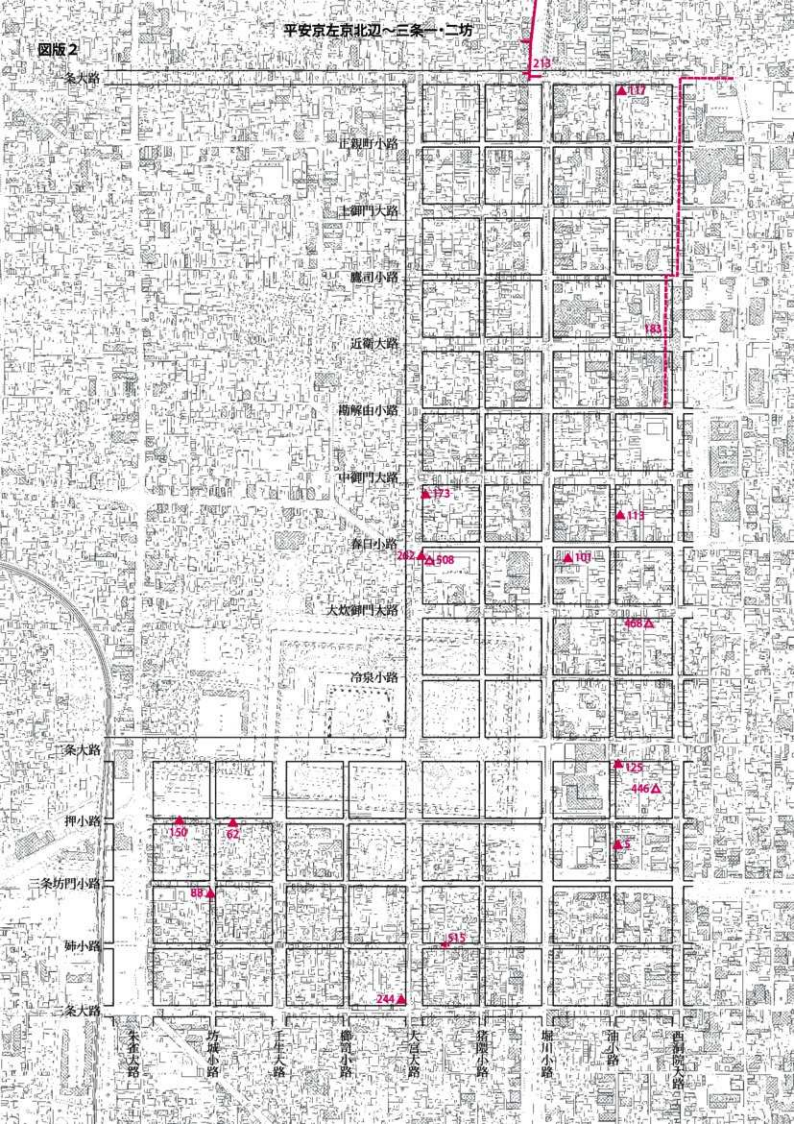
△ ------- 2014年１～３月期(平成25年度)詳細分布調査地点

▲ ——— 2014年４～12月期(平成26年度)詳細分布調査地点


漆室
兵庫寮
大蔵省
大蔵寺
正親司
大蔵寺
図書寮
内蔵寮
内膳司
内裏
内侍所
内合人
中務省
陰陽寮
左近衛府
右近衛府
武徳殿
寒松原
真言院
左兵衛府
右兵衛府
内匠寮
造酒司
典薬寮
左馬寮
右馬寮
御井
治部省
刑部省
兵部省
豊楽院
朝堂院
太政官
民部省
式部省
内教坊
大膳職
宮内省
大炊寮
神祇官
侍従所
雅楽寮
左馬寮
右馬寮

図版 2

平安京左京北辺～三条一・二坊



図版3

平安京左京北辺～三条三・四坊

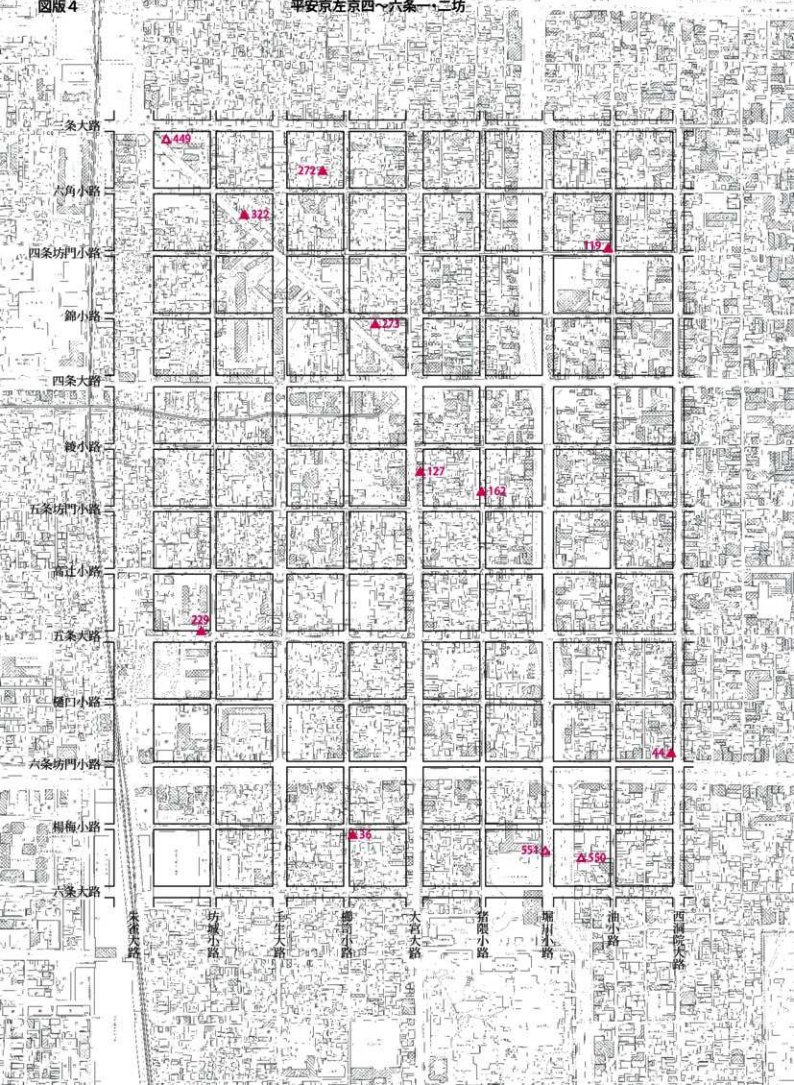
一条大路
正親町小路
土御門大路
鷹司小路
近衛大路
勘解由小路
中御門大路
春日小路
大炊御門大路
冷泉小路
二条大路
押小路
三条坊門小路
姉小路
三条大路

西洞院大路
町尻小路
室町小路
烏丸小路
東洞院大路
油倉小路
万里小路
富小路
東京極大路

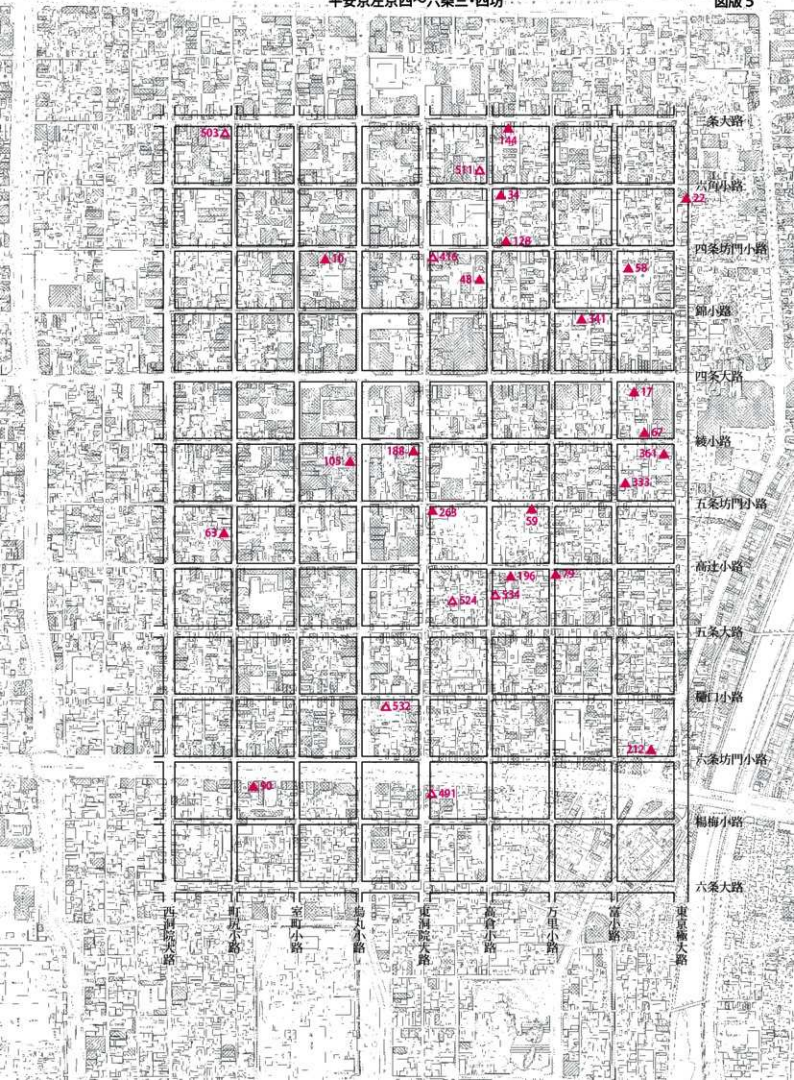
133
517
20
517
517
344
451
347
235
163
21
500
360
100
73
463
315
537
528
50

図版4

平安京左京四～六条一・二坊

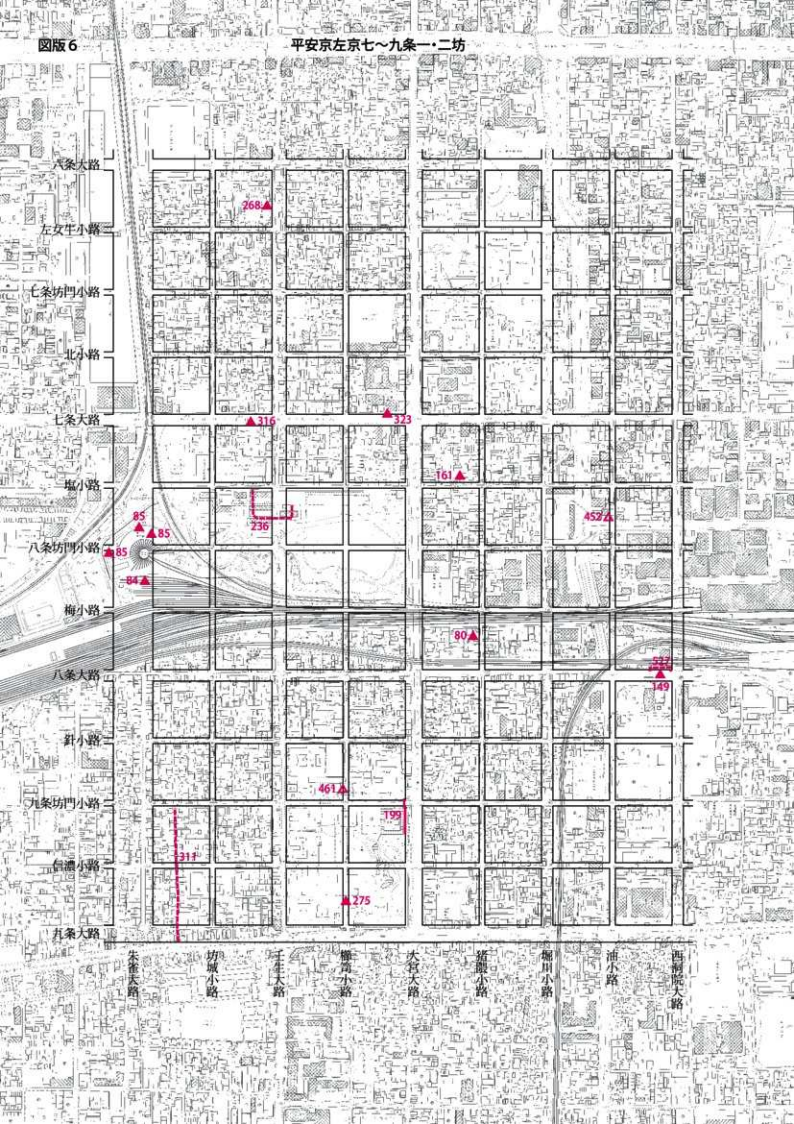


平安京左京四～六条三・四坊

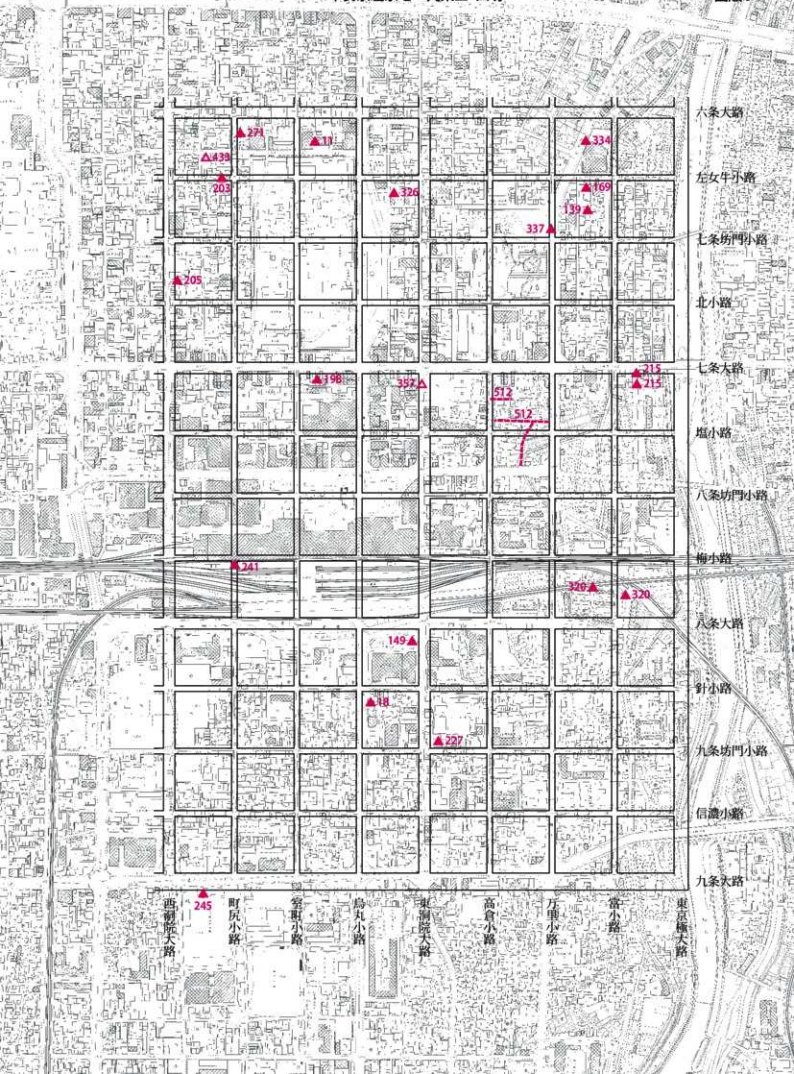


図版6

平安京左京七～九条一・二坊

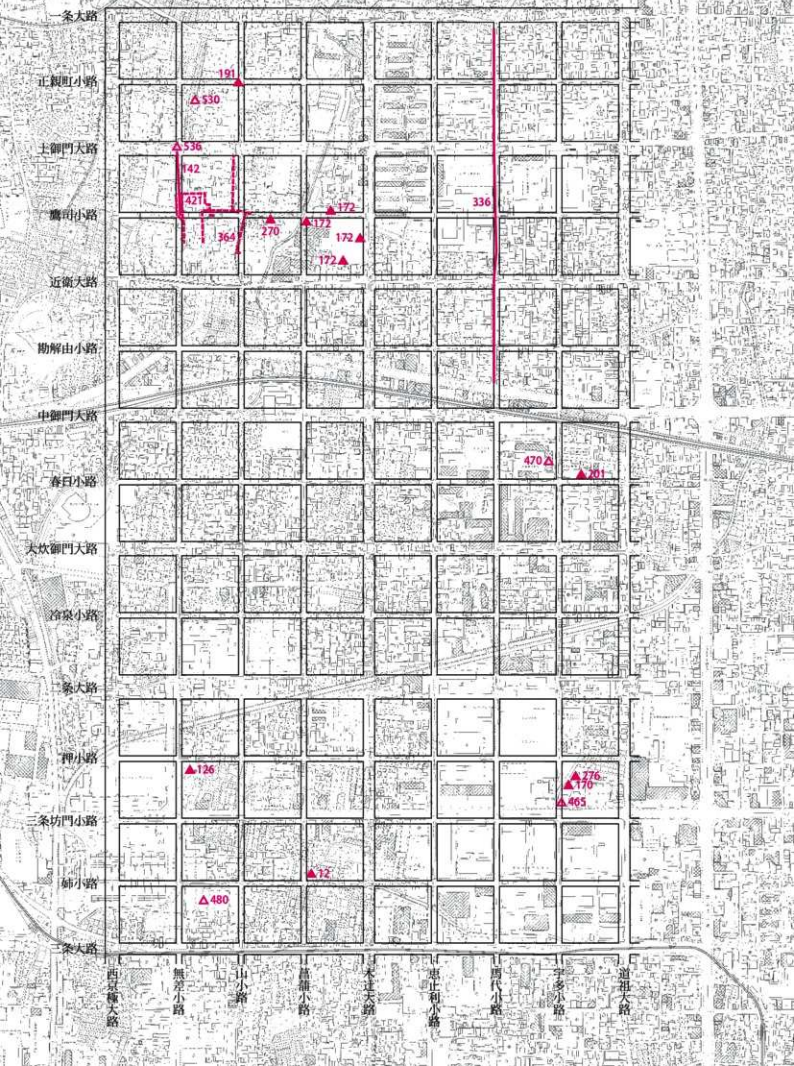


平安京左京七～九条三・四坊



図版 8

平安京右京北辺～三条三・四坊



平安京右京北辺～三条一・二坊

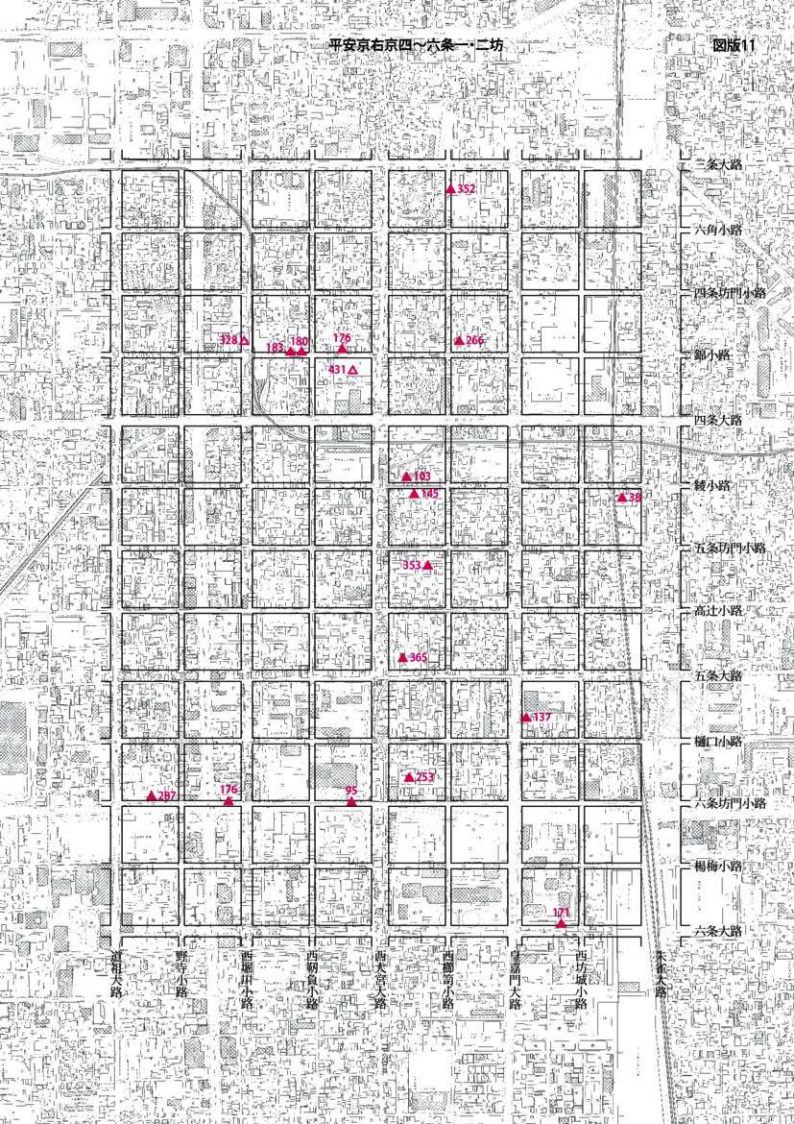
図版10

平安京右京四～六条三・四坊

三条大路
六角小路
四条坊門小路
錦小路
四条大路
綾小路
五条坊門小路
高辻小路
五条大路
樋口小路
六条坊門小路
楊梅小路
六条大路
西京極大路
油小路
猪熊小路
山小路
堀川小路
木辻大路
東洞院小路
烏丸小路
室町小路
西洞院大路

76
485
223
359
526
68
14
114
210
486
164
71
450
255
364
544
368

平安京右京四～六条一・二坊

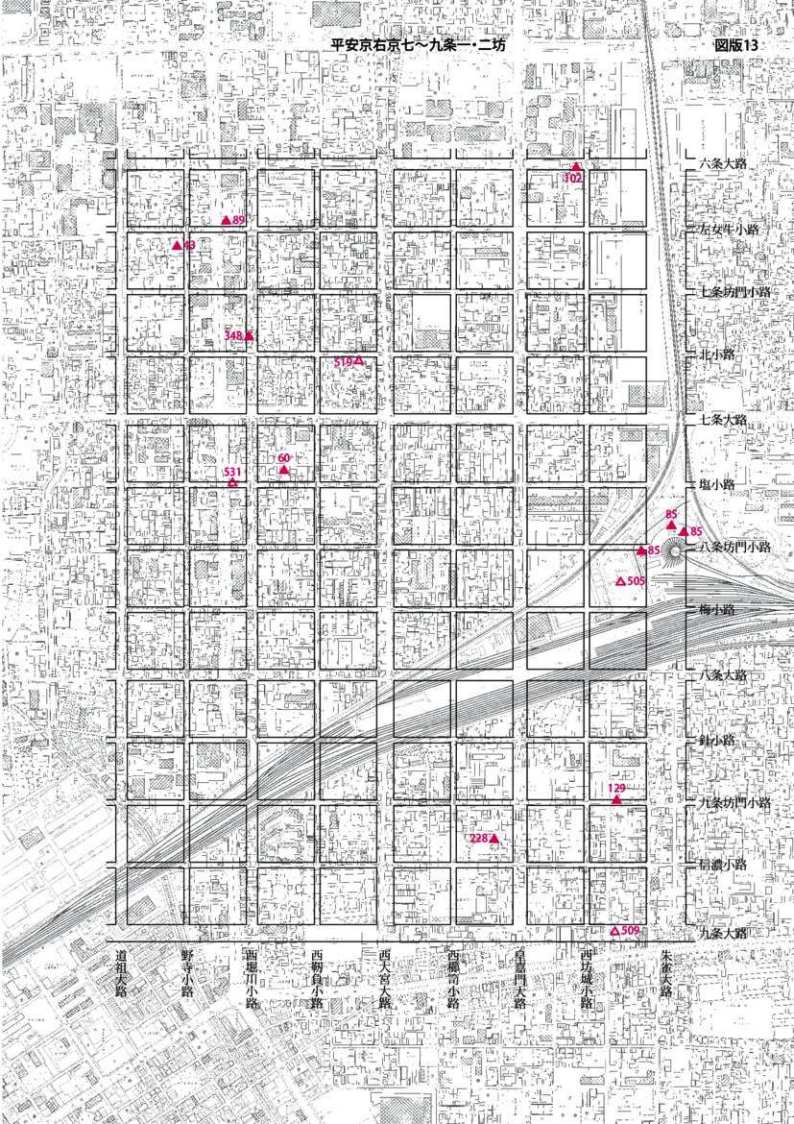


図版12

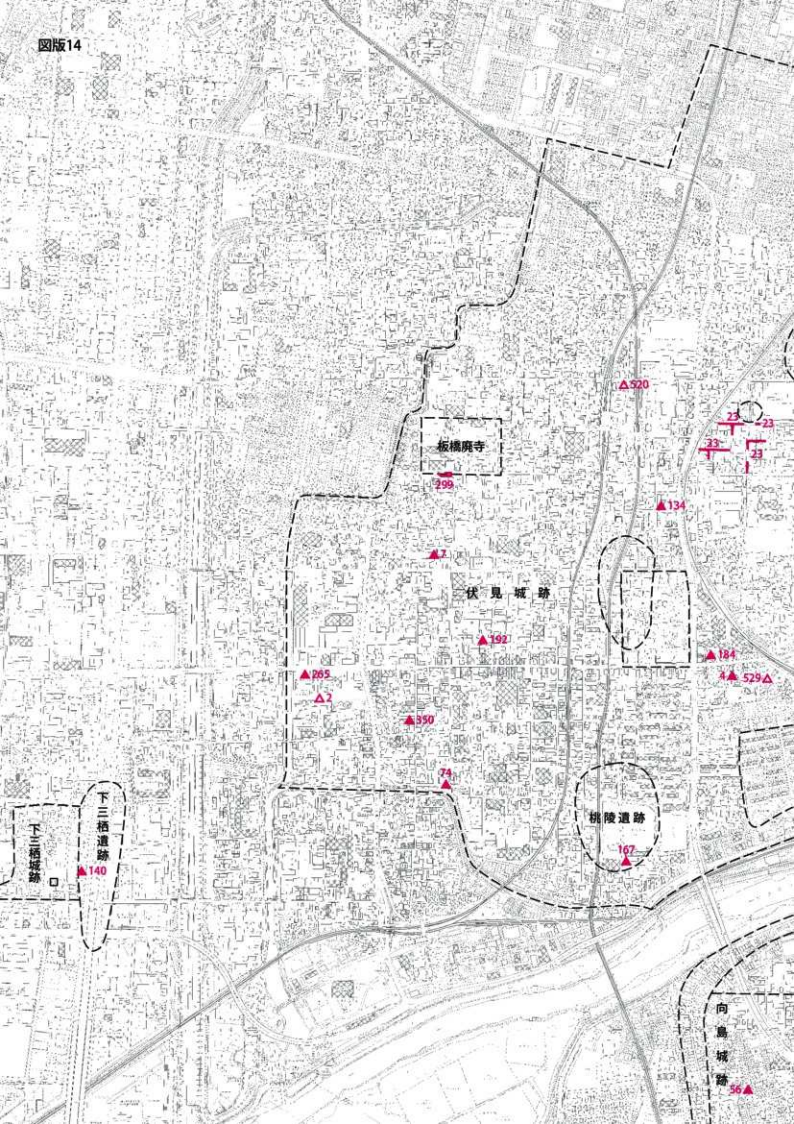
平安京右京七～九条三・四坊

平安京右京七～九条一・二坊

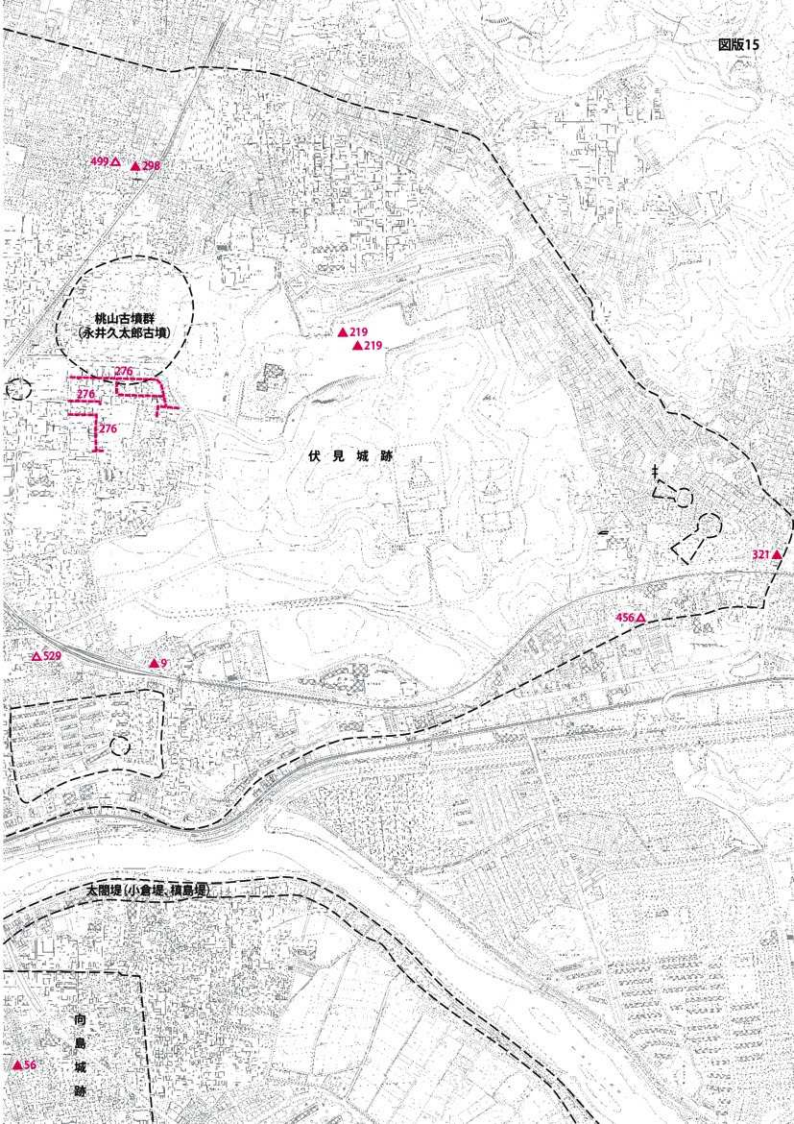
図版13



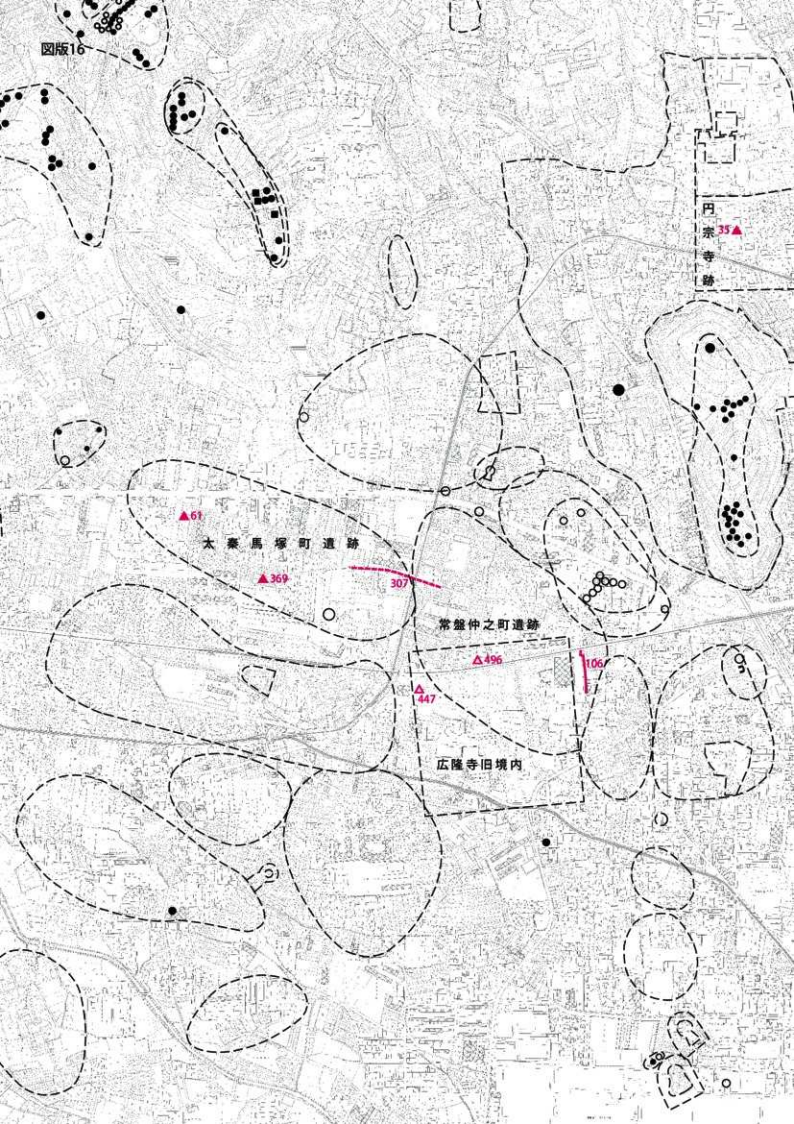
図版14


板橋廃寺
299
伏見城跡
7
192
265
2
350
74
920
23
23
23
23
134
184
529
桃陵遺跡
167
下三栖遺跡
140
下三栖城跡
向島城跡
56

図版15


499△
▲298
桃山古墳群
(永井久太郎古墳)
▲219
▲219
276
276
276
伏見城跡
321▲
456△
△529
▲9
太閤堤(小倉堤、積島堤)
向島城跡
▲56

図版16



図版17

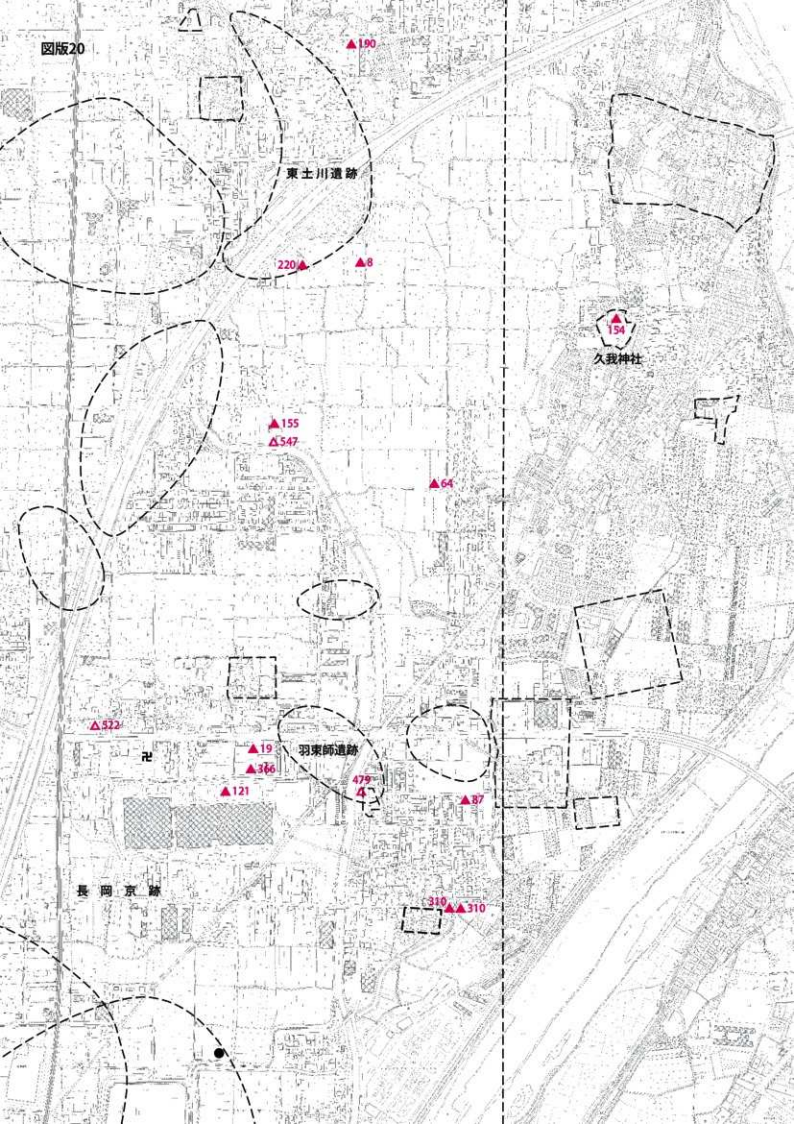
上終町遺跡
269
北白川廃寺
338
118
北白川追分町遺跡
267
追田町古墳群
26
北白川追分町縄文遺跡
39
250
403
307
305
190
254
追分町古墳群
吉田泉殿町遺跡
185
吉田本町遺跡
吉田上大路町遺跡
403
250
190
190
吉田二本松町遺跡
464
39
聖護院川原町遺跡
白河街区跡
293
32
東光寺跡
477
54
82
358
132
454
140
名勝平安神宮神苑
144
131
111
111
816
330
白河南殿跡
得長寿院跡
聖勝寺跡
法勝寺跡
15
27
28
29
224
436
436
493
493
93
476
延勝寺跡
岡崎遺跡

図版18

107
御土居跡
将軍塚古墳群
115
504
六波羅寺境内
208
189
16
六波羅政庁跡
317
法住寺殿跡
133
237
483
鳥部(辺)野
南日吉町遺跡
264
264
鳥戸野古墳群

209
497
277
92
311
鳥羽遺跡
鳥羽離宮跡
242
543

図版20


190
東土川遺跡
220
8
154
久我神社
155
547
64
522
19
羽東師遺跡
366
121
479
87
長岡京跡
310
310

図版21

上総町遺跡

110

96

104

上京遺跡

寺ノ内旧城

89

204

97

165

上京遺跡

97

213

332

517

281

355

上京遺跡

寺町旧城

51

130

246

公家町遺跡

6

53

大徳寺旧境内

363

181

御土居跡

図版22

344

福西古墳群

217

217

大原野松本遺跡

45

上里北／町遺跡

279

南荒木古墳

2

史跡樫原廃寺跡

122

3

図版23

151

史跡名勝嵐山

嵯峨遺跡

△523

195

嵯峨遺跡

嵯峨折戸町遺跡

490

233

壇林寺跡

481

中久世遺跡

541 283
247 234 339
175 248 502
251 455

506

大藪遺跡

下久世構跡

318

42
41

290

288

長岡京跡

362

図版24

178
457
156
124
69
植物園北遺跡
514
御土居跡
525
540
342
349
546
494
153
194
1

91
特別史跡・特別名勝鹿苑寺
（金閣寺）庭園
918
史跡御土居跡
230
平野神社
北野遺跡
202
上京遺跡
331
489
294
256
260
北野廃寺
2

292

中江古墳群

1

112
216
146
453
31
221
306
中臣十三塚
中臣遺跡
13
254
勧修寺旧境内
329

2

史跡醍醐寺境内
548
3
258

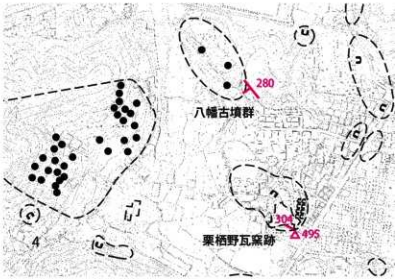
3

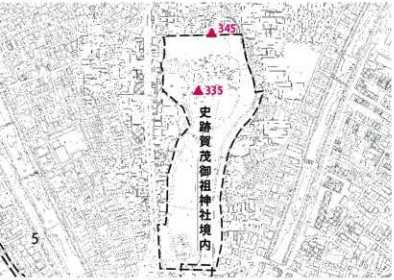
図版26

521
521
521
521
広沢古墳群
1

円乗寺跡
35
492
円宗寺跡
仁和寺院家跡
86
2

471
岩倉中在地遺跡
3


280
八幡古墳群
309
495
栗栖野瓦窯跡
4


345
335
史跡賀茂御祖神社境内
5

462
一乗寺西浦畑町遺跡
6

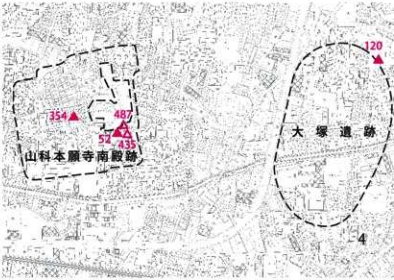
如意寺跡
174
7

法成寺跡
94
寺町旧域
御土居跡
309
8

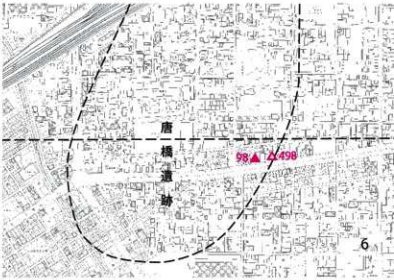
538
法性寺跡
1

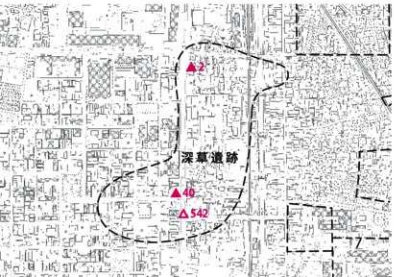
図版27
法性寺跡
328
鳥部(辺)野
2

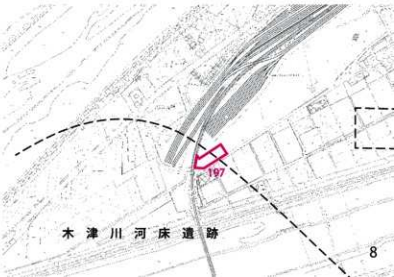
313
西野山古墓
3


120
354
487
52
439
山科本願寺南殿跡
大塚遺跡
4

282
史跡随心院境内
5

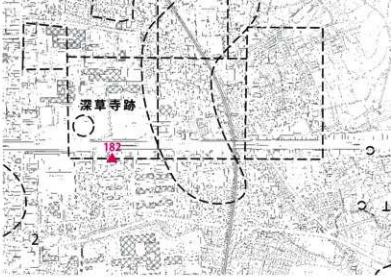

唐橋遺跡
98
490
6


2
深草遺跡
40
542
7


197
木津川河床遺跡
8

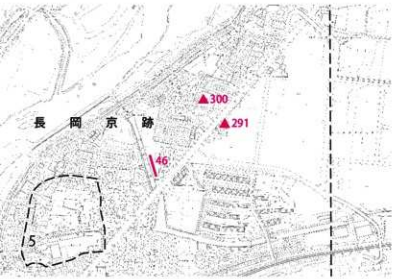
図版28

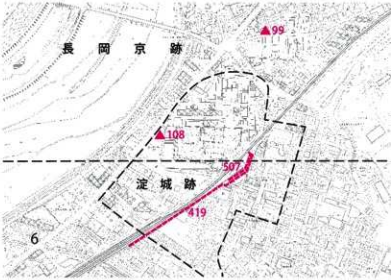
469
伏見稲荷大社境内
稲荷山古墳群
549
1


深草寺跡
182
2

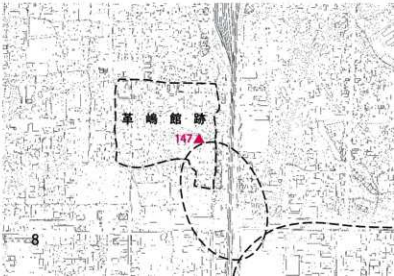
向島城跡
115
3

太閤堤(小倉堤、槙島堤)
409
4


長岡京跡
300
291
46
5


長岡京跡
99
108
淀城跡
507
419
6

史跡・名勝嵐山
嵐山谷ケ辻子町遺跡
303
193
25
7


革嶋館跡
147
8

1　調査区南壁（北から）

2　調査区全景（南から）

1　B - B' 断面（南西から）

2　西堀川完掘（西から）

3　調査区北壁・B - B' 接点（南西から）

1　全景（東から）

2　井戸 02（北から）

1　雨落溝検出状況（南東から）

2　調査区全景（西から）

3　雨落溝検出状況（南東から）

1　No.1 地点全景（南西から）

2　No.2 地点壺堀地業 4（南東から）

1　No.2 地点落ち込み 5（東から）

2　No.3 地点 K-L 断面（南西から）

3

13

5

14

6

20

7

28

11

31

30

32

京都市内遺跡詳細分布調査報告

平成26年度

発行日　2015年３月31日
京都市印刷物　第263246号
発　行　京都市文化市民局
編　集　京都市文化市民局　文化芸術都市推進室　文化財保護課
住　所　京都市中京区河原町通御池下る下丸屋町394
Y・J・Kビル２階
TEL.（０７５）３６６－１４９８
印　刷　サンケイデザイン株式会社
TEL.（０７５）４４１－９１２５